



平成 29 年度
公立大学法人 福岡県立大学
アニュアルレポート

平成 30 年 4 月
公立大学法人 福岡県立大学

内容

理事長・学長メッセージ	1
I. 大学基本情報	2
1. 大学憲章、教育研究上の目的	2
2. キャンパス所在地	5
3. 組織図	6
4. 役員等一覧（理事会・経営協議会・教育研究協議会）	7
5. 教員役職者の任期一覧	8
6. 学部等紹介	8
II. 教職員	19
1. 教員	19
(1) 教員組織	19
(2) 教員の性別構成	19
(3) 教員の年齢構成	19
(4) 任期付教員数	19
(5) 学部	20
(6) 研究科	20
2. 事務職員	21
(1) 事務職員数（組織、補職）	21
(2) 事務職員の採用区分	21
(3) 事務職員の性別構成	21
(4) 事務職員の年齢構成	21
III. 学生	22
1. 学生数	22
(1) 学生定数、学年定員、在籍学生数（県内県外、男女比）	22
(2) 学部卒業生数（4年間で卒業した学生）	23
(3) 大学院修了生数（2年間又は3年間（長期履修）で卒業した学生）	23
2. 学生の異動（退学・除籍・休学・留年）	24
(1) 休学・退学・除籍数	24
(2) 留年数	25
IV. 教育	26
1. 学部	26
(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー	26
(2) 開設科目及び単位数	33
(3) 卒業必要科目及び単位数	44
(4) 全学横断型科目	44
(5) 講義・演習・実習の開講科目数	45
2. 大学院	45
(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー	45
(2) 教育課程及び履修基準	49
(3) 講義・演習・実習の開講科目数	52
3. 学生の単位修得状況	52
(1) 成績評価及び単位認定（学部・研究科）	52
(2) 学部単位習得状況（学科ごとの成績評価とGPA平均値）	53
(3) 大学院単位修得状況（成績評価）	53
4. 教員免許状取得数（高校公民・中学社会・幼稚園教諭・養護教諭）	54
5. 保育士資格取得者数	54
6. スクールソーシャルワーカー教育課程修了者数	54
7. 社会福祉士・精神保健福祉士 国家試験合格者数	54
8. 看護師・保健師・助産師 国家試験合格者数	54

9.	社会調査士資格取得者数	55
10.	上級情報処理士資格取得者	55
11.	認定心理士資格取得者数	55
12.	臨床心理士資格取得者数	55
13.	がん看護専門看護師資格取得者数	55
14.	精神看護専門看護師資格取得者数	55
V.	教育の質の向上及び改善の取組	56
1.	FD活動(学部・研究科)	56
2.	教員個人業績評価結果	56
(1)	趣旨	56
(2)	評価の対象分野・ウエイト等	56
(3)	教員個人業績評価	56
3.	授業評価アンケート	57
4.	卒業時学修到達度調査	59
VI.	入試	66
1.	入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)	66
(1)	学部別入学者受入方針	66
(2)	研究科別入学者受入方針	69
2.	入学者選抜方法	71
(1)	学部別入学試験種別と試験科目	71
(2)	研究科別入試選抜試験科目	73
3.	入試実績	74
(1)	2018(平成30)年度 学部入学試験状況	74
(2)	2018(平成30)年度 学部出身地別入学者数	75
(3)	2018(平成30)年度 大学院入学試験状況	75
4.	入試広報	75
VII.	学生支援	76
1.	学生に対する経済面の援助	76
(1)	奨学金受給実績	76
(2)	授業料減免実績	76
(3)	授業料分割納付実績	76
(4)	学生寮の整備状況及び利用実績	76
2.	学生に対する生活支援(生活、健康、就職等進路、各種ハラスメント等)	76
(1)	保健室利用実績	76
(2)	学生相談室利用実績	76
(3)	GPAに基づいた学習支援対象者数	77
(4)	課外・サークル活動概要	77
(5)	キャリアサポートセンター利用人数実績	79
(6)	就業力向上支援室活動概要	80
(7)	インターンシップ参加者数及び派遣企業・団体数	80
(8)	支援を必要とする学生数	80
(9)	留学生ビジット状況	80
(10)	留学生支援事業実施状況	81
(11)	社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験の受験対策実施状況	81
(12)	看護師・保健師国家試験の受験対策実施状況	81
(13)	公務員講座実施状況	81
(14)	就職対策講座実施状況	81
VIII.	施設・設備	82
1.	講義室等の設置状況	82
2.	施設・設備のバリアフリー化状況	82

3.	自主的な学習活動が可能な施設	82
4.	自由閲覧室利用状況（利用者数）	82
5.	ICT環境（情報処理センター）	83
(1)	情報処理学習施設	83
(2)	無線 LAN アクセスポイント	83
6.	図書館	84
(1)	施設・職員、開館時間	84
(2)	貸出条件	84
(3)	蔵書数	84
(4)	入館者状況	85
(5)	貸出状況（学内・学外者）	85
7.	学生団体が課外活動に利用する施設の整備状況	85
IX.	就職	86
1.	卒業後の状況	86
(1)	学科別就職率及び進学、就職希望者の就職率	86
(2)	学科別所在地別就職先一覧	86
(3)	学科別産業別就職先一覧	87
(4)	大学院課程修了生専攻別就職率及び進学、就職希望者の就職率	87
(5)	大学院課程修了生専攻別産業別就職先一覧	87
X.	研究	88
1.	研究成果の発信	88
(1)	紀要等	88
(2)	附属研究所業務実績報告書等	89
(3)	その他	89
2.	研究奨励交付金決定一覧	90
3.	外部資金等の獲得実績（平成 29 年度受託研究等事業名）一覧	90
4.	科学研究費補助金応募・獲得状況及び外部研究費受入額（各学部）	91
5.	査読付学術書掲載論文数及び学会発表等（各学部）	92
6.	学術賞等の受賞状況	92
7.	受賞論文・国際学会招待研究等一覧	92
8.	国際学会招待研究等一覧	92
9.	特許出願状況	92
XI.	国際交流	93
1.	学部・学年別・国籍別留学生数	93
2.	留学生の受入・派遣	93
(1)	交換留学（受入・派遣）	93
(2)	語学研修実績	93
(3)	留学における単位認定	93
3.	学術交流協定等締結校一覧	93
XII.	社会貢献	94
1.	公開講座等の実施状況	94
(1)	公開講座実施状況	94
(2)	科目等履修生、聴講生、研究生の受入状況	94
(3)	出前講義の実施状況	94
2.	地域貢献活動	95
(1)	生涯福祉研究センター活動概要	95
(2)	ヘルスプロモーション実践研究センター活動概要	95
(3)	不登校・ひきこもりサポートセンター活動概要	96
(4)	社会貢献・ボランティア支援センター活動概要	96

(5) 看護実践教育センター活動概要.....	96
(6) 心理教育相談室実績.....	96
(7) 教員免許更新事業.....	97
3. 学外講義・講演.....	97
4. 審議会・委員会等への参画状況.....	97
XIII. 財務	98
1. 資産と負債の状況.....	98
2. 土地と建物の状況.....	98
3. 自己収入の状況.....	98
4. 外部研究資金の獲得状況.....	99
5. 収支状況.....	99
6. 教育研究経費の状況.....	99
<付録>	100
1. 平成 29 年度における主な取組.....	100
2. 沿革.....	101
3. 歴代学長及び名誉教授一覧.....	104
4. 学年暦.....	106
5. 授業時間割（学部）.....	108

理事長・学長メッセージ



公立大学法人 福岡県立大学
理事長・学長 柴田 洋三郎

本学では平成 18 年の公立大学法人化以降、年度ごとに業務実績報告書を作成し、県評価委員会の法人評価を受け、教育研究業務運営の改善、改革を進めてきました。また、平成 28 年度には、大学改革支援・学位授与機構による機関別認証評価を受審し、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。これら各種の大学評価の基礎資料となるのが平成 25 年度から毎年刊行しているこの「アニュアルレポート」です。このアニュアルレポートのデータ等を用い、本学の自己点検評価はおこなわれてきました。

平成 30 年度から始まりました第 3 期中期計画では、福祉社会の充実に貢献できる専門的支援力を養成し、将来の多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成に向けた取組を推進しています。これからは、従来の自己点検評価の仕組みに留まらず、PDCA サイクルを適切に、かつ常に機能させた「内部質保証システム」を構築・運用することにより、本学のミッションを果たしていくことが重要になってきています。

今後、本レポートが「内部質保証システム」の運用に利活用され、本学の教育・研究・社会貢献活動の更なる質向上に資するとともに、社会にとって「なくてはならない」大学として外部から評価されていくことを願っています。

最後に、本アニュアルレポートの作成にご尽力いただいた関係教職員各位に、心より感謝申し上げます。

I. 大学基本情報

1. 大学憲章、教育研究上の目的

福岡県立大学憲章

福岡県立大学は、地域に根ざし、地域とともに発展する公立大学です。福岡県立大学は、文化の向上、保健・福祉の増進及び地域の発展に寄与する、真理探究の精神と豊かな創造性を身につけた人材の育成にかかる高等教育を推進するため、その構成員である学生、教員、職員が一体となって目指す行動の指針をここに定めます。

(人間性の原則)

福岡県立大学は、人間性に対する深い理解とたゆまぬ向上を志向する人材を育成するため、個人の尊重を中核とした基本的人権の確保、個人の人格および能力の全人的な発達の促進、社会を構築する市民として必要な教養及び倫理の涵養に努めます。また福岡県立大学は、主体的な学びを促進するとともに、そのために必要な環境を提供します。

(地域性の原則)

福岡県立大学は、地域性に対する深い理解を有する人材を育成するため、地域の方々との連携、地域社会における問題の解決及び地域の発展を図る活動に取り組みます。このような活動を行うことで、地域の方々との連携によりその成果を地域に還元する「知の拠点」としての機能を果たします。また福岡県立大学は、構成員の地域活動に対する自発的な参加を促進します。

(専門性の原則)

福岡県立大学は、専門性に対する深い理解を有する人材を育成するため、専門教育の基盤となる研究活動を積極的に行います。教育及び研究においては、学問の自由および自律性を尊重するとともに、新たな知の発展に向けられた自由な創造性・独創性への挑戦を支援します。また福岡県立大学は、専門的職業人として必要な知識、技能及び職業倫理の涵養に努めます。

(多様性の原則)

福岡県立大学は、多様性に対する深い理解を有する人材を育成するため、思想・信条・人種・性別・国籍・民族を含むあらゆる個人および集団の多様性を尊重します。また福岡県立大学は、国際社会における個人及び集団間の理解及び寛容の精神を促進し、持続可能な社会の実現に寄与します。

(一体性の原則)

福岡県立大学は、構成員が一体となって、人間性の原則、地域性の原則、専門性の原則、多様性の原則の実現を図ります。この実現を図るため、福岡県立大学は、構成員の地位及び教育研究組織の自律性を尊重するとともに、教育研究環境の整備に努めます。

教育研究上の目的

【学部】

福岡県立大学は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）及び学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づき、広く知識を授け、実践を重視した専門の学芸を教育研究して、真理探究の精神と豊かな創造性を身につけた人材を育成し、もって文化の向上、保健・福祉の増進及び地域の発展に寄与することを目的とする。

学 部	目 的	
人間社会学部	人間と社会に関する諸科学を学ぶことによって、人間と社会とを総合的に理解し、他の専門職と協働して問題解決に取り組むことのできる心豊かな人材を養成することを目的とする。	
	学 科	目 的
	公共社会学科	現代社会の多様な課題に対応するため、地域社会と国際共生に焦点をあて、公共性に根ざした社会問題解決能力に秀でた人材育成を図ることを目的とする。
	社会福祉学科	複雑・多様化している生活問題（福祉問題）を解決するための科学的知識及び実践力を有する社会福祉の人材を養成することを目的とする。
	人間形成学科	人間の心身の形成過程と教育およびその諸問題に関する総合的な研究・教育を行い、保育・幼児教育または生涯にわたる心理臨床などに携わる専門的な人材を育成することを目的とする。
看護学部	看護学科	幅広い教養と豊かな人間性を備え、看護の専門職としての確かな判断力と実践能力を身につけ、他の専門職と協働し、健康上の課題に主体的・創造的に対応できる人材を育成することを目的とする。

【大学院】

福岡県立大学大学院（以下「本学大学院」という。）は、広い視野に立って専攻分野に関する専門的学術を教育研究し、学術文化の進展に寄与するとともに、社会的な場でその高度な専門的知識を活用し得る指導的人材を養成することを目的とする。

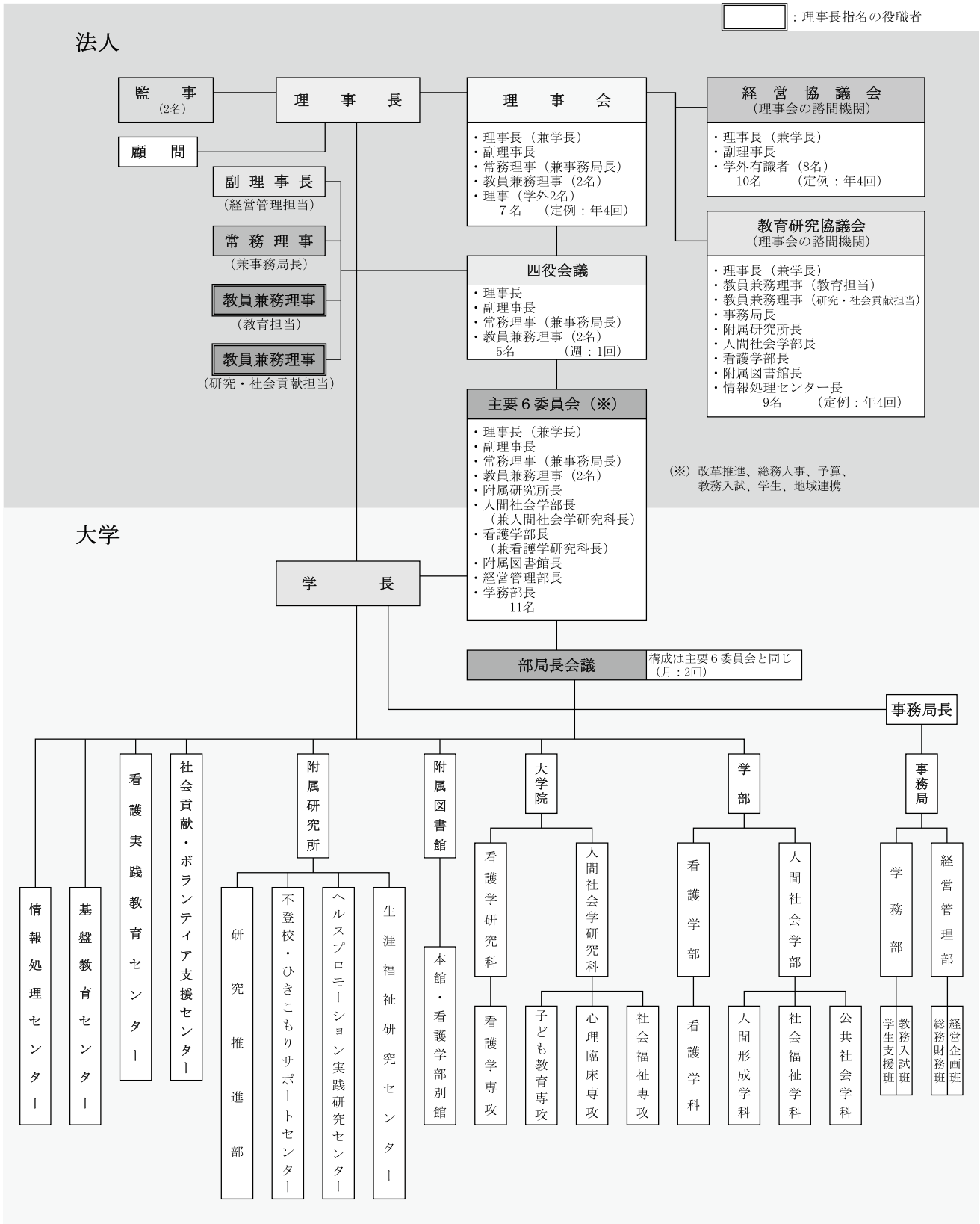
研究科名	目 的	
人間社会学研究科	21 世紀における少子・高齢化、地方分権及び自己実現要求の高まりを踏まえ、高度福祉社会の実現に貢献できる人材の養成を行うとともに、職業人のリカレント教育（学習）の要求に応えることを目的とする。	
	専攻名	目 的
	社会福祉専攻	児童と家族、障害者及び高齢者等の援助を必要とする人びとの生活課題について、個人や家族、集団、地域等における人間関係やサービス利用状況等を含めて全体的に把握することで当事者の育成や保護、介護、社会参加及び自立支援等の在り方を研究することを目的とする。
	心理臨床専攻	心理学全般の領域を関連づけながら、心理臨床に関する知識技能を深め、心理的支援を必要とする人に対するカウンセリングなどの実践能力を身につけ、さらに、他職種とも協働する能力をもつ臨床心理士を養成することを目的とする。
子ども教育専攻	子ども教育分野における人間形成の営みとその諸問題を、保育学・教育学・児童福祉学及び関係諸科学から研究し、子ども教育分野の高度な専門職業人及び研究者を育成することを目的とする。	
看護学研究科	看護学専攻	地域の保健・医療・福祉分野の施策展開を推進する中核的担い手である高度専門職業人としての看護職者や、看護学の創造と発展に貢献できる研究者・教育者を育成することを目的とする。

2. キャンパス所在地



〒825-8585 福岡県田川市大字伊田 4395 番地

3. 組織図



4. 役員等一覧（理事会・経営協議会・教育研究協議会）

○理事会

任期 平成28年4月1日～平成30年3月31日

役職名	氏名	所属団体・役職名
理事長	柴田 洋三郎	福岡県立大学 学長兼務
副理事長	松本 次好	福岡県立大学
常務理事	吉村 静男	福岡県立大学 事務局長兼務
理事（教員兼務理事）	石崎 龍二	福岡県立大学人間社会学部 教授
理事（教員兼務理事）	松浦 賢長	福岡県立大学看護学部 教授
理事	芳賀 晟壽	社会福祉法人年長者の里 理事長
理事	古野 金廣	(株)麻生 代表取締役専務 (平成28年5月1日就任)
監事	古本 栄一	古本法律事務所
監事	梅田 久和	梅田公認会計士事務所

○経営協議会

任期 平成28年4月1日～平成30年3月31日

役職名	氏名	所属団体・役職名
理事長	柴田 洋三郎	福岡県立大学 学長兼務
副理事長	松本 次好	福岡県立大学
委員	秋吉 一明	福岡県立大学と共に歩む会 会長
委員	川上 鉄夫	福岡県立大学同窓会 会長
委員	北原 守	社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会(親の会)顧問
委員	佐藤 博英	福岡県立田川高等学校 校長
委員	齋藤 明	前 独立行政法人大学入試センター 監事
委員	谷口 金蔵	田川商工会議所 会頭
委員	二場 公人	田川市長
委員	吉村 恭幸	(一社)福岡県社会保険医療協会 会長

○教育研究協議会

任期 平成28年4月1日～平成30年3月31日

役職名	氏名	役職名
理事長	柴田 洋三郎	福岡県立大学 学長兼務
委員	赤司 千波	看護学部長兼看護学研究科長
委員	田中 哲也	人間社会学部長兼人間社会学研究科長
委員	石崎 龍二	教員兼務理事
委員	永嶋 由理子	附属研究所長
委員	郝 暁卿	情報処理センター長
委員	福田 恭介	附属図書館長
委員	松浦 賢長	教員兼務理事
委員	吉村 静男	事務局長

5. 教員役職者の任期一覧

(平成29年4月1日現在)

役職名	氏名	任期	任期の期間
学長	柴田 洋三郎	2年	平成28年4月1日～平成30年3月31日
人間社会学部長 兼大学院研究科長	田中 哲也	2年	平成28年4月1日～平成30年3月31日
看護学部長 兼大学院研究科長	赤司 千波	2年	平成28年4月1日～平成30年3月31日
附属研究所長	永嶋 由理子	2年	平成28年4月1日～平成30年3月31日
附属図書館長	福田 恭介	2年	平成28年4月1日～平成30年3月31日
看護実践教育センター長	赤司 千波	2年	平成28年4月1日～平成30年3月31日
生涯福祉研究センター長	神谷 英二	2年	平成28年4月1日～平成30年3月31日
ヘルスプロモーション実践研究センター長	尾形 由起子	2年	平成28年4月1日～平成30年3月31日
不登校・ひきこもりサポートセンター長	本郷 秀和	2年	平成28年4月1日～平成30年3月31日
社会貢献・ボランティア支援センター長	原田 直樹	2年	平成28年4月1日～平成30年3月31日
情報処理センター長	郝 曉 卿	2年	平成28年4月1日～平成30年3月31日

6. 学部等紹介

【人間社会学部】

〈公共社会学科〉

多様性を持った人々が、その多様性を保ちつつ、ともに安心して生活できる社会が高度福祉社会です。ゆたかな高度福祉社会の形成は、日本の各地域においても国際社会においても、重要な課題となっています。本学公共社会学科は、公共社会学の考え方を地域社会と国際共生の現場にできる限り近づけ、より現実に着目して具体的な課題解決力を高めることを目標としています。

公共社会学科で重視しているのは以下の4点です。

- ①公共性、地域社会、国際共生の視点を備える。
- ②コミュニケーション能力、リサーチ能力、ITスキルを習得する。
- ③社会のニーズを的確に把握する分析力をつける。
- ④問題解決への企画・提案力や調整力の基礎を培う。

これらの能力を基礎に、高度福祉社会を構築する実践的なプランナーとしてリーダーシップをとれる人材の育成を目指します。卒業後は次のような分野などで活躍が期待されます。

- ・地域資源（人、もの、文化、自然）をコーディネートし、地域づくりや地域活性化にかかわる。
- ・国際関係を踏まえた共生のあり方を学び、国際協力を積極的に貢献する。
- ・社会的企業（ビジネスモデルを活用した社会事業団体）で活躍する。
- ・国内外に展開している民間企業で活躍する。

〈社会福祉学科〉

社会福祉学とは、さまざまな生活上の困難をかかえる人々を支援し、その問題解決のために必要な制度・政策、そして具体的援助方法を学ぶ学問です。

今日の急激な社会変化のなかで人々が直面する生活問題は複雑多様化しています。こうした状況に対応するため社会福祉が対象とする領域はますます幅広くなると同時に社会福祉学への社会的な期待も一層高まっているのが現状です。従って社会福祉を学ぶためには、

- (1) 人間と社会への深い関心と理解を持つ。
- (2) 人びとの生活の実態に触れ、その生活上のニーズを正確に把握する。
- (3) 社会福祉の制度・政策やその仕組みについて理解する。
- (4) 社会福祉施設・機関の援助活動や個別の問題解決を目指す社会福祉実践の内容や方法を具体的に理解する。などが必要です。

さらに、社会福祉の援助サービスは人と人との関係を通して展開されるため、援助者には何よりも豊かな人間的資質と生活問題 に対する客観的・科学的理解が求められます。

<人間形成学科>

人間形成学科は、人間の心身の形成過程と教育およびその諸問題に関する総合的な研究・教育を行う学科です。本学科は、保育・幼児教育または生涯にわたる心理臨床などに携わる専門的な人材を育成することを目的としています。本学科を卒業した学生には、学士（教育学）の学位が与えられます。

そのため、人間形成学科では、すべての学生が教育学に関する基本的な知識を修めます。その上で、自分の学びたい内容、専門性を深めていけるように、学科独自のコースを設定し、コースごとに教育カリキュラムを編成しています。また、両コースの学生が自分の興味に応じて、社会教育学に関する授業科目を自由に選択することも可能です。なお、平成 28 年度以降に入学した学生は、3 年次から「総合人間社会コース」を選択することができます。

[心理コース]

このコースは、卒業後に公務員・企業・病院などで相談業務に就くことを目指したり、大学院に進んで心理臨床活動や心理学研究することを旨とする人のコースです。

[こどもコース]

このコースは、保育士および幼稚園教諭を養成することを主たる目的としています。

<総合人間社会コース>

総合人間社会コースとは、福祉社会において幅広く役に立つ知識やスキルを身につけることにフォーカスした授業で構成される「プログラム」に沿って教育を行うコースです。総合人間社会コースを選択した学生の学科所属や、卒業に必要な単位数等は変わりません。人間社会学部で卒業論文まで執筆することができるよう編成されたプログラムとして、「保健福祉情報教育プログラム」と「キャリア形成支援プログラム」が開設されています。

総合人間社会コースは、3 年次から選択することができるコースで、平成 28 年度以降の入学生が対象となります。コースの選択は 3 年次からですが、1・2 年次にもコースの専門教育科目や関連する全学共通科目があります。3 年次のゼミは各プログラムに沿った内容になりますので、できるだけ事前に履修することを推奨しています。

総合人間社会コースでは、全学横断型教育プログラムに沿った履修モデルにより、マネジメント能力のある専門的職業人の養成を目指しています。

「保健福祉情報教育プログラム」では、保健福祉(保健、医療、福祉、教育、心理、社会、経済等)分野の専門家として、調査・研究を行う際に、必要不可欠となる統計的手法や高度な情報技術を修得するために、統計学、情報学を系統的に学ぶことができます。

「キャリア形成支援プログラム」では、キャリア形成に関する科目を段階的に履修することで、保健福祉等に関する学科専門領域ごとの科目修得と併せて体系的な知識と実践的スキルの修得をはかります。

【看護学部】

<看護学科>

看護学部看護学科では、幅広い教養と豊かな人間性を備え、看護の専門職としての確かな判断力と実践能力を身につけ、他の専門職と協働し、健康上の課題に主体的・創造的に対応できる人材を育成することを目的としています。

看護学部看護学科は、「基盤看護学系」、「臨床看護学系」、「ヘルスプロモーション看護学系」の3学系で構成されています。

[基盤看護学系]

基盤看護学系は、根拠のある看護(Evidence-based Nursing)を実践する基礎的学習を行う「実験看護学」、看護の本質について科学的かつ系統的に学ぶ「基礎看護学」、看護の教育的・管理的機能を学ぶ「臨床機能看護学」の3つの専門領域で構成されています。

[臨床看護学系]

臨床看護学系は、成人期の人々の特性と健康問題・健康障害とそのケアを学ぶ「成人看護学(慢性期)」及び「成人看護学(急性期)」、老年期の人々と家族の特性と健康問題・健康障害とその支援を学ぶ「老年看護学」、様々な人々の精神の健康とセルフケアレベルに合わせた看護を学ぶ「精神看護学」、女性の生涯における健康支援を学ぶ「女性看護学」、子どもの多様な健康問題と看護を学ぶ「小児看護学」の6つの専門領域で構成されています。

[ヘルスプロモーション看護学系]

ヘルスプロモーション看護学系は、WHO(世界保健機構)の提唱するヘルスプロモーションの理念をベースとした学系です。「人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようにするプロセス」とするヘルスプロモーションの概念のもと、すべての人々があらゆる生活舞台—労働・学習・余暇—で健康を享受することのできる公正な社会の創造することを目指した看護について学びます。地域で暮らす人々の健康課題を解決できる実践力を身につけた保健師を養成する「公衆衛生看護学」、住みなれた家で療養者と家族が安心・安楽に生活できる支援するための看護を学ぶ「在宅看護学」、看護を基盤とした養護教諭を養成する「学校保健」、そしてヘルスプロモーション実践研究センターの4領域から構成されています。

【基盤教育センター】

基盤教育センターは、人間社会学部と看護学部の両学部の専任教員がセンター員として任命され、全学共通科目(基礎科目、教養科目)の充実と改善に力を入れています。

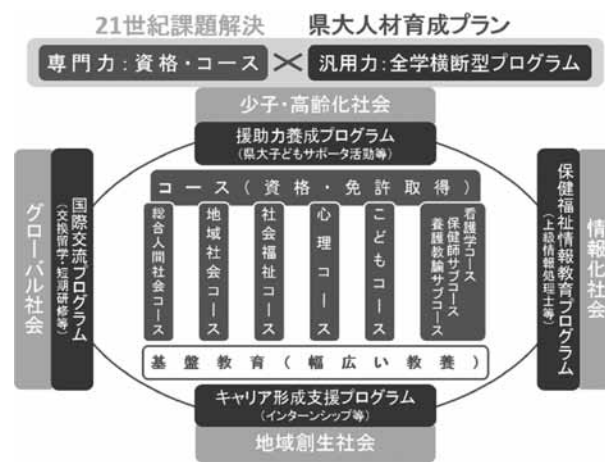
教養科目を各学部・学科における専門教育の基礎となる科目と、専門的職業人・社会人として求められている教養を身につけることを主たる目的とした科目とに分け、その充実と改善を図っています。生命科学や心理学など福祉・看護領域の専門教育に不可欠な教育を充実させるとともに、経済や社会、人権や環境問題、人間関係から性や性差の問題など、地域における福祉社会の担い手となる、福祉・看護領域における専門的職業人に求められる深い教養や豊かな人間性を養うための幅広い教養科目を用意しています。

基礎科目では新入学生が大学での教育に速やかに移行できるための導入教育、大学での学習や社会人・職業人としての生活に欠かせない情報処理教育、国際化時代に対応するための英語やアジアを中心とした語学教育、学習や実社会において欠かせない体力維持・健康増進を目指した健康科学など、生涯学習の基盤を提供しています。

これらの目的を達成するために、特に入口としての導入教育には力を入れており、新入学生が速やかに大学での学習に入ることができるように、小規模大学の利点を生かした少人数のゼミナール形式でレポート作成法の指導や添削等を行う「教養演習」を行っており、本学の学生ニーズに対応した独自のテキストを出版して指導に役立てるなど、きめ細やかな教育に努めています。

全学横断型教育プログラム

本学は学生の教育を第一におき、21世紀の未来社会に活躍するリーダーとなる人材の育成を目指して、平成27年度の新入生から、教育の中核となる国家資格の取得を目指す、「コース」履修を縦糸に、卒業後には、将来のいかなる社会の変動に対しても適切に対応できる、潜在的な能力、いわゆる社会人基礎力を身につけるための「プログラム」教育を横串に通して、4年間で「コース・プログラム」の縦糸と横糸で織り成す多元的修学体制を構築する教育改革を進めています。



現在、以下の4つのプログラムを各学習段階に応じて選択履修できます。

〈保健福祉情報教育プログラム〉

保健福祉分野での課題解決に、統計学、情報学の知識やスキルを応用できる力を養成

〈援助力養成プログラム〉

子どもへの支援活動を通じて、「対人援助力」を養成

〈国際交流プログラム〉

異文化との交流体験を通して、「コミュニケーション力・理解力」を養成

〈キャリア形成支援プログラム〉

1年次から4年次まで系統的キャリア支援を行い、「就業力」を養成

【人間社会学研究科】

(1) 設置の趣旨

ここ数年、社会状況が大きく変化し、少子・高齢化、地方分権化、自己実現要求の高まりに伴って、地域政策、福祉政策、生涯学習、対人援助に関わる高度な専門的知識・技術を持った職業人が必要とされるようになってきました。特に、これらの専門的知識を統合させ、地域において高度福祉社会の実現に貢献できる人材の養成を行うことが求められています。そこで、人間社会学部を基礎とし、より一層の専門性を持った人材の養成と、職業人のリカレント教育の要求に応えることを目指し、平成9年に大学院修士課程人間社会学研究科を設置しました。

(2) 各専攻の構成と特色

〈社会福祉専攻〉

(1) 構成

社会福祉専攻では①社会福祉分野、②地域社会分野の2分野で構成されています。研究内容は相互に関連し、学術研究の連携を図ります。

(2) 特色

1. 社会福祉分野では、児童と家族、障害者、高齢者等の援助を必要とする人々の生活課題について、個人や家族、集団、地域等における人間関係やサービス利用状況等を含めて全体的に把握することで、利用者の援助、介護、社会参加や自立支援のあり方等を研究します。
2. 地域社会分野では、地域開発、住民の生活と福祉、地域社会の産業・雇用の促進等を目指す地域政策を研究し、また地方自治体における社会福祉の政策・制度、福祉計画等についての問題を追求します。

〈心理臨床専攻〉

(1) 構成

心理臨床専攻は、生涯発達に対する要求を持った人々の心理的側面を支える人材の養成を目指します。心理学の基礎的側面の学習とともに、心理的支援を必要とする人に対するカウンセリングなどの実践能力を育成します。本専攻は、平成22年度より日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院です。

(2) 特色

1. 教育、医療、福祉領域で十分に活躍できる臨床心理士を養成することを目指しています。本専攻では、心理臨床の専門性を高めながら、教育や福祉、医療の分野で他の専門的職業人と協働していける臨床心理士の養成を目指します。そのために、教育、福祉、医療に関する科目を他の専攻等から履修できるようにしています。
2. 実践的な技能のみならず研究についての能力も育成します。1年次より特別研究を課し、心理臨床についての主体的に研究する能力を育成します。
3. 実習は、学内や協力病院などで2年間にわたって行います。心理療法や心理査定についての基本的な技能を実践的かつ体系的に身につけられるように配慮します。

〈子ども教育専攻〉

(1) 構成

子ども教育専攻では、保育・幼児教育及び小学校段階を中心とする子ども教育分野における人間形成の営みとその諸問題を、保育学・教育学、児童福祉学及び関係諸科学から研究し、理論と実践の往還と融合か

ら、高度な専門的知識だけでなく、様々な教育課題の解決に資する優れた課題解決能力や、教育現場で中核的な役割を担える質の高い実践的指導力を身に付けます。

(2) 特色

1. 本専攻では、子ども教育分野の高度な専門職業人及び研究者を育成とすることを目的としています。
2. 子ども教育に関わる先進的な取り組みの事例の研究などを通じて、保幼小連携の強化への取り組みに対応できるような幅広い専門的知識を修得します。
3. 子どもに関わる今日的な教育課題や地域における教育課題を自ら見出し、保育者・教員などの高度専門職業人として必要な、優れた問題解決能力を修得します。
4. 子ども教育の現場での実践実習はと大学院における理論学習の往還を重ねて、必要とされる質の高い実践的指導力を修得します。

【看護学研究科】

(1) 設置の趣旨

少子高齢社会を背景にし、看護の活動領域と内容にはますます広がりを見せ、多種多様化してきています。これからの看護職(保健師、助産師、看護師)は、それぞれの専門性を生かし、地域内外、施設内外において他の職種と連携をとりつつ、地域住民の健康状況やケアの必要性を的確に判断し、エビデンスのある適切なケアを提供することが求められています。従来以上に主体性や創造力を発揮し、高い倫理観をもって、対象とする人々に対する深い理解に裏打ちされた質の高い看護実践能力とマネジメント能力が必要とされるようになってきています。

本学では看護学部と人間社会学部が併設されている点を最大限活かし、地域の保健・医療・福祉分野の施策展開を推進する中核的な担い手である高度職業人としての看護職や、研究者・教育者を養成することを目指し、大学院修士課程看護学研究科を設置しました。

(2) 看護学専攻の構成と特色

看護学専攻は、研究コース、専門看護師コース、助産実践形成コース、助産実践アドバンスコースの4つのコースから成り立っています。研究コースには基盤看護学、ヘルスプロモーション看護学、臨床看護学、助産学の4つの領域、専門看護師コースには臨床看護学領域、助産実践形成コースと助産実践アドバンスコースには、助産学領域があります。

研究コースの基盤看護学領域は、看護教育学、基礎看護学、看護心理学、実験看護学、ヘルスプロモーション看護学領域は、思春期ヘルスプロモーション看護学、地域看護学、在宅看護学、臨床看護学領域は、成人看護学、老年看護学、精神看護学、小児看護学、助産学領域は、助産学で構成されています。また、専門看護師コースの臨床看護学領域は、老年看護学、精神看護学で構成されています。

〈研究コース〉

研究コースでは臨床看護や看護教育を、根拠をもって行うことにつながる基礎的な研究や、看護学や看護教育学の発展につながる研究を行う能力を培い、医療機関等や教育機関あるいは行政機関で、組織の管理者や教育者として看護の質の向上や看護教育の質の向上に寄与しうる人材の育成を目指しています。

〈専門看護師コース〉

専門看護師コースは、精神看護と老年看護で構成されています。老年看護では、認知症看護と終末期看護の2つのサブスペシャリティを、精神看護では、地域精神看護(精神障害者の地域移行・地域定着看護)と

リエゾン精神看護（一般身体疾患を持つ人の精神的な問題に対する看護）のいずれかを修得できます。学生の皆さんが自己の専門看護師としての将来像を描きやすいように、在学中・修了後を通して多くのエキスパートの専門看護師と出会う機会を提供していることも当コースの大きな魅力の一つです。

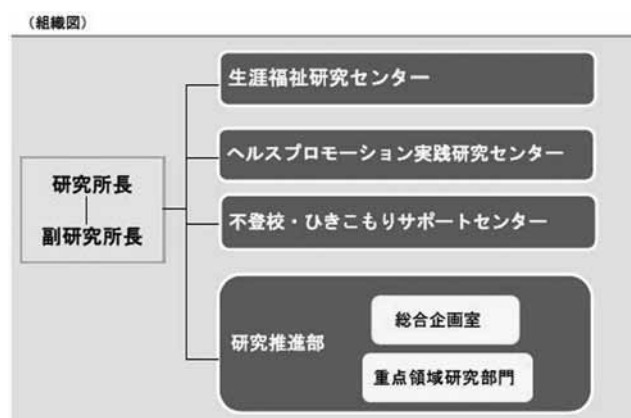
〈助産実践形成コース〉

助産実践形成コースは、周産期の様々な課題に対応するため高度で自律した助産実践能力を身につけた助産師の育成を目指すコースであり、助産師国家試験受験資格を取得することができます。また規定の科目を習得することで、受胎調節実地指導員申請資格・新生児蘇生法「専門」コース認定申請資格も取得することができます。

〈助産実践アドバンスコース〉

助産実践アドバンスコースは、助産師の有資格者（助産師としての実務経験3年以上）を対象として、助産実践力の向上とともに臨床での助産実践を実証していく能力の育成を目的としたコースです。助産実践における課題を探究する能力を習得するとともに、専門領域における実習を通して、高度な助産実践能力の習得を目指します。

【附属研究所】



研究推進部

附属研究所は、研究機能の強化を図ることを目的として、平成28年度より新たに「研究推進部」を設置しました。研究推進部は、主として統合的な研究・調査の企画を担当する「総合企画室」及び専ら統合的な研究・調査を実施する「重点領域研究部門」から構成されています。本学の保健・医療・福祉分野における強みを活かし、研究推進部が企画、実施する統合的な研究・調査を充実させ、十分な成果を挙げていくことができるよう取り組んでいます。

生涯福祉研究センター

福岡県立大学の開学理念には、「地域に開放され、具体的な課題に関する研究を充実し、地域に貢献できる研究がなされること」が謳われています。

生涯福祉研究センターは、この理念を実現するための学内組織機関として1998(平成10)年4月1日に設立されました。福岡県立大学の独立行政法人化後は附属研究所内に位置づけられて今日に至ります。

生涯福祉研究センターの具体的な目標としてあげられているもののうち、主なものは、

(1) 生涯発達、地域福祉、地域政策に関する県民の意識と関心を高めること、

(2) 特に筑豊地区を中心とした地域社会の成熟と発展に向けた研究・地域支援サービス、情報発信活動をおこなうこと、です。

これらの目標を実現するために、生涯福祉研究センターは学際的研究という方針で進みます。他大学に所属する研究者、さらには自治体の職員、福祉の現場に出ている方々、在野の有識者などとも手を取り合って、ひろく多面的な立場から共同研究を展開しています。それと同時に、公開講座やリカレント講座などの教育研修事業、おもちゃとしょかんや子育てサークルの支援などの地域支援活動、産学官連携の取り組みなども展開しています。

〈主な地域支援活動〉

○おもちゃとしょかん・たがわ

乳幼児や発達が気になるお子さんにおもちゃの貸し出しおよび遊び場の提供をおこなっています。

○お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）

発達に遅れのあるお子さんをお持ちの親御さんのための学習室です。

○足と靴の相談室

自分にあった靴を探している方、足に痛みを感じ足の調子がスッキリしない方、タコ、魚の目がいつもできて困っている方、ご相談ください。

○福岡県立大学福祉用具研究会

福祉用具や介護方法に関する自主研究会を NPO 福祉用具ネットと開催しています。

○地域に住む外国人のための「日本語教室」

地域に住む外国国籍の方達を対象とした日本語教室です。この教室はボランティアの皆さんによって運営されています。

○「アドボチャイルド」——子どもの声を聴くことのできる大人養成講座——

地域の方々と共に、子どもたちを取り巻く問題について学び合い、地域の実態に応じた、今後の子ども支援のあり方を考えます。

ヘルスプロモーション実践研究センター

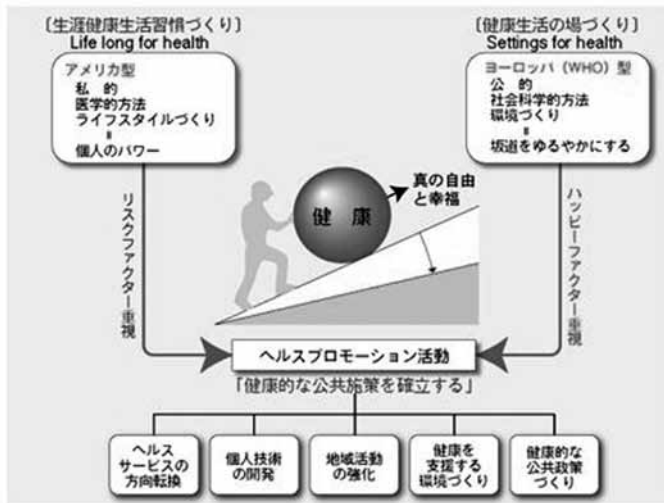
福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センターは、人々の健康を増進することを目的として、地域住民の方々の生涯学習を推進し、健康に関する包括的な支援を行います。また、そのための人材育成と、多職種連携を中心とした実践的研究を行います。

具体的には以下の取組みを実施しています。

〈活動内容〉

1. 地域住民の方々が健康の重要性を認識し、積極的に健康対策に取り組めるようなテーマのセミナーやフォーラムの開催
2. 地域住民の方々や健康に関与する他職種が連携する研修会の実施
3. こども達、妊婦さんや子育て中のお母様方、お年寄りの方々などのライフステージに応じた支援・教育の実施

例えば、こども達の健康に対する支援、こどもを産み育てるための家族への支援、高齢者への支援、在宅療養生活を支えるための支援を実践することで、人々の健康を守り、豊かな生活を支えるために貢献したいと考えています。



(島内憲夫 1987 / 島内憲夫・高村美奈子 2004 改編)

不登校・ひきこもりサポートセンター

福岡県立大学「不登校・ひきこもりサポートセンター」は、不登校やひきこもりに悩む子どもたちの将来の社会的自立を目標にした、専門的な支援をおこなう機関です。

子どもの状態に応じた個別や集団による直接的な支援とともに、保護者や家庭への支援、学校や適応指導教室への支援、他の専門支援機関との地域連携ネットワークの強化など、子どもと子どもを取り巻く環境の双方に必要な支援をします。

福岡県立大学には、福祉・保健・心理・教育などの分野から、不登校・ひきこもりの支援を研究する専門的教員が多くいます。これら専門教員と県立大で学ぶ大学生、大学院生、そしてサポートセンターの専門職員が一体となり、「相談部門」「連携サポート部門」「情報発信・研修部門」「教育・社会支援部門」の各部門を連動させ、総合的な支援をおこないます。

<事業内容>

サポートセンターの事業のご紹介

福岡県立大学附属研究所
不登校・ひきこもりサポートセンター

<p>相談部門</p> <p>面接相談事業 専任の臨床心理士等が、不登校に関する相談をお受けいたします。まずはお気軽にお問い合わせください。</p> <p>電話相談事業 専任の臨床心理士や教育の専門家等が、不登校に関する電話相談をお受けいたします。</p> <p>連携機関紹介事業 相談の内容から、より適切と判断した相談機関をご紹介します。</p>	<p>連携サポート部門</p> <p>県大こどもサポーター派遣事業 県立大で学ぶ大学生が、子どもを支えるサポーターとして学校や適応指導教室、アリススクールなどを訪問します。</p> <p>キャンパスキッズ 不登校の子どもたちがセンターに来て、子どもサポーターと一緒に活動(個別)対応するプログラムです。この活動で出席の多いにしていた学校が帰ってきています。</p> <p>個別サポートチーム構築事業 不登校の子どもをサポートする関係機関のネットワークを構築します。</p> <p>適応指導教室等支援事業 県立大で専門に研究する教員や専門員が、適応指導教室等の指導方法についてアドバイスをします。</p> <p>実践研究支援事業 不登校に関する実践研究をおこなう学校に対し、県立大で専門に研究する教員がアドバイスをします。</p> <p>教師の居場所づくり事業 不登校の対応に苦慮する教師の情報交換や連携の促進、サポートチームの会議の場を提供します。</p>	<p>情報発信・研修部門</p> <p>ホームページ発信事業 不登校に関する様々な情報を収集し、ホームページで発信します。</p> <p>対応マニュアル作成事業 不登校に関する啓発ビデオや対応のためのマニュアルを作成します。</p> <p>調査研究事業 不登校に関する実態調査や意識調査などを通して、不登校問題の研究を進めます。</p> <p>公開講座・ワークショップ 不登校に関する教育講座やワークショップをおこないます。</p> <p>研修受け入れ事業 教育機関等の関係機関からの研修員を受け入れます。</p>
<p>教育・社会支援部門</p> <p>キャンパススクール 子どもたちへの学習支援や心理的サポートとともに、グループワークによりソーシャルスキル等の向上を図ります。</p> <p>家族支援 不登校でひきこもりに悩む子どもの家庭訪問や保護者のための自助グループ運営をおこないます。</p> <p>社会的自立支援 不登校の高校生やひきこもりに悩む高校中退者等に対して、進路決定の意識づけと具体的な支援をします。</p>		

Center for School and Child Support Network

【附属施設】

附属図書館

本学の図書館は、学生の学習支援・教員の教育及び研究支援・地域の図書利用者に対する支援などを主な目的として本館と分館が設置されています。

本学の図書館では、本館・看護学部分館あわせて約 17 万冊の蔵書および 49 台のノートパソコンがあり、学生のアクティブ・ラーニングをサポートしています。

分館には学生の多様な学習スタイルに対応するため、新しい学びの広場としてラーニング・コモンズが設置され、学生の「学び」の創造が促進されるよう取り組んでいます。

また、本学では学生が自らの目線で図書館の本を直接書店で選ぶ等により、学生たちの図書館の利用促進へと繋げることを目的とする「選書ツアー」を毎年企画し、学生の図書館への関心が高まるよう努めています。

このように、図書館を多様な学習の場として認識し、身近な存在としてより多くの学生が利用できるような図書館づくりを行っています。

情報処理センター

情報処理センターは、下の 3 つの役割に寄与することを目的として設置されています。

- * 学内情報ネットワークシステム（学内 LAN : Local Area Network）の管理
- * 情報処理および統計処理スキル向上の支援
- * 学生の情報処理教育の向上

情報処理センターでは、インターネットを通じて学内外の情報を収集したり発信したりするために、学内 LAN を構築し、その管理運営を行っています。また、学内の全学生、教職員のメールアドレスを管理し、大学のホームページの管理を行っています。学内 LAN には、図書館を含む学内のほぼ全てのコンピュータが接続されていて、その役割は年々重要なものになってきています。その意味で学内 LAN の利便性とともな安全性の向上は重要な課題です。そのために定期的なネットワークの再構築は欠かせません。また、学生への情報処理教育や学生が自由に活用できる施設の充実を図るため、定期的に機器更新を行っています。

また、学生の自習環境を整備するため、平成 22 年度から e ラーニングシステムの全学的導入を行いました。

社会貢献・ボランティア支援センター

社会貢献・ボランティア支援センターは、ボランティア活動を中心とした本学の学生の様々な社会貢献・ボランティア活動を支援する取り組みを進めています。

具体的には、ボランティア活動を希望する学生に様々な情報を提供し、ボランティア活動を募集・依頼したい地域の団体・機関と学生をつなぐ役割を果たします。また、活動を行う学生の様々な相談に応じながら、活動が学生にとっての貴重な「学びの場」となるよう支援していきます。さらに、社会貢献・ボランティア活動に関する研修会や報告会等の企画・実施などにも取り組んでいます。

<主な事業内容>

1. 学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施
 - ・学生の社会貢献・ボランティア活動を求める外部団体の情報を学生に提供

- ・社会貢献・ボランティア活動を希望する学生の相談に応じ、学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施
2. 社会貢献・ボランティア活動を行う学生グループへの支援
 - ・学生グループの活動の場の提供
 - ・学内の学生ボランティアサークルの課題を把握、支援
 - ・外部団体等の社会貢献活動に参加・協力する学生グループに対し、地域の関係団体との連絡調整、相談対応、アドバイス等の支援
 3. 学生の社会貢献・ボランティア活動の普及と質の向上
 - ・社会貢献・ボランティア活動に関する研修会や報告会等を企画・実施

看護実践教育センター

福岡県立看護実践教育センターは、人が「生活者」として生きていくその生き方を支える看護のあり方を追求し、地域社会との連携のもとに、多面的な視野に立って人間と健康に関わる問題を解決できる、看護実践の中核的な役割を果たす看護職が育つ教育を目指しています。平成20年11月に糖尿病認定看護師の養成を中心とした看護実践教育を行い10年になります。この卒後教育を実施することにより、より高度な看護実践が臨地にて展開されることを目的としています。

現在は、全国で2校の教育機関が、我が国における糖尿病看護認定看護師を育成しております。本校では、少人数教育によるきめ細かな教育をモットーにし、最新の糖尿病看護を優秀な学内講師及び学外講師陣により学べる体制をとっています。

II. 教職員

1. 教員

(1) 教員組織

(平成29年5月1日現在)

組織		人数	
		うち大学院と兼務	
大学	人間社会学部	50	28
	看護学部	60	39
大学院	人間社会学研究科	28	
	看護学研究科	39	
附属研究所		1	
看護実践教育センター		2	
合計		113	

(2) 教員の性別構成

(平成29年5月1日現在)

職位	男		女		合計
	人数	合計に占める割合	人数	合計に占める割合	
教授	16	64.0%	9	36.0%	25
准教授	15	48.4%	16	51.6%	31
講師	13	52.0%	12	48.0%	25
助教	1	5.0%	19	95.0%	20
助手	1	8.3%	11	91.7%	12
合計	46	40.7%	67	59.3%	113

(3) 教員の年齢構成

(平成29年5月1日現在)

職位 年齢	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	全体に占める割合 (%)
25～29			1		1	2	1.8%
30～34			1	2	2	5	4.4%
35～39			5	7	2	14	12.4%
40～44	2	7	11	7	3	30	26.5%
45～49	3	9	6	1		19	16.8%
50～59	13	13		3	4	33	29.2%
60～64	6	2	1			9	8.0%
65～	1					1	0.9%
合計	25	31	25	20	12	113	
平均年齢	52.9	49.2	41.8	41.4	42.0		

(4) 任期付教員数

(平成29年5月1日現在)

組織	教授		准教授		講師		助教		助手		合計	
	人数	(総数)	人数	(総数)	人数	(総数)	人数	(総数)	人数	(総数)	人数	(総数)
人間社会学部	6	(17)	12	(18)	10	(11)	2	(3)	0	(1)	30	(50)
看護学部	3	(7)	7	(13)	9	(14)	15	(15)	11	(11)	45	(60)
人間社会学研究科	5	(12)	7	(10)	5	(5)						
看護学研究科	3	(7)	6	(12)	9	(14)	6	(6)				
附属研究所	1	(1)									1	(1)
看護実践教育センター							2	(2)			2	(2)
合計	10	(25)	19	(31)	19	(25)	19	(20)	11	(12)	78	(113)

※研究科の教員は学部との兼任。合計は学部と看護実践教育センターの人数。

(5) 学部

① 学部別専任教員（助教以上）の現員

(平成29年5月1日現在)

学部	学科	現員				計
		教授	准教授	講師	助教	
人間社会学部	公共社会学科	6	10	4	0	20
	社会福祉学科	5	3	3	1	12
	人間形成学科	6	5	4	2	17
看護学部	看護学科	7	13	14	15	49
合計		24	31	25	18	98

② 採用実績

	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
H24年度	1	1	1	1	1	5
H25年度	3	0	1	0	1	5
H26年度	1	1	3	1	1	7
H27年度	0	1	5	2	3	11
H28年度	2	3	1	1	3	10
H29年度	0	2	4	2	5	13
合計	7	8	15	7	14	51

③ 専門科目における主要科目（必修科目）の専任教員担当状況

学部	学科	主要科目数	主要科目の専任教員担当の科目数	主要科目で非常勤対応の科目数
人間社会学部	公共社会学科	9	9	0
	社会福祉学科	6	6	0
	人間形成学科	8	7	1
看護学部	看護学科	66	61	5

④ 学部別教育補助者（助手・TA）配置数

(平成29年5月1日現在)

学部	現員
人間社会学部	3
看護学部	11

⑤ 非常勤講師の人数と時間数

学部	人数	時間
人間社会学部	48	2,722
看護学部	32	454
両学部共通	15	930
合計	95	4,106

(6) 研究科

① 専攻別指導教員数

(平成29年5月1日現在)

研究科	専攻	現員
人間社会学研究科	社会福祉専攻	3
	心理臨床専攻	6
	子ども教育専攻	3
看護学研究科	看護学専攻	17

② 研究指導補助教員数

(平成29年5月1日現在)

研究科	専攻	現員
人間社会学研究科	社会福祉専攻	6
	心理臨床専攻	2
	子ども教育専攻	9
看護学研究科	看護学専攻	22

③ 専門科目における主要科目（必修科目）の専任教員担当状況

研究科	主要科目数	主要科目の専任教員担当の科目数	主要科目で非常勤対応の科目数
人間社会学研究科	14	14	0
看護学研究科	9	8	1

④ 非常勤講師の人数と時間数

研究科	人数	時間
人間社会学研究科	5	168
看護学研究科	53	418
合計	58	586

2. 事務職員

(1) 事務職員数（組織、補職）

(平成29年5月1日現在)

本務職員			非常勤職員	人材派遣会社からの派遣職員	業務委託による従事者
設置団体の職員	法人採用の職員	定員			
14	7	21	42	1	14

(2) 事務職員の採用区分

採用年度	プロパー職員
H24年度	2名
H25年度	3名
H26年度	2名
H27年度	1名
H28年度	0名
H29年度	0名

(3) 事務職員の性別構成

(平成29年5月1日現在)

性別	男	女
人数	14名	7名

※本統計は事務局本務職員のための統計。

(4) 事務職員の年齢構成

(平成29年5月1日現在)

年齢	21～25	26～30	31～35	36～40	41～45	46～50	51～55	56～	合計	平均
人数	3	6	0	1	4	2	3	2	21	39

※本統計は事務局本務職員のための統計。

Ⅲ. 学生

1. 学生数

(1) 学生定数、学年定員、在籍学生数（県内県外、男女比）

(学部)

(平成29年5月1日現在)

学部	定数	在籍者数							
		男			女				
			県内	県外		県内	県外		
H26年度以前入学者 4年生	公共社会学科	50	62	28	13	15	34	12	22
	社会福祉学科	50	65	12	7	5	53	27	26
	人間形成学科	50	59	4	3	1	55	27	28
	看護学科	90	95	7	5	2	88	49	39
	小計	240	281	51	28	23	230	115	115
H27年度入学者 3年生	公共社会学科	50	54	21	13	8	33	20	13
	社会福祉学科	50	54	8	4	4	46	19	27
	人間形成学科	50	58	10	5	5	48	24	24
	看護学科	90	95	3	1	2	92	59	33
	小計	240	261	42	23	19	219	122	97
H28年度入学者 2年生	公共社会学科	50	53	18	8	10	35	11	24
	社会福祉学科	50	59	11	5	6	48	17	31
	人間形成学科	50	57	5	2	3	52	17	35
	看護学科	90	97	8	4	4	89	59	30
	小計	240	266	42	19	23	224	104	120
H29年度入学者 1年生	公共社会学科	50	57	14	6	8	43	22	21
	社会福祉学科	50	56	5	0	5	51	24	27
	人間形成学科	50	54	4	2	2	50	21	29
	看護学科	90	93	6	4	2	87	51	36
	小計	240	260	29	12	17	231	118	113
公共社会学科	200	226	81	40	41	145	65	80	
社会福祉学科	200	234	36	16	20	198	87	111	
人間形成学科	200	228	23	12	11	205	89	116	
看護学科	360	380	24	14	10	356	218	138	
合計	960	1,068	164	82	82	904	459	445	

(研究科)

(平成29年5月1日現在)

研究科	定数	在籍者数							
		男	男		女	女			
			県内	県外		県内	県外		
H28年度以前入学者 2年生	社会福祉専攻	6	6	2	2	0	4	4	0
	心理臨床専攻	6	8	1	1	0	7	7	0
	看護学専攻	12	14	2	2	0	12	11	1
	小計	24	28	5	5	0	23	22	1
H29年度入学者 1年生	社会福祉専攻	6	3	0	0	0	3	3	0
	心理臨床専攻	6	10	4	3	1	6	5	1
	子ども教育専攻	3	1	1	0	1	0	0	0
	看護学専攻	12	9	0	0	0	9	8	1
	小計	27	23	5	3	2	18	16	2
社会福祉専攻	12	9	2	2	0	7	7	0	
心理臨床専攻	12	18	5	4	1	13	12	1	
子ども教育専攻	3	1	1	0	1	0	0	0	
看護学専攻	24	23	2	2	0	21	19	2	
合計	51	51	10	8	2	41	38	3	

(2) 学部卒業生数 (4年間で卒業した学生)

入学年度 (学部)	公共社会学科		社会福祉学科		人間形成学科		看護学科		合計		4年間で 卒業した 学生の割合 (%)
	入学	卒業	入学	卒業	入学	卒業	入学	卒業	入学	卒業	
H21年度	55	45	56	54	59	54	87	72	257	225	87.5%
H22年度	60	50	61	53	56	54	83	77	260	234	90.0%
H23年度	61	50	59	56	60	53	81	77	261	236	90.4%
H24年度	49	44	57	51	53	52	80	71	239	218	91.2%
H25年度	55	46	55	52	55	52	90	80	255	230	90.2%
H26年度	55	50	63	57	53	53	90	83	261	243	93.1%

※編入学生を除く

(3) 大学院修了生数 (2年間又は3年間(長期履修)で卒業した学生)

入学年度 (研究科)	人間社会学研究科				看護学研究科				合計				2年間で 卒業した 学生の割合 (%)	3年間で 卒業した 学生の割合 (%)
	2年間		長期履修		2年間		長期履修		2年間		長期履修			
	入学	卒業	入学	卒業	入学	卒業	入学	卒業	入学	卒業	入学	卒業		
H23年度	16	13	0	0	4	3	3	3	20	16	3	3	80.0%	100.0%
H24年度	10	10	0	0	4	3	10	6	14	13	10	6	92.9%	60.0%
H25年度	12	10	2	2	2	2	2	1	14	12	4	3	85.7%	75.0%
H26年度	12	12	0	0	4	4	2	1	16	16	2	1	100.0%	50.0%
H27年度	10	10	2	1	8	6	2	2	18	16	4	3	88.9%	75.0%
H28年度	9	8	3	0	9	9	0	0	18	17	3	0	94.4%	0.0%

2. 学生の異動（退学・除籍・休学・留年）

(1) 休学・退学・除籍数

(学部)

学部		入学者数	休学者数	休学率 (%)	退学者数	退学率 (%)	除籍者数	除籍率 (%)
H26年度入学者 4年生	公共社会学科	55	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	社会福祉学科	63	3	4.8%	2	3.2%	0	0.0%
	人間形成学科	53	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	看護学科	90	5	5.6%	2	2.2%	0	0.0%
	小計	261	8	3.1%	4	1.5%	0	0.0%
H27年度入学者 3年生	公共社会学科	55	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	社会福祉学科	52	2	3.8%	0	0.0%	0	0.0%
	人間形成学科	58	2	3.4%	0	0.0%	0	0.0%
	看護学科	95	8	8.4%	1	1.1%	0	0.0%
	小計	260	12	4.6%	1	0.4%	0	0.0%
H28年度入学者 2年生	公共社会学科	53	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	社会福祉学科	59	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	人間形成学科	57	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	看護学科	98	3	3.1%	1	1.0%	0	0.0%
	小計	267	3	1.1%	1	0.4%	0	0.0%
H29年度入学者 1年生	公共社会学科	57	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	社会福祉学科	56	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%
	人間形成学科	54	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	看護学科	93	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	小計	260	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
公共社会学科		220	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
社会福祉学科		230	6	2.6%	2	0.9%	0	0.0%
人間形成学科		222	2	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
看護学科		376	16	4.3%	4	1.1%	0	0.0%
合計		1,048	24	2.3%	6	0.6%	0	0.0%

※編入学生を除く

(研究科)

研究科		入学者数	休学者数	休学率 (%)	退学者数	退学率 (%)	除籍者数	除籍率 (%)
H28年度入学者 2年生	社会福祉専攻	4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	心理臨床専攻	8	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	看護学専攻	9	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	小計	21	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
H29年度入学者 1年生	社会福祉専攻	3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	心理臨床専攻	10	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	子ども教育専攻	1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	看護学専攻	9	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%
	小計	23	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
社会福祉専攻		7	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
心理臨床専攻		18	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子ども教育専攻		10	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
看護学専攻		18	1	5.6%	0	0.0%	0	0.0%
合計		53	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%

(2) 留年数
(学部)

学部		在籍者数	留年者数
H 24 年度	公共社会学科	235	7
	社会福祉学科	234	3
	人間形成学科	232	3
	看護学科	356	4
	小計	1,057	17
H 25 年度	公共社会学科	237	9
	社会福祉学科	232	3
	人間形成学科	229	6
	看護学科	356	12
	小計	1,054	30
H 26 年度	公共社会学科	232	11
	社会福祉学科	235	7
	人間形成学科	220	0
	看護学科	343	5
	小計	1,030	23
H 27 年度	公共社会学科	225	11
	社会福祉学科	225	3
	人間形成学科	224	5
	看護学科	354	3
	小計	1,028	22
H 28 年度	公共社会学科	222	7
	社会福祉学科	232	2
	人間形成学科	227	1
	看護学科	376	6
	小計	1,057	16
H 29 年度	公共社会学科	226	10
	社会福祉学科	234	2
	人間形成学科	228	3
	看護学科	380	8
	小計	1,068	23

※在籍者：その年度の在籍する全学生数

※留年者数：その年度の4年を超えて在籍している者

(研究科)

研究科		在籍者数	留年者数
H 24 年度	人間社会学研究科	27	1
	看護学研究科	26	5
	小計	53	6
H 25 年度	人間社会学研究科	27	3
	看護学研究科	25	4
	小計	52	7
H 26 年度	人間社会学研究科	27	1
	看護学研究科	22	2
	小計	49	3
H 27 年度	人間社会学研究科	29	3
	看護学研究科	24	3
	小計	53	6
H 28 年度	人間社会学研究科	25	1
	看護学研究科	25	4
	小計	50	5
H 29 年度	人間社会学研究科	28	0
	看護学研究科	23	4
	小計	51	4

※在籍者：その年度の在籍する全学生数

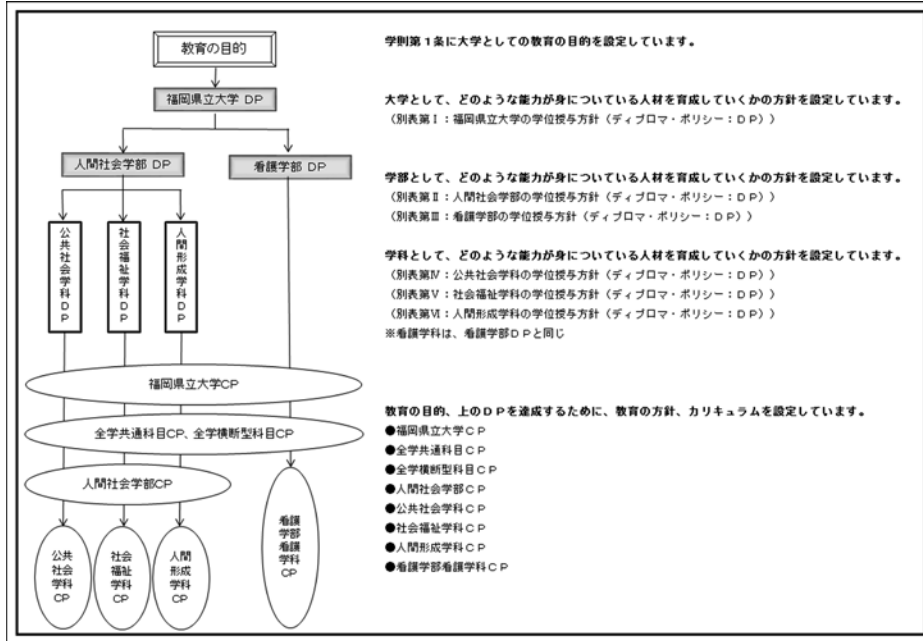
※留年者数：その年度の2年を超えて在籍している者（長期履修者を除く）

IV. 教育

1. 学部

(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシー（DP）とは、卒業認定・学位授与に関する基本的な方針のことを言い、本学を卒業することでどのような能力が身についているかを保証するものです。教育の目的を前提に、全学、各学部、各学科のDPを別表第Iから別表第VIのとおり定めています。また、カリキュラム・ポリシー（CP）とは教育課程編成・実施方針のことを言い、教育の目的、上のDPを達成するために全学、各学科がそれぞれ教育課程の方針、カリキュラムを設定しています。



本学のDPは以下のように4つの領域、さらに10項目のポリシーに分かれており、これら10項目のポリシーのすべてが、4年間で履修する科目のいずれかに位置付けられています。

領域	ポリシー
知識・理解	DP1 教養・健康に関する知識
	DP2 専門・隣接領域の知識
思考・判断・表現	DP3 論理的思考・判断力
	DP4 表現力
関心・意欲・態度	DP5 挑戦力
	DP6 社会貢献力
技能	DP7 コミュニケーション力
	DP8 情報リテラシー
	DP9 健康スキル
	DP10 専門分野のスキル

別表第I. 福岡県立大学の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー
知識・理解	DP1 <input type="checkbox"/> 文化の向上に貢献するための教養・健康に関する知識を有している。
	DP2 <input type="checkbox"/> 保健・福祉の増進に関する知識を有している。
	<input type="checkbox"/> 専門領域に隣接する諸科学の知識を有している。
思考・判断・表現	DP3 <input type="checkbox"/> 保健・福祉に関する諸問題を専門的知識に基づいて論理的に思考することができる。
	<input type="checkbox"/> 社会の諸問題に対し、資料を収集・考察し、結論を見出すことができる。
関心・意欲・態度	DP4 <input type="checkbox"/> 専門的知識に基づいて自らの考えを適切に他者に説明することができる。
	DP5 <input type="checkbox"/> 保健・福祉の増進に寄与するために主体的・意欲的に活動することができる。
技能	DP6 <input type="checkbox"/> 問題解決に関わる専門分野のスキルを地域社会の発展に活かすことができる。
	DP7 <input type="checkbox"/> 異文化の人々と基本的なコミュニケーションを行うことができる。
	DP8 <input type="checkbox"/> 基礎的な情報リテラシーを身につけている。
	DP9 <input type="checkbox"/> 自らの健康を維持し高める基礎技能を身につけている。
	DP10 <input type="checkbox"/> 保健・福祉の増進に寄与するための専門分野のスキルを身につけている。

別表第Ⅱ. 人間社会学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・理解	DP 1	<input type="checkbox"/> 福祉社会に貢献するための教養・健康に関する知識を幅広く有している。
	DP 2	<input type="checkbox"/> 人間・社会に関する専門的知識を理解している。 <input type="checkbox"/> 専門領域に隣接する諸科学の知識を有している。
思考・判断・表現	DP 3	<input type="checkbox"/> 人間・社会の諸問題を専門的知識に基づいて論理的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 人間・社会の諸問題に関する資料を収集・考察し、結論を見いだすことができる。
	DP 4	<input type="checkbox"/> 専門的知識に基づいて、自らの考えを適切に他者に説明することができる。
関心・意欲・態度	DP 5	<input type="checkbox"/> 自ら問いを立て自己の判断を発表するに至るまで、主体的に活動することができる。 <input type="checkbox"/> 人間・社会に関する諸問題を主体的かつ意欲的に探求することができる。
	DP 6	<input type="checkbox"/> 問題解決に関わる専門分野のスキルを社会に活かすことができる。
技能	DP 7	<input type="checkbox"/> 国際化する現代社会に対応できるように外国語を用いて、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。
	DP 8	<input type="checkbox"/> 現代の情報化社会に対応できるような基礎的な情報リテラシーを身につけている。
	DP 9	<input type="checkbox"/> 福祉社会に必要な、自らの健康を維持し高める基礎技能を身につけている。
	DP 10	<input type="checkbox"/> 人間・社会の諸問題に対する検討手法を身につけている。 <input type="checkbox"/> 人間・社会の諸問題に対応するための専門的スキルを身につけている。

別表第Ⅲ. 看護学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・理解	DP 1	<input type="checkbox"/> 人間を理解するための学術的な幅広い知識を有している。 <input type="checkbox"/> ホリスティックな視点から生活する人間を理解している。
	DP 2	<input type="checkbox"/> 人々の健康を支援するために必要な看護の専門知識を有している。 <input type="checkbox"/> 専門領域に隣接する諸科学の知識を有している。
思考・判断・表現	DP 3	<input type="checkbox"/> 対象が抱えている健康問題や課題の本質を多角的視点から思考・判断できる。 <input type="checkbox"/> 社会の諸問題に対し、資料を収集・考察し、結論を見いだすことができる。 <input type="checkbox"/> 人間が本来持っている潜在的な力を引き出すための基礎的看護ケアを選択できる。 <input type="checkbox"/> 看護の専門的視点で関連する諸問題を統合し、適切な看護を選択できる。
	DP 4	<input type="checkbox"/> 他者の意見を受け入れる柔軟な思考をもち、自己と他者の相違点を把握した上で、論点となる考えについて自己の意見を述べるることができる。
関心・意欲・態度	DP 5	<input type="checkbox"/> 学びの過程で生じる疑問に対し、解決のための主体的な行動が取れる。 <input type="checkbox"/> 他者に対する深い思いと関心をもち、よりよい人間関係を構築するための態度を示すことができる。 <input type="checkbox"/> 対象の健康問題や課題選択のために、多職種と協働・連携する意欲と態度を示すことができる。
	DP 6	<input type="checkbox"/> 看護の役割を自覚し、人々の健康に関する諸課題を探究することができる。
技能	DP 7	<input type="checkbox"/> 異文化の人々と基礎的なコミュニケーションができる。
	DP 8	<input type="checkbox"/> 時代の変化にあわせた情報リテラシーを活用できる。
	DP 9	<input type="checkbox"/> 自らの健康を維持するための基礎的技能を身につけている。
	DP 10	<input type="checkbox"/> あらゆる健康レベルにある対象に対し、看護の専門技術を用いて、安全で適切な看護が提供できる。

別表第Ⅳ. 人間社会学部公共社会学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・理解	DP 1	<input type="checkbox"/> 福祉社会に貢献するための教養として人文科学、社会科学、自然科学および学際的な知識を幅広く身につけている。 <input type="checkbox"/> 福祉社会に貢献するために健康に関する基礎知識を身につけている。
	DP 2	<input type="checkbox"/> 社会学を中心とする社会科学の専門知識を身につけている。 <input type="checkbox"/> 異なる文化や価値観に対して、客観的に理解できる。 <input type="checkbox"/> 社会的事象の歴史的背景や現状の多様性を理解できる。 <input type="checkbox"/> 社会福祉学、心理学、教育学等、人間と社会に関連する幅広い諸科学の知識を身につけている。
思考・判断・表現	DP 3	<input type="checkbox"/> 人間・社会の諸問題に関する資料の収集とその考察によって、結論を見いだすことができる。 <input type="checkbox"/> 社会的事象に関する問題を、公共性の観点から整理できる。
	DP 4	<input type="checkbox"/> 自らの考えを適切に他者に説明することができる。 <input type="checkbox"/> 社会的課題の背景を論理的に説明し、それへの対応を提示できる。
関心・意欲・態度	DP 5	<input type="checkbox"/> 自ら問いを立て自己の判断を発表するに至るまで、主体的に活動することができる。 <input type="checkbox"/> 様々な社会問題や異なる文化・価値観に深い関心をもち、主体的に学習できる。
	DP 6	<input type="checkbox"/> 公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。
技能	DP 7	<input type="checkbox"/> 国際化する現代社会に対応できるように英語の他、韓国語、中国語、フランス語、ドイツ語のいずれかを用いて、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。
	DP 8	<input type="checkbox"/> 現代の情報化社会に対応できるような基礎的な情報リテラシーを身につけている。
	DP 9	<input type="checkbox"/> 福祉社会に必要な、自らの健康を維持し高める基礎技能を身につけている。
	DP 10	<input type="checkbox"/> 社会的課題を取り扱う際に、先行研究や各種の資料を適切に収集できる。 <input type="checkbox"/> 社会的課題を取り扱う際に、社会科学的方法的に観察、調査、分析できる。

別表第V. 人間社会学部社会福祉学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・理解	DP1	<input type="checkbox"/> 福祉社会に貢献するための教養として人文科学、社会科学、自然科学および学際的な知識を幅広く身につけている。 <input type="checkbox"/> 福祉社会に貢献するために健康に関する基礎知識を身につけている。
	DP2	<input type="checkbox"/> 人間の自由と尊厳、および人権と社会正義に関する知識を理解している。 <input type="checkbox"/> 社会保障・社会福祉の制度・政策およびソーシャルワークに関する専門知識を体系的に理解している。 <input type="checkbox"/> 社会学や心理学等、人間と社会に関連する幅広い諸科学の知識を理解している。
思考・判断・表現	DP3	<input type="checkbox"/> 人間・社会の諸問題に関する資料の収集とその考察によって、結論を見いだすことができる。 <input type="checkbox"/> 社会福祉およびそれに関連する問題について根拠に基づいて考察することができる。
	DP4	<input type="checkbox"/> 自らの考えを適切に他者に説明することができる。 <input type="checkbox"/> 自らが主体的に設定した社会福祉に関わる課題について探究し、その成果を論理的に表現できる。
関心・意欲・態度	DP5	<input type="checkbox"/> 自ら問いを立て自己の判断を発表するに至るまで、主体的に活動することができる。 <input type="checkbox"/> 社会福祉およびそれに関連する問題に関心をもち、それに取り組む意欲を示すことができる。
	DP6	<input type="checkbox"/> ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示すことができる。 <input type="checkbox"/> ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。
技能	DP7	<input type="checkbox"/> 国際化する現代社会に対応できるように英語の他、韓国語、中国語、フランス語、ドイツ語のいずれかを用いて、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。
	DP8	<input type="checkbox"/> 現代の情報化社会に対応できるような基礎的な情報リテラシーを身につけている。
	DP9	<input type="checkbox"/> 福祉社会に必要な、自らの健康を維持し高める基礎技能を身につけている。
	DP10	<input type="checkbox"/> ソーシャルワークの価値と専門知識を基にして、人間の福祉（ウェルビーイング）を高めるためのソーシャルワーク・スキルを習得している。 <input type="checkbox"/> 社会福祉に関する問題について、先行研究や各種の資料を適切に収集し、分析できる。

別表第VI. 人間社会学部人間形成学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・理解	DP1	<input type="checkbox"/> 福祉社会に貢献するための教養として人文科学、社会科学、自然科学および学際的な知識を幅広く身につけている。 <input type="checkbox"/> 福祉社会に貢献するために健康に関する基礎知識を身につけている。
	DP2	<input type="checkbox"/> 乳幼児期における教育または生涯にわたる人間の心理的発達に関わる専門的知識を体系的に身につけている。 <input type="checkbox"/> 乳幼児期における教育または生涯にわたる人間の心理的援助のあり方を理解している。
思考・判断・表現	DP3	<input type="checkbox"/> 人間・社会の諸問題に関する資料の収集とその考察によって、結論を見いだすことができる。 <input type="checkbox"/> 保育・幼児教育または人間のこころに関する現代的課題について考察することができる。 <input type="checkbox"/> 関連する諸問題に対して教育または心理的援助の適切な対応を検討できる。
	DP4	<input type="checkbox"/> 自らの考えを適切に他者に説明することができる。 <input type="checkbox"/> 科学的手法を用いて導かれた自分の考えを適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	DP5	<input type="checkbox"/> 自ら問いを立て自己の判断を発表するに至るまで、主体的に活動することができる。 <input type="checkbox"/> 保育・幼児教育または人間のこころに関する課題を抽出し、探究することができる。
	DP6	<input type="checkbox"/> 教育または心理的援助のスキルを用いて社会に活かすことができる。 <input type="checkbox"/> 教育または心理的援助に従事する立場の倫理・道徳に従って行動できる。
技能	DP7	<input type="checkbox"/> 国際化する現代社会に対応できるように英語の他、韓国語、中国語、フランス語、ドイツ語のいずれかを用いて、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。
	DP8	<input type="checkbox"/> 現代の情報化社会に対応できるような基礎的な情報リテラシーを身につけている。
	DP9	<input type="checkbox"/> 福祉社会に必要な、自らの健康を維持し高める基礎技能を身につけている。
	DP10	<input type="checkbox"/> 教育および心身に関する諸問題を検討するための科学的手法を身につけている。 <input type="checkbox"/> 様々な立場にある人々に対する心理的援助または保育・幼児教育のスキルを修得している。

● 福岡県立大学 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

福岡県立大学は、教育の目的及び学位授与方針を達成し、学生に必要な学力の3要素及び学士力を身に付けさせるために、全学共通科目、全学横断型科目、専門教育科目（看護学部にあつては専門基礎科目及び専門科目）、その他必要とする科目を体系的に編成する。

全学共通科目は、専門教育の基礎の修得、並びに専門的職業人及び社会人として求められる教養を身につけることを目的とした「教養科目」及び「基礎科目」を配置する。全学横断型科目は、地域における保健・医療・福祉の諸課題に、主体性をもって多様な人々と協働して課題を解決できる実践的能力の向上を目的と

して、両学部で学べる科目を配置する。専門教育科目（看護学部にあつては専門基礎科目及び専門科目）は、各学部・学科で求められる専門性を体系的に修得できるように科目を配置する。

● 全学共通科目 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

全学共通科目は、専門教育の基礎の修得、および専門的職業人および社会人として求められる教養を身につけることを目的とした「教養科目」および「基礎科目」を設置する。

○教養科目・・・「教養科目」は、①学部における専門教育の基礎となる科目および②福祉社会の担い手となる専門的職業人として、また現代を生きる社会人として求められる教養を身につけることを目的とした科目群であり、「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」および「総合科目」に関する科目を開設する。

○基礎科目・・・「基礎科目」は、①新入学生が大学での学習に速やかに移行するための導入教育、②現代の情報社会に対応するための情報リテラシー教育、③国際化社会に対応するための語学教育および④生涯を通じた健康の維持・増進のための知識と技術を身につける健康教育に関する科目群で構成され、「必須外国語」、「選択外国語」、「情報処理」、「健康科学」、「基礎ゼミ」および「発展ゼミ」を開設する。

● 全学横断型科目 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

地域における保健・医療・福祉の諸課題に、主体性をもって多様な人々と協働して課題を解決できる実践的能力の向上を目的として、両学部で学べる全学横断型科目を配置する。

● 人間社会学部 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

人間社会学部は、学部の教育の目的及び学位授与の方針を達成し、学生に必要な学力の3要素及び学士力を身に付けさせるために、全学共通科目、全学横断型科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成する。

全学共通科目は、専門教育の基礎の修得、並びに専門的職業人および社会人として求められる教養を身につけることを目的とした「教養科目」及び「基礎科目」を配置する。全学横断型科目は、地域における保健・医療・福祉の諸課題に、主体性をもって多様な人々と協働して課題を解決できる実践的能力の向上を目的として、他学部とともに学べる科目を配置する。専門教育科目は、学部・学科で求められる専門性を体系的に修得できるように科目を配置する。

● 公共社会学科 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

人間社会学部公共社会学科では、教育目標を達成するために、以下の方針に基づき、教育課程を編成し、実施する。

全学共通科目から47単位以上、専門教育科目から69単位以上およびこれら2つの科目群の枠組みにとられない自由選択科目として12単位以上、合計128単位以上を修得する。

全学共通科目

全学共通科目は、専門教育の基礎の修得、および専門的職業人および社会人として求められる教養を身につけることを目的とした「教養科目」および「基礎科目」を設置する。

○教養科目・・・ } 全学共通科目 CPと同じ
○基礎科目・・・ }

全学横断型科目

地域における保健・医療・福祉の諸課題に、主体性をもって多様な人々と協働して課題を解決できる実践的能力の向上を目的として、両学部で学べる全学横断型科目を配置する。

専門教育科目

専門教育科目は、公共性の視点に立ち、時代が要請し期待する様々な課題解決に応じていくことのできる人材の養成を目的として、「公共社会学基礎論」「社会調査・情報処理」「地域社会ネットワーク」「アジア国際共生」「関連科目」の5つの科目群で構成する。

- 公共社会学基礎論・・・公共性の基礎論となる科目を配置する。
- 社会調査・情報処理・・・時代が要請し期待する様々な課題解決に対応する能力を証明する社会調査士、上級情報処理士の資格取得に関連する科目を配置する。
- 地域社会ネットワーク・・・地域社会の現状分析と自立・協働・持続可能な地域社会運営のあり方を学ぶための科目を配置する。
- アジア国際共生・・・グローバル化する国際関係をふまえた共生のあり方を学ぶための科目を配置する。
- 関連科目・・・公共性の視点に関連する哲学、歴史、法律、教育に関連する科目を配置する。総合人間社会コースの科目は、福祉社会において様々な現場で役に立つ専門的な知識やスキルを身につけることを目的として配置する。
- 教職に関する専門教育科目・・・高等学校教諭一種免許状（公民）・中学校教諭一種免許状（社会）の取得に関連する科目を配置する。
- 公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ、卒業論文・・・公共社会学における学びの集大成として、専門知識（DP2）、論理的思考・判断力（DP3）、表現力（DP4）、挑戦力（DP5）、社会貢献力（DP6）、専門分野のスキル（DP10）を身につけるための「公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ」と「卒業論文」を3、4年次に配置する。

※「全学共通科目」「専門教育科目」には、高等学校教諭一種免許状「公民」、中学校教諭一種免許状「社会」の取得に必要な科目を配置する。

● 社会福祉学科 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

人間社会学部社会福祉学科では、教育目標を達成するために、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

全学共通科目から47単位以上、専門教育科目から69単位以上およびこれら2つの科目群の枠組みにとらわれない自由選択科目として12単位以上、合計128単位以上を修得する。

全学共通科目

全学共通科目は、専門教育の基礎の修得、および専門的職業人および社会人として求められる教養を身につけることを目的とした「教養科目」および「基礎科目」を設置する。

- 教養科目・・・
 - 基礎科目・・・
- } 全学共通科目 CPと同じ

全学横断型科目

地域における保健・医療・福祉の諸課題に、主体性をもって他者と協働して課題を解決できる実践的能力の向上を目的として、両学部で学べる全学横断型科目を配置する。

専門教育科目

社会福祉学科の専門教育科目は、さまざまな生活上の困難をかかえる人々を支援し、その問題解決のために必要な制度・政策、そして具体的援助方法を学ぶことを目的として、「基幹科目」、「社会福祉専門科目」、「精神保健福祉専門科目」、「学校ソーシャルワーク専門科目」、「関連科目」の5つの科目群で構成する。

- 基幹科目・・・社会福祉学の基盤となる概念、歴史、法制度や相談援助の理論と方法など、4年間の学びの基幹となる科目で構成する。また、社会福祉学科における学びの集大成として、論理的思考・判断力（DP3）、表現力（DP4）、能動的学修力（DP5）、専門的技能・分析力（DP10）を身につけるため、「社会福祉学演習」および「卒業論文」を3、4年次に配置する。
- 社会福祉専門科目・・・児童福祉、老人福祉、障害者福祉などの分野別の講義科目等と、相談援助の技術を実践的に学ぶ演習および実習関連の科目で構成する。

- 精神保健福祉専門科目・・・精神保健福祉分野の講義科目と、精神保健福祉援助の技術を実践的に学ぶ演習および実習関連の科目で構成する。
- 学校ソーシャルワーク専門科目・・・学校ソーシャルワークに関連する講義科目と、学校ソーシャルワークの技術を実践的に学ぶ演習および実習関連の科目で構成する。
- 関連科目・・・社会学や心理学等、社会福祉学を学ぶ上で重要となる関連科目を配置する。総合人間社会コースの科目は、福祉社会において様々な現場で役に立つ専門的な知識やスキルを身につけることを目的として配置する。

※社会福祉士および精神保健福祉士国家試験受験資格ならびにスクール（学校）ソーシャルワーク教育課程修了資格の取得に関連する指定科目を配置する。

● 人間形成学科 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

人間社会学部人間形成学科では、教育目標を達成するために、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

全学共通科目から 47 単位以上、専門教育科目から 69 単位以上およびこれら 2 つの科目群の枠組みにとられない自由選択科目として 12 単位以上、合計 128 単位以上を修得する。

全学共通科目

全学共通科目は、専門教育の基礎の修得、および専門的職業人および社会人として求められる教養を身につけることを目的とした「教養科目」および「基礎科目」を設置する。

- 教養科目・・・
 - 基礎科目・・・
- } 全学共通科目 CPと同じ

全学横断型科目

地域における保健・医療・福祉の諸課題に、主体性をもって他者と協働して課題を解決できる実践的能力の向上を目的として、両学部で学べる全学横断型科目を配置する。

専門教育科目

専門教育科目は、人間の心身の形成過程と教育およびその諸問題に関する総合的な研究・教育を行い、保育・幼児教育または生涯にわたる心理臨床などに携わる専門的な人材を育成することを目的として、「基幹科目」、「展開科目」、「関連科目」の 3 つの科目群で構成する。

- 基幹科目・・・人間形成学科の各コースに共通する教育学、心理学および保健学に関わる基礎的・基本的な科目群で構成する。
- 展開科目・・・こどもコースにおいては、保育・幼児教育に関する専門的な科目、心理コースにおいては人間のこころの理解および心理的援助に関わる専門的な科目を配置する。
- 関連科目・・・人間形成学科のいずれのコースにおいても共通して学ぶことが望ましいと思われる、社会教育に関する科目を配置する。総合人間社会コースの科目は、福祉社会において様々な現場で役に立つ専門的な知識やスキルを身につけることを目的として配置する。
- 演習、卒業論文・・・人間形成学科における学びの集大成として、専門知識（DP2）、論理的思考・判断力（DP3）、表現力（DP4）、挑戦力（DP5）、専門スキル（DP10）を身につけるための「演習」と「卒業論文」を 3、4 年次に配置する。

※「全学共通科目」および「専門教育科目」には、幼稚園教諭 1 種免許状、保育士資格、認定心理士資格の取得に必要な科目を配置する。

● 看護学部看護学科 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

看護学部看護学科では、教育目標を達成するために、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

看護師国家試験受験資格に関する指定規則に基づき、全学共通科目から 20 単位以上、専門基礎科目から 10 単位以上、専門科目から 90 単位以上及びこれらの科目群の枠組みにとらわれない自由選択科目 8 単位以上、合計 128 単位以上を修得する。

全学共通科目

全学共通科目は、専門教育の基礎の修得、および専門的職業人および社会人として求められる教養を身につけることを目的とした「教養科目」および「基礎科目」を設置する。

- 教養科目・・・
 - 基礎科目・・・
- } 全学共通科目 CP と同じ

全学横断型科目

地域における保健・医療・福祉の諸課題に、主体性をもって他者と協働して課題を解決できる実践的能力の向上を目的として、両学部で学べる全学横断型科目を配置する。

専門基礎科目

専門基礎科目は、ホリスティック（全人的）な人間理解のもとに統合機能システムとしての人体を理解し、人間の本来持つ自然治癒力に焦点をあてたホリスティックケアができる能力を育成する科目として、「人間の見方と健康」と「人間と保健・医療」の2つの科目群を設定する。

専門科目

専門科目は、多面的・多角的な視点で、生活者としての人間をホリスティックに捉え、かつ、他職種と協働していく中で、看護の専門性・独自性を発揮し、看護を提案・実践できる能力の育成及び看護の役割を自覚し、将来看護学の発展に寄与できる能力の育成を目的として、「基盤看護学系科目」、「臨床看護学系科目」、「ヘルスプロモーション看護学系科目」、「看護の総合力と研究能力を身につける科目」の4つの科目群を設定し、学習の効果が最大限に上がるように講義終了後に、演習や臨地実習を積み重ね方式で配置している。

- 基盤看護学系科目・・・看護の基盤形成と育成のための基礎能力を身につける科目と看護の基礎的な技術力を強化する科目群－実験看護学、基礎看護学、臨床機能看護学
- 臨床看護学系科目・・・看護実践の理論的根拠と技術の修得及び看護の展開能力を育成するための科目群－精神看護学、成人看護学、老年看護学、女性看護学、小児看護学
- ヘルスプロモーション看護学系科目・・・ヘルスプロモーションの理念に基づく看護実践の理論的根拠と技術の修得及び看護の展開能力を育成するための科目群－在宅看護学、公衆衛生看護学
- 「看護の総合力と研究能力を身につける科目」・・・看護学部における学びのゴールとして、社会人になる前に、これまで身につけた専門知識、論理的思考、判断力、表現力、挑戦力、社会貢献力、コミュニケーション力、専門分野のスキルなどを再確認し、これらの能力を統合・定着させるための科目を 3、4 年次に配置する。これらの科目には「統合実習」、「専門看護学ゼミ」及び「卒業研究」があり、少人数制とし、専門領域の研究手法と、自ら計画し行動する最終段階の科目として設定する（必修科目 6 単位）。

※「専門基礎科目」および「専門科目」において保健師国家試験受験資格、養護教諭一種免許取得するための必要な科目を配置する。

(2) 開設科目及び単位数

授業科目「全学共通科目（教養科目）」

授業科目の区分と科目名			単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				卒業要件	
			必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	人間社会学部	看護学部
教 養 科 目	人 文 科 学	哲学		2	講義	2				人文科学、社会科学、自然科学、総合科目から各4単位以上を修得し、かつ合計28単位以上	選択 6単位 以上
		論理学		2	講義		2				
		宗教学		2	講義		2				
		心理学		2	講義	2					
		日本近現代史		2	講義	2					
		アート論		2	講義	2					
		文学		2	講義	2					
	哲学的人間学		2	講義	2						
	社 会 科 学	社会学A		2	講義	2					
		社会学B		2	講義	2					
		法学		2	講義	2					
		* 憲法		2	講義	2					
		政治学		2	講義		2				
		経済学		2	講義	2					
		国際関係論		2	講義	2					
	自 然 科 学	社会思想史		2	講義		2				
		科学史		2	講義		2				
		生物学		2	講義	2					
		化学		2	講義	2					
		物理学		2	講義	2					
		統計学		2	講義	2					
		情報科学		2	講義	2					
	総 合 科 目	環境科学		2	講義	2					
		数学概論		2	講義	2					
		* 人権論		2	講義	2					
		* ジェンダー論		2	講義			* ¹ 2	* ² 2		
		人間関係の科学		2	講義		2				
		現代社会と嗜癖		2	講義	2					
性教育学			2	講義			* ¹ 2	* ² 2			
ケアリング・サイエンス		2	講義			* ¹ 2	* ² 2				
グローバル社会論		2	講義		2						

注1：全学科の学生は、「全学共通科目（教養科目）」の中で、人権教育に関する科目として「憲法」「人権論」「ジェンダー論」の3科目のうちから必ず1科目2単位以上を修得しなければならない。

2：「社会学A」「社会学B」は、公共社会学科の必修指定科目である。

3：教員免許状（高校教諭一種（公民）、中学校教諭一種（社会）、養護教諭一種、養護教諭二種、幼稚園教諭一種）取得希望者は、「憲法」を必ず履修しなければならない。

4：*¹は人間社会学部、*²は看護学部の標準履修年次であり異学年同時開講となる。

授業科目「全学共通科目（基礎科目）」

授業科目の区分と科目名		単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				卒業要件		
		必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	人間社会学部	看護学部	
基 礎 科 目	必須外国語	英語Ⅰ-(1)	1		演習	1				必修 6単位	
		英語Ⅰ-(2)	1		演習	1					
		英語Ⅱ-(1)	1		演習	1					
		英語Ⅱ-(2)	1		演習	1					
		英語Ⅲ-(1)	1		演習		1				
		英語Ⅲ-(2)	1		演習		1				
		リーディングⅠ	1		演習	1					
		リーディングⅡ	1		演習		1				
		ライティング	1		演習	1					
		オーラルコミュニケーションⅠ	1		演習	1					
	オーラルコミュニケーションⅡ	1		演習	1						
	オーラルコミュニケーションⅢ	1		演習		1					
	選択外国語	英語Ⅳ-(1)		1	演習			1		海外語学実習、海外語学実習事前指導、Introduction to studying in Englishを除いた科目の中から選択して6単位以上 ※入学後2年間は選択外国語を変更することはできない。なお履修パターンは別途指示する。	英語Ⅳ-(1)、英語Ⅳ-(2)、コリア語Ⅲ-(1)、コリア語Ⅲ-(2)、中国語Ⅲ-(1)、中国語Ⅲ-(2)、海外語学実習、海外語学実習事前指導、Introduction to studying in Englishを除いた科目の中から選択して2単位以上
		英語Ⅳ-(2)		1	演習			1			
		リーディングⅢ		1	演習				1		
		コリア語Ⅰ-(1)		1	演習	1					
		コリア語Ⅰ-(2)		1	演習	1					
		コリア語Ⅱ-(1)		1	演習		1				
		コリア語Ⅱ-(2)		1	演習		1				
		コリア語Ⅲ-(1)		1	演習			1			
		コリア語Ⅲ-(2)		1	演習			1			
		中国語Ⅰ-(1)		1	演習	1					
		中国語Ⅰ-(2)		1	演習	1					
		中国語Ⅱ-(1)		1	演習		1				
		中国語Ⅱ-(2)		1	演習		1				
		中国語Ⅲ-(1)		1	演習			1			
		中国語Ⅲ-(2)		1	演習			1			
		仏語Ⅰ-(1)		1	演習	1					
仏語Ⅰ-(2)			1	演習	1						
仏語Ⅱ-(1)			1	演習		1					
仏語Ⅱ-(2)			1	演習		1					
独語Ⅰ-(1)			1	演習	1						
独語Ⅰ-(2)		1	演習	1							
独語Ⅱ-(1)		1	演習		1						
独語Ⅱ-(2)		1	演習		1						
海外語学実習事前指導		1	演習			1					
海外語学実習		1	演習			1					
Introduction to studying in English		1	演習	1							
情報処理	情報処理の基礎と演習	2		演習	2				必修2単位	必修1単位	
	情報処理応用演習		1	演習	1				自由選択単位		
	情報処理演習Ⅰ	1		演習	1						
	情報処理演習Ⅱ		1	演習	1						
健康科学	保健理論		2	講義	2				選択必修2単位	必修2単位 必修2単位	
	健康スポーツ論		2	講義	2						
	健康科学実習Ⅰ	1		☆実習	1				必修2単位		
	健康科学実習Ⅱ	1		☆実習	1						
基礎ゼミ	教養演習	1		演習	1				必修1単位	必修1単位	
発展ゼミ	社会人基礎力演習		1	演習		1			各学科とも自由選択の12単位に含めることができる	自由選択の8単位に含めることができる	
	Advanced English Achaivement		1	演習			1				

注1：必修外国語のうち、リーディングⅠ・Ⅱ・Ⅲ、ライティング、オーラルコミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲは、看護学部学生が履修し、その他は人間社会学部学生が履修する授業である。

2：英語を除く外国語のうち、コリア語Ⅲ-(1)、Ⅲ-(2)、中国語Ⅲ-(1)、Ⅲ-(2)は、人間社会学部学生が履修する授業である。

3：海外語学実習、海外語学実習指導、Introduction to Studying Englishは選択外国語の単位数には含まれないが、自由選択の単位となる。

4：Introduction to Studying English、情報処理の基礎と演習、情報処理応用演習、保健理論、健康スポーツ論は人間社会学部学生が履修し、情報処理演習Ⅰ、情報処理演習Ⅱは看護学部学生が履修する授業である。

5：授業方法欄の「☆実習」は、毎週1回(90分)で半期、原則として15回の授業となる。

公共社会学科「専門教育科目」

授業科目の区分と科目名		単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				備考
		必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	
公共社会学基礎論	社会学概論	2		講義	2				
	社会学史Ⅰ	2		講義		2			
	社会学史Ⅱ	2		講義		2			
	公共性の社会学	2		講義	2				
	社会政策論		2	講義	2				
	公共経済学		2	講義			2		
	社会学の分析法A		2	講義		2			
	社会学の分析法B		2	講義			2		
	現代社会論A（ジェンダー・世代）		2	講義		2			
	現代社会論B（情報社会論）		2	講義		2			
	現代社会論C（情報社会と法）		2	講義		2			
	家族社会学A		2	講義		2			
	家族社会学B		2	講義		2			
	福祉社会学		2	講義			2		
	社会病理学		2	講義		2			
	社会変動と社会問題		2	講義		2			
	集合行動論		2	講義			2		
	仕事の経済学		2	講義		2			
	暮らしの経済学		2	講義		2			
	C S R（企業の社会的責任）論		2	講義			2		
社会心理学		2	講義	2					
人格心理学		2	講義	2					
社会調査・情報処理	社会調査法	2		講義	2				
	社会調査の設計		2	講義		2			
	データ分析の基礎		2	講義	2				
	社会統計学Ⅰ		2	講義		2			
	社会統計学Ⅱ		2	講義		2			
	質的調査法		2	講義		2			
	データ処理とデータ解析Ⅰ	1		演習			1		*
	データ処理とデータ解析Ⅱ		1	演習			1		*
	社会調査実習		2	実習		2			通年
	情報数学		2	講義		2			*
プログラミング概論		2	講義		2			*	
地域社会ネットワーク	地域社会学A		2	講義	2				
	地域社会学B		2	講義			2		
	コミュニティ論		2	講義		2			
	都市社会学		2	講義	2				
	地域社会学特講		2	講義			2		
	地域社会分析法A		2	講義			2		
	地域社会分析法B		2	講義			2		
	地域社会分析法C		2	講義			2		
	環境社会学		2	講義		2			
	地理学概論		2	講義		2			
	地方自治論		2	講義		2			
	地域保健論		2	講義			2		
地域計画論		2	講義			2			

授業科目の区分と科目名		単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				備考
		必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	
アジア 国際共生	国際社会学A		2	講義		2			
	国際社会学B		2	講義		2			
	国際政治学		2	講義	2				
	多文化社会論		2	講義		2			
	世界地理		2	講義	2				
	東アジア関係史		2	講義		2			
	韓国の社会と文化		2	講義	2				
	中国の社会と文化		2	講義	2				
	イスラム社会論		2	講義		2			
	文化人類学A		2	講義		2			
	文化人類学B		2	講義		2			
	国際教育文化交流論		2	講義			2		
	NPO論		2	講義			2		
	国際協力論		2	講義	2				
	外書講読A		1	演習			1		
	外書講読B		1	演習			1		
	アジア経済論		2	講義			2		
関連科目	哲学要論		2	講義			2		
	倫理学		2	講義			2		
	日本史概論		2	講義		2			
	西洋史概論		2	講義		2			
	法学概論 I		2	講義			2		
	法学概論 II		2	講義			2		
	教育社会学		2	講義			2		
	社会福祉学概論 I		2	講義	2				
	地域福祉論 I		2	講義			2		
	地域福祉論 II		2	講義			2		
	教育学概論 B		2	講義	2				
	生涯教育論		2	講義		2			
	社会教育論		2	講義		2			
	対人心理学		2	講義	2				
	Webデザイン演習		1	演習		1			*
	情報ネットワーク論		2	講義		2			*
	データベース論		2	講義		2			*
	プログラミング演習		1	演習			1		*
	情報検索システム論		2	講義			2		*
	問題解決演習		1	演習		1			*
公共社会学研究 I	1		演習			1			
公共社会学研究 II	1		演習			1			
卒業論文	6		演習				6		

注：*は総合人間社会コースの科目。

社会福祉学科「専門教育科目」

授業科目の区分と科目名		単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				備考
		必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	
基幹科目	社会福祉学概論Ⅰ	2		講義	2				
	社会福祉学概論Ⅱ	2		講義	2				
	社会保障論Ⅰ		2	講義	2				
	社会保障論Ⅱ		2	講義	2				
	社会福祉の歴史と思想		2	講義				2	
	社会福祉法制論A		2	講義			2		
	社会福祉法制論B		2	講義				2	
	福祉行財政と福祉計画		2	講義			2		
	地域福祉論Ⅰ		2	講義		2			
	地域福祉論Ⅱ		2	講義			2		
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	2		講義	2				
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	2		講義	2				
	相談援助の理論と方法A		2	講義		2			
	相談援助の理論と方法B		2	講義		2			
	相談援助の理論と方法C		2	講義		2			
	相談援助の理論と方法D		2	講義			2		
	社会福祉学演習	2		演習			2		
	卒業論文	6		演習				6	
社会福祉専門科目	老人福祉論		2	講義		2			
	介護福祉論		2	講義		2			
	障害者福祉論		2	講義		2			
	児童福祉論		2	講義		2			
	家族福祉論		2	講義			2		
	公的扶助論		2	講義		2			
	社会福祉調査法		2	講義		2			
	相談援助演習A		2	演習		2			
	相談援助演習B		2	演習			2		
	相談援助演習C		1	演習			1		
	相談援助実習指導Ⅰ		2	演習		2			
	相談援助実習指導Ⅱ		1	演習			1		
	相談援助実習		4	実習			4		
	福祉経営論		2	講義			2		
	保健医療論		2	講義		2			
	就労支援		1	講義		1			
	権利擁護と成年後見制度		2	講義			2		
	更生保護		2	講義			2		
	医療ソーシャルワーク論		2	講義			2		
	福祉住環境論		2	講義			2		
介護技術演習		1	演習			1			
医学概論		2	講義	2					
精神保健福祉専門科目	精神保健福祉論Ⅰ		2	講義		2			
	精神保健福祉論Ⅱ		2	講義			2		
	精神保健福祉論Ⅲ		2	講義			2		
	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）		2	講義		2			
	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ		2	講義			2		
	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ		2	講義			2		

授業科目の区分と科目名		単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				備考
		必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	
精神保健福祉専門科目	精神科リハビリテーション学Ⅰ		2	講義			2		
	精神科リハビリテーション学Ⅱ		2	講義			2		
	精神保健福祉演習		1	演習			1		
	精神保健福祉援助演習		2	演習			2		3年後期～4年後期
	精神保健福祉援助実習指導		3	演習			3		3年前期～4年後期
	精神保健福祉援助実習		5	実習				5	
	精神保健学Ⅰ		2	講義		2			人間形成学科の精神保健学と共通
	精神保健学Ⅱ		2	講義		2			
	精神医学Ⅰ		2	講義			2		
	精神医学Ⅱ		2	講義			2		
学校ソーシャルワーク専門科目	学校ソーシャルワーク論		2	講義			2		
	学校ソーシャルワーク演習		2	演習			2		3年後期～4年前期
	学校ソーシャルワーク実習指導		2	演習			2		3年後期～4年前期
	学校ソーシャルワーク実習		2	実習				2	
	発達心理学Ⅰ-A		2	講義	2				
	教育学概論B		2	講義	2				
	教育社会学		2	講義			2		
	教育制度論		2	講義			2		
	教育相談		2	講義				2	
	生徒指導論		2	講義				2	
関連科目	倫理学		2	講義		2			
	地方自治論		2	講義			2		
	仕事の経済学		2	講義		2			
	暮らしの経済学		2	講義		2			
	現代社会論A（ジェンダー・世代）		2	講義		2			
	現代社会論B（情報社会論）		2	講義		2			
	福祉社会学		2	講義			2		
	地域社会学A		2	講義	2				
	地域社会学B		2	講義			2		
	コミュニティ論		2	講義		2			
	NPO論		2	講義			2		
	発達心理学Ⅱ		2	講義	2				
	老年心理学		2	講義			2		
	老年期医学		2	講義			2		
	社会病理学		2	講義		2			
	社会心理学		2	講義	2				
	データ処理とデータ解析Ⅰ		1	演習			1		*
	データ処理とデータ解析Ⅱ		1	演習			1		*
	家族社会学A		2	講義		2			
	家族社会学B		2	講義		2			
	生涯教育論		2	講義		2			
	社会教育論		2	講義		2			
	人格心理学		2	講義	2				
	対人心理学		2	講義	2				
	情報数学		2	講義		2			*
	Webデザイン演習		1	演習		1			*
プログラミング概論		2	講義		2			*	
データベース論		2	講義		2			*	

授業科目の区分と科目名	単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				備考
	必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	
関連科目	情報ネットワーク論		2	講義		2		*
	プログラミング演習		1	演習			1	*
	情報検索システム論		2	講義			2	*
	問題解決演習		1	演習		1		*

注：*は総合人間社会コースの科目。

人間形成学科「専門教育科目」

区分	授業科目	単位		授業方法	開講時期（標準履修年次）				備考
		必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	
基幹科目 *1	教育学概論A		2	講義	2				2科目いずれか選択必修 Aは保育士・幼免必修
	教育学概論B		2	講義	2				
	教育史	2		講義		2			
	生涯教育論	2		講義		2			
	発達心理学Ⅰ-A		2	講義	2				2科目いずれか選択必修 Bは保育士・幼免必修
	発達心理学Ⅰ-B		2	講義	2				
	発達心理学Ⅱ	2		講義	2				
	教育心理学概論		2	講義		2			2科目いずれか選択必修
	幼児教育心理学		2	☆演習		2			幼児教育心理学は保育士・幼免必修
	子どもの保健Ⅰ-1		2	講義	2				
	子どもの保健Ⅰ-2		2	講義	2				
	臨床心理学		2	講義			2		
	教育相談		2	講義				2	
	教育相談（幼児教育）		2	講義				2	
展開科目	教育制度論		2	講義			2		
	保育学		2	講義		2			
	保育課程論		2	講義		2			
	保育方法論		2	講義			2		
	保育者論		2	講義	2				
	保育内容総論		2	☆演習		2			*2
	保育内容演習		2	☆演習				2	*2
	子どもの食と栄養		2	演習			2		*2
	子どもの保健Ⅱ		1	演習		1			*2
	保育内容・健康Ⅰ		1	演習			1		*2
	保育内容・健康Ⅱ		1	演習			1		*2
	保育内容・人間関係Ⅰ		1	演習			1		*2
	保育内容・人間関係Ⅱ		1	演習			1		*2
	保育内容・環境Ⅰ		1	演習		1			*2
	保育内容・環境Ⅱ		1	演習		1			*2
	保育内容・言葉Ⅰ		1	演習		1			*2
	保育内容・言葉Ⅱ		1	演習		1			*2
	保育内容・表現Ⅰ		1	演習			1		*2
	保育内容・表現Ⅱ		1	演習			1		*2
	乳児保育		2	☆演習			2		*2
	障害児保育		2	演習		2			
	幼児理解の理論と方法		2	講義			2		
	保育相談支援		1	演習				1	
	音楽Ⅰ		2	演習	2				*2
	音楽Ⅱ		2	演習		2			*2
	造形Ⅰ		2	演習	2				*2
造形Ⅱ		2	演習		2			*2	
体育Ⅰ		2	演習		2				
体育Ⅱ		2	演習			2			

区分	授業科目	単位		授業 方法	開講時期（標準履修年次）				備考	
		必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次		
こどもコース	児童文学		2	☆演習			2		* 2	
	子どもと遊び		2	講義			2		* 2	
	家庭支援論		2	講義			2			
	社会的養護		2	講義		2				
	社会的養護内容 I		1	演習			1		* 2	
	社会的養護内容 II		1	演習			1		* 2	
	社会福祉 I		2	講義	2					
	社会福祉 II		2	講義				2		
	相談援助		1	演習		1				
	児童家庭福祉		2	講義		2				
	音楽理論とソルフェージュ		1	演習		1			* 2	
	保育・教職実践演習（幼稚園）		2	☆演習				2	* 2	
	幼稚園教育実習事前事後指導		1	実習				1	* 2	
	幼稚園教育実習 I		2	実習			2		* 2	
	幼稚園教育実習 II		2	実習				2	* 2	
	保育実習指導 I		2	演習			1		* 2	
	保育実習 I		4	実習			4		* 2	
	保育実習指導 II-A		1	演習			1		* 2	
	保育実習 II-A		2	実習			2		* 2	
	保育実習指導 II-B		1	演習			1		* 2	
	保育実習 II-B		2	実習			2		* 2	
	展開科目 心理コース	学習心理学		2	講義		2			
		心身科学		2	講義		2			
		比較心理学		2	講義		2			
		生理心理学		2	講義		2			
		加齢基礎論		2	講義		2			
		知覚心理学		2	講義			2		
		認知心理学		2	講義			2		
対人心理学			2	講義	2					
社会心理学			2	講義	2					
集団心理学			2	講義			2			
老年心理学			2	講義			2			
家族心理学			2	講義				2		
人格心理学			2	講義	2					
障害者（児）心理学			2	講義		2				
ストレスマネジメント論			2	講義		2				
心理面接演習			2	☆演習			2		* 3	
心理アセスメント			2	☆演習			2		* 3	
精神保健学			2	講義	2				社会福祉学科の精神保健学 I と共通	
思春期保健			2	講義	2					
医学概論			2	講義	2					
老年期医学			2	講義			2			
精神医学 I			2	講義			2			
精神医学 II		2	講義			2				
心理学実験演習 I		2	☆演習		2			* 3		
心理学実験演習 II		2	☆演習		2			* 3		

区分	授業科目	単位		授業方法	開講時期（標準履修年次）				備考
		必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	
展開科目	心理学研究法		2	講義		2			
	心理・教育統計法		2	講義		2			
	社会統計学Ⅰ		2	講義		2			
	データ処理とデータ解析Ⅰ		1	演習			1		* 4
	データ処理とデータ解析Ⅱ		1	演習			1		* 4
関連科目	社会教育論		2	講義		2			
	図書館情報学		2	講義			(2)	2	隔年開講
	国際教育文化交流論		2	講義			2		
	社会教育特講A		2	講義		2			
	社会教育特講B		2	講義			2		
	社会教育特講C		2	講義			2		
	社会教育特講D		2	講義	2				
	社会教育特講E		2	講義		2			
	キャリア教育論		2	講義			2		
	情報数学		2	講義		2			* 4
	Webデザイン演習		1	演習		1			* 4
	プログラミング概論		2	講義		2			* 4
	情報ネットワーク論		2	講義		2			* 4
	データベース論		2	講義		2			* 4
	プログラミング演習		1	演習			1		* 4
	情報検索システム論		2	講義			2		* 4
	問題解決演習		1	演習		1			* 4
	演習	2		演習			2		
	卒業論文	6		演習				6	

- 注1：授業方法欄の「☆演習」は、毎週1回（90分）で半期、原則として15回の授業となる。
 2：「*1」の基幹科目は必修科目6単位および選択必修科目6単位を含み、合計18単位の修得を卒業要件とする。
 3：「*2」はこどもコース、「*3」は心理コースの学生のみ履修できる科目。
 4：「*4」は総合人間社会コースの科目。

看護学部「専門基礎科目」

授業科目の区分と科目名	単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				条件
	必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	
人間の 見方と 健康	ホリスティック人間論	1		講義	1			
	生命倫理		2	講義	2			
	遺伝学		2	講義	2			
	栄養学	2		講義	2			
	人類生態学		2	講義		2		
	疫学		2	講義		2		
	保健統計学	2		講義		2		統計学を履修していることが望ましい
	保健社会調査論		2	演習			2	
	臨床心理学		2	講義			2	
	精神保健学		2	講義		2		
	東洋医学概論	1		講義		1		
医療 人間と 保健・	保健社会学	1		講義	1			
	保健医療福祉行政論Ⅰ	1		講義		1		
	保健医療福祉行政論Ⅱ		2	講義			2	
	公衆衛生学	2		講義	2			

看護学部「専門科目」

授業科目の区分と科目名		単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				条件	
		必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次		
基盤看護学系	実験看護学	生態機能看護学Ⅰ	2		講義	2				
		生態機能看護学Ⅱ	2		講義	2				
		生態機能看護学Ⅲ		1	演習				1	
		看護生化学	2		講義	2				
		病態看護学Ⅰ	2		講義		2			
		病態看護学Ⅱ	2		講義		2			
		看護薬理学	2		講義		2			
		感染・免疫看護学演習	1		演習	1				
		生態・病態看護学実験	1		実験		1			
	基礎看護学	基礎看護学概論	2		講義	2				
		基礎看護技術論	2		演習	2				
		ケアリング論	1		講義	1				
		シンプトンマネジメント論	1		演習		1		フィジカルアセスメント論、看護過程を履修していること	
		フィジカルアセスメント論	2		演習		2		基礎看護技術論を履修していること	
		看護過程	1		演習		1		基礎看護学概論、ケアリング論、基礎看護技術論を履修していること	
		看護研究	2		講義			2		
		基礎看護学実習Ⅰ	1		実習	1				
		基礎看護学実習Ⅱ	2		実習		2		基礎看護技術論、基礎看護学実習Ⅰを修得し、フィジカルアセスメント論、看護過程を履修していること	
	臨床機能看護学	看護管理論	1		講義				1	
		看護教育学	1		講義			1		
		看護実践論	1		演習			1		
		教師論		2	講義			2		
		看護情報学		1	演習		1			
	臨床看護学系	精神看護学	精神看護学概論	1		講義		1		
			精神看護学	2		講義		2		
			精神看護学演習Ⅰ	1		演習			1	精神看護学概論、精神看護学を履修していること
			精神看護学演習Ⅱ	1		演習			1	精神看護学概論、精神看護学を履修していること
			精神看護学実習	2		実習			2	精神看護学概論、精神看護学、精神看護学演習Ⅰ・Ⅱを履修していること
成人看護学		成人看護学概論	1		講義		1			
		成人急性看護学	2		講義		2		成人看護学概論を履修していること	
		成人慢性看護学	2		講義		2		成人看護学概論を履修していること	
		成人看護学演習Ⅰ	1		演習			1	成人急性看護学、成人慢性看護学を修得していること	
		成人看護学演習Ⅱ	1		演習			1	成人急性看護学、成人慢性看護学を修得していること	
		成人急性看護学実習	3		実習			3	成人看護学概論、成人急性看護学、成人慢性看護学、成人看護学演習Ⅰ・Ⅱを修得していること	
成人慢性看護学実習		3		実習			3	成人看護学概論、成人急性看護学、成人慢性看護学、成人看護学演習Ⅰ・Ⅱを修得していること		
老年看護学		老年看護学概論	1		講義		1			
		老年看護学	2		講義		2		老年看護学概論を履修していること	
		老年看護学演習Ⅰ	1		演習			1	老年看護学を履修していること	
		老年看護学演習Ⅱ	1		演習			1	老年看護学演習Ⅰを修得していること	
		老年看護学実習Ⅰ	1		実習		1			
老年看護学実習Ⅱ		3		実習			3	老年看護学実習Ⅰ、老年看護学演習Ⅱを履修していること		
小児看護学		小児看護学概論	1		講義		1			
		小児看護学	2		講義		2		小児看護学概論を履修していること	
	小児看護学演習Ⅰ	1		演習			1	小児看護学概論、小児看護学を履修していること		
	小児看護学演習Ⅱ	1		演習			1	小児看護学概論、小児看護学、小児看護学演習Ⅰを修得していること		
	小児看護学実習	2		実習			2	小児看護学演習Ⅱを履修していること		

授業科目の区分と科目名			単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				条 件	
			必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次		
臨床看護学系	女性看護学	女性看護学概論	1		講義		1				
		女性看護学	2		講義		2			女性看護学概論を履修していること	
		女性看護学演習Ⅰ	1		演習			1		女性看護学概論、女性看護学を履修していること	
		女性看護学演習Ⅱ	1		演習				1	女性看護学概論、女性看護学、女性看護学演習Ⅰを修得していること	
		女性看護学実習	2		実習				2	女性看護学演習Ⅱを履修していること	
ヘルスプロモーション看護学系	在宅看護学	在宅看護学概論	1		講義		1				
		在宅看護学	2		講義		2			在宅看護学概論を履修していること	
		在宅看護学演習Ⅰ	1		演習			1		在宅看護学概論、在宅看護学を履修していること	
		在宅看護学演習Ⅱ	1		演習				1	在宅看護学概論、在宅看護学、在宅看護学演習Ⅰを修得していること	
		在宅看護学実習	2		実習				2	在宅看護学演習Ⅱを履修していること	
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学Ⅰ	2		講義		2				
		公衆衛生看護学Ⅱ		2	講義				2		公衆衛生看護学Ⅰを履修していること
		公衆衛生看護学Ⅲ		1	講義				1		公衆衛生看護学Ⅱを履修していること
		公衆衛生看護技術論Ⅰ		2	演習				2		公衆衛生看護学Ⅰを履修していること
		公衆衛生看護技術論Ⅱ		2	演習				2		公衆衛生看護学Ⅱを履修していること
		組織協働活動論		2	講義				2		公衆衛生看護学Ⅲを履修していること
		公衆衛生看護学Ⅰ		1	演習			1			注2) 資格・免許の取得（保健師国家試験受験資格）参照
		公衆衛生看護学Ⅱ		2	演習				2		公衆衛生看護学Ⅰを履修していること
		公衆衛生看護学Ⅲ		2	講義				2		公衆衛生看護学Ⅱを履修していること
		公衆衛生看護学実習Ⅰ		1	実習				1		注2) 資格・免許の取得（保健師国家試験受験資格）参照
		公衆衛生看護学実習Ⅱ		4	実習				4		注2) 資格・免許の取得（保健師国家試験受験資格）参照
		家族看護学	1		講義				1		
	国際・災害看護論		1	講義			1				
	学校保健学	養護概説		2	講義			2			教職に関する科目と養護に関する科目を履修していることが望ましい
		学校保健学		1	講義				1		不登校・ひきこもり援助論を履修していること
		教職実践演習（養護教諭）		2	演習				2		教職に関する科目、養護に関する科目、養護実習を履修していること
		養護実習事前事後指導		1	実習				1		教職に関する科目と養護に関する科目を履修していること
		健康教育論		2	講義				2		
		養護実習		4	実習				4		教職に関する科目と養護に関する科目を履修していること
	モリスプロ	ヒーリング論		1	講義	1					
		ヒーリングセラピー		1	演習			1			ヒーリング論を履修していること
		東洋看護学演習		1	演習				1		
	キャリア像確立講義Ⅰ		1	講義	1						
	キャリア像確立講義Ⅱ		1	講義				1			
	統合実習		2	実習					2	注4)	
	専門看護学ゼミ		2	演習					2		
	卒業研究		2	演習					2	看護研究、専門看護学ゼミを履修していること、2年次までの必修科目がすべて修得されていること	

注1：履修とは、単位を修得するために履修登録をし、特定の科目に必要な時間数受講したことを指し、修得とは、履修し一定の成績を得て、単位として認められたものを指す。

注2：公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲの条件については、資格・免許の取得（保健師国家試験受験資格）を参照すること。

注3：キャリア像確立講義Ⅰ、キャリア像確立講義Ⅱは、自由選択の単位となる。

注4：統合実習は、既習の看護知識・技術を統合し、実践能力や問題解決能力を養うことをねらいとしているため、原則として各領域別実習の単位が修得見込みであることを履修の条件としている。領域別実習の単位修得が見込めない場合、統合実習を履修できず卒業延期となることがあるので、いずれの領域でも単位修得ができるよう実習に臨むこと。

(3) 卒業必要科目及び単位数

区 分		人 間 社 会 学 部									看 護 学 部			
		公共社会学科			社会福祉学科			人間形成学科			看護学科			
		必修	選択	自由 選択	必修	選択	自由 選択	必修	選択	自由 選択	必修	選択	自由 選択	
全 学 共 通 科 目	教 養 科 目	人文科学	4	12	12	4	12	4	12	4	12		6	8
		社会科学	4			4		4						
		自然科学	4			4		4						
		総合科目	4			4		4						
	基 礎 科 目	必須外国語	英語他	6	12	12	6	12	6	12	6	12	6	2
		選択外国語	リーディング、コリア語、中国語、仏語、独語他	6			6		6		2			
		情報処理		2			2		2		1			
		健康科学	講義				2		2		2			
			実習	2			2		2		2			
		基礎ゼミ		1			1		1		1			
		発展ゼミ												
	全学横断型科目													
	専門基礎科目(看護学部)											10		
専門科目(看護学部)											90			
専門教育科目(人間社会学部)		19	50		16	53		14	55					
教職に関する専門教育科目														
合計(卒業必要最低単位数)		128			128			128			128			

注1：上表の「選択」には「選択必修」も含まれる。

2：人間社会学部における「専門教育科目」、看護学部における「専門科目」には、卒業論文又は卒業研究が含まれる。

3：「自由選択」の履修方法

他学部・他学科の開設科目を含み、「全学共通科目」「全学横断型科目」「専門基礎科目」「専門科目」「専門教育科目」及び「教職に関する専門教育科目」から自由に選択履修することができる。ただし、自分の所属する学部・学科の開設科目は自由に選択できるが、他学部・他学科の開設科目の場合は、当該学部・学科が指定した科目の中から選択し、あらかじめその履修を届け出なければならない。

なお、看護学部においては、自由選択の授業科目のうち卒業要件として認められるのは、「全学共通科目」「全学横断型科目」「専門基礎科目」及び「専門科目」である。人間社会学部の「専門教育科目」及び「教職に関する専門教育科目」は卒業要件としては認められない。

(4) 全学横断型科目

授業科目の区分と科目名	単 位		授業 方法	開設時期(標準履修年次)				卒業要件	
	必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	人間社会学部	看護学部
不登校・ひきこもり援助論		2	講義	2				各学科とも自由 選択の12単位に 含めることが できる	自由選択の8単 位に含めること ができる
子供学習支援論		1	講義	1					
プレ・インターンシップ		2	実習	2					
専門職連携入門		1	講義	1					
※データベース論		2	講義		2				
※情報ネットワーク論		2	講義		2				
※問題解決演習		1	演習		1				

※人間社会学部においては各学科の定めるところにより、専門教育科目の単位に含めることができる。

(5) 講義・演習・実習の開講科目数

(単位：科目数)

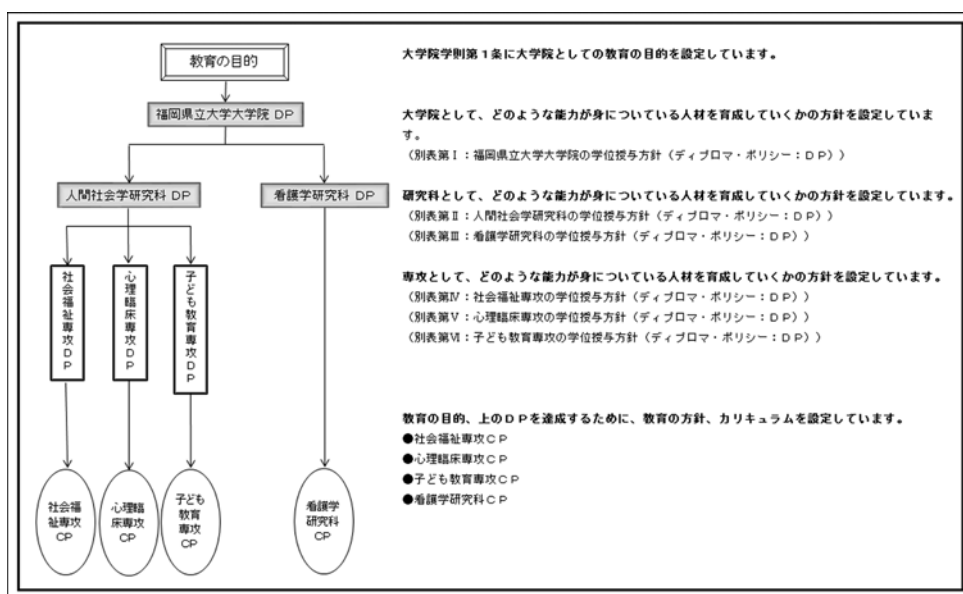
学部	講義科目	演習科目	実習科目	合計
全学共通科目（教養）	36	0	0	36
全学共通科目（基礎）	2	44	2	48
全学横断型科目	5	2	1	8
公共社会学科専門科目	74	14	1	89
福祉社会学科専門科目	76	16	3	95
人間形成学科専門科目	72	39	6	117
看護学科専門科目	53	30	16	99

2. 大学院

(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシー（DP）とは、修了認定・学位授与に関する基本的な方針のことを言い、本学を卒業することでどのような能力が身についているかを保証するものです。教育の目的を前提に、大学院、各研究科、各専攻のDPを別表第Iから別表第VIのとおり定めています。

また、カリキュラム・ポリシー（CP）とは教育課程編成・実施方針のことを言い、教育の目的、上のDPを達成するために各専攻がそれぞれ教育課程の方針、カリキュラムを設定しています。



大学院のDPは以下のように4つの領域、さらに6項目のポリシーに分かれており、これら6項目のポリシーのすべてが、2年間で履修する科目のいずれかに位置付けられています。

領域	ポリシー	
知識・理解	DP 1	専門的知識
思考・判断・表現	DP 2	論理的思考力
	DP 3	表現力
関心・意欲・態度	DP 4	探究力
	DP 5	社会貢献力
技能	DP 6	実践力

別表第Ⅰ. 福岡県立大学大学院の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・理解	DP 1	保健・医療・福祉分野の増進および地域の発展に寄与できる指導的人材として必要な専門的知識を有している。
思考・判断・表現	DP 2	保健・医療・福祉分野の課題を専門的立場から検討し、解決するための方法を見出すことができる。
	DP 3	専門性のある学術的手法を用いて導き出した自分の考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	DP 4	専門とする課題について主体的に探求することができる。
	DP 5	保健・医療・福祉の将来を見据え、自らの専門性に基づいて社会に貢献できる。
技能	DP 6	専門分野に即した問題解決技法を身につけている。

別表第Ⅱ. 人間社会学研究科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・理解	DP 1	<input type="checkbox"/> 高度福祉社会の実現に関わる専門的知識を有している。 <input type="checkbox"/> 専門分野と連携可能な領域と接点となる知識を有している。
思考・判断・表現	DP 2	<input type="checkbox"/> 高度福祉社会の実現のための課題を専門的立場から検討できる。
	DP 3	<input type="checkbox"/> 専門性のある学術的手法を用いて導き出した自分の考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	DP 4	<input type="checkbox"/> 高度福祉社会の実現のための現代的課題について主体的に探究することができる。
	DP 5	<input type="checkbox"/> 高度福祉社会の実現のために専門性を活かして貢献できる。
技能	DP 6	<input type="checkbox"/> 専門性に即して高度福祉社会における問題解決技法を身につけている。

別表第Ⅲ. 看護学研究科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・理解	DP 1	<input type="checkbox"/> 専門職業人として倫理に関わる知識を有している。 <input type="checkbox"/> 看護学に関わる専門的知識を有している。
思考・判断・表現	DP 2	<input type="checkbox"/> 看護現象を科学的及び学際的視点から捉え、看護実践の場に還元できる解決方法を見出すことができる。
	DP 3	<input type="checkbox"/> 専門性のある学術的手法を用いて導き出した自分の考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	DP 4	<input type="checkbox"/> 看護学に関する課題について主体的に探究することができる。
	DP 5	<input type="checkbox"/> 保健・医療・福祉の将来を見据え、看護学に関する専門的知識に基づいて、さまざまな看護活動に貢献できる。
技能	DP 6	<input type="checkbox"/> 看護に関する課題に取り組むための問題解決技法を身につけている。

別表第Ⅳ. 人間社会学研究科社会福祉専攻の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・理解	DP 1	<input type="checkbox"/> 児童、障害者、高齢者を中心として、地域において様々な生活問題を抱える人々の支援に必要な知識を理解している。 <input type="checkbox"/> 生活問題を抱える人々を支援するために有用な隣接学問に関する知識を理解している。
思考・判断・表現	DP 2	<input type="checkbox"/> 社会福祉の価値をベースとし、生活問題を抱える人々の実情に応じた支援方法を提案できる。
	DP 3	<input type="checkbox"/> 社会福祉の学術的手法を用いて、抽出された諸問題について自分の考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	DP 4	<input type="checkbox"/> 文献や調査等から、社会福祉に関する課題を設定できる。
	DP 5	<input type="checkbox"/> フィールドワークなどを通して、福祉活動の発展に寄与できる。
技能	DP 6	<input type="checkbox"/> 社会福祉に関する問題を客観化させるための手法を身につけている。

別表第Ⅴ. 人間社会学研究科心理臨床専攻の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・理解	DP 1	<input type="checkbox"/> 心理学及び心理臨床に関わる専門的知識を有している。
思考・判断・表現	DP 2	<input type="checkbox"/> 心理学に関する専門的知識をもとに心理的課題を検討できる。
	DP 3	<input type="checkbox"/> 心理学的手法を用いて導き出した自分の考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	DP 4	<input type="checkbox"/> 心理的諸問題に関わる現代的課題について主体的に探究することができる。
	DP 5	<input type="checkbox"/> 心理学に関する専門的知識に基づいて、積極的に参加できる。
技能	DP 6	<input type="checkbox"/> 心理的諸問題に関する課題に取り組むための問題解決技法を身につけている。

別表第VI. 人間社会学研究科子ども教育専攻の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・理解	DP 1	<input type="checkbox"/> 子ども教育(保育・幼児教育及び小学校段階を中心とする学校教育)に関わる専門的知識を有している。
思考・判断・表現	DP 2	<input type="checkbox"/> 子ども教育に関する専門的知識をもとに、今日的・地域的教育課題を検討できる。
	DP 3	<input type="checkbox"/> 教育学の学術的手法を用いて導き出された自分の考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	DP 4	<input type="checkbox"/> 子ども教育の現場における今日的・地域的教育課題を抽出し、主体的に探究することができる。
	DP 5	<input type="checkbox"/> 今日的・地域的教育課題の解決のために、子ども教育の現場で活躍できる。
技能	DP 6	<input type="checkbox"/> 子ども教育に関する今日的・地域的課題に取り組むための実践能力および学術的手法を身につけている。

●人間社会学研究科 教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー：CP)

人間社会学研究科における2つの専攻では、それぞれの学位授与方針DPに基づいて、教育課程編成・実施方針(CP:Curriculum Policy)を定めています。

【社会福祉専攻】

社会福祉専攻では、教育目標を達成するために、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施します。

必修科目10単位を含めて、合計30単位以上を修得する必要があります。ただし、他専攻科目から4単位まで、修了要件として単位認定できます。

社会福祉専攻は、高度で実践的な社会福祉専門職を養成するために、「社会福祉分野」「地域社会分野」の2分野から構成されています。社会福祉専攻の教育課程は「コア科目」のほか、「社会福祉分野」および「地域社会分野」の科目群から構成されています。「コア科目」は、フィールドワークおよび特別研究から編成され、フィールドワーク(実習)を通じて、社会福祉専門職としての実践性を高め、福祉活動の発展に寄与できるようになること、また、特別研究を通じて、文献や調査等から、社会福祉に関する課題を設定し、社会福祉に関する問題を客観化させるための手法を身につけることを目的に配置する科目群です。「社会福祉分野」は児童、障害者、高齢者を中心として、地域における種々の生活問題を抱える人々の支援に必要な知識を理解し、社会福祉の価値をベースとして、生活問題を抱える人々の実情に応じた支援方法を提案できることを目的に配置する科目群です。「地域社会分野」は地域社会分野の授業科目や他専攻科目の授業を通じて、生活問題を抱える人々を支援するために有用な隣接学問に関する知識を理解することを目的に配置する科目群です。

【心理臨床専攻】

心理臨床専攻では、教育目標を達成するために、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施します。

必修科目14単位を含む合計32単位以上を修得する必要があります。ただし、他専攻科目から4単位まで、修了要件として単位認定できます。

心理臨床専攻は、心理学全般の領域を関連付けながら、心理臨床に関する知識技能を深め、心理的支援を必要とする人に対するカウンセリングなどの実践能力を身につけ、さらに他職種とも連携する能力をもつ臨床心理士を養成することを目的としています。本専攻の教育課程は、「必修科目」とA～E群で構成されています。「臨床心理基礎科目」は、心理臨床に関わる専門的知識を身につけるために、臨床心理学に関わる基礎的・基本的な科目群、ならびに心理面接の基礎的な技能を習得するための臨床心理基礎実習(1年次)と学内実習施設と学外実習機関で行う臨床心理実習(2年次)で構成されています。さらに修士論文の作成を総合的に支援する特別研究(1・2年次)があります。A群は心理学や臨床心理学の研究法に関する科目群、B群は心理学の各分野に関する科目群、C群は社会関係に関する科目群、D群は医療や障害に関する科目群、E群は臨床心理学の技術に関する科目群から構成されています。

臨床心理士受験資格の取得には、「臨床心理基礎科目」のすべての科目をA～E群からそれぞれ1科目以上修得することが必要です。

【子ども教育専攻】

人間社会学研究科子ども教育専攻では、教育目標を達成するために、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施します。

必修科目 12 単位を含めて 30 単位以上を修得する必要があります。

子ども教育専攻は、保育・幼児教育分野および小学校段階を中心とする学校教育分野における専門的職業人の養成を目指しており、保育学・教育学・児童福祉学および関係諸科学に関わる科目で構成される。本専攻の教育課程は、「子ども教育コア科目」(必修科目)と「子ども教育専門科目」(選択科目)で編成されています。子ども教育コア科目(必修科目)は、子ども教育全体を俯瞰するための基礎的・基本的な科目である「教育課題研究」「教育課題演習」(いずれも 1 年次)、ならびに実践的課題の研究を行う「地域教育課題演習」(2 年次)「子ども教育実践実習 I・II」(1~2 年次)、さらに修士論文の作成を総合的に支援する特別研究(1・2 年次)から編成されています。また、子ども教育専門科目(選択科目)は、子ども教育に関して主に専門的知識を身につけるための「研究」科目群と、論理的思考力・探究力を身につける「演習」科目で構成されています。

子ども教育に関わる研究科目は、保育所・幼稚園および小学校の保育・教育課程、乳・幼児及び児童の心理、保育内容・教科(造形表現・音楽表現・身体発育発達)、学校教育、児童福祉および社会学に関する専門的知識について学習する科目群です。また、演習科目は、保育所・幼稚園および小学校の保育・教育課程、乳・幼児及び児童の心理、保育内容・教科(造形表現・音楽表現・身体発育発達)、学校教育、児童福祉に加え、特別支援教育および子ども自立支援に関する内容についての論理的思考力・探究力を身につけるための科目群です。

●看護学研究科 教育課程編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー：CP)

看護学研究科は、教育目標を達成するために、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施しています。

看護学研究科看護学専攻は、「基盤看護学領域」、「ヘルスプロモーション看護学領域」、「臨床看護学領域」、「助産学領域」の 4 つの領域から構成されています。また、本専攻の教育課程は「専門必修科目」、「共通選択科目」、「看護学分野専門科目」から編成されています。「専門必修科目」は、看護学の基盤について学習する科目群です。「共通選択科目」は、学際的な知識を俯瞰するために学修する科目群です。「看護学分野専門科目」は、看護学に関して専門的に学習し、看護現象を科学的及び専門的な視点から捉え、看護学に関する専門知識に基づく看護活動やその支援の在り方について学修する科目群です。

学位の取得要件として、専門必修科目から 6 単位、共通選択科目から 8 単位、看護学分野専門科目から 16 単位以上、計 30 単位以上(精神看護専門看護師コースは 42 単位以上、老年看護専門看護師コース 43 単位以上、助産学研究コース 30 単位以上、助産実践形成コース 58 単位以上)を修得しなければなりません。

(2) 教育課程及び履修基準

人間社会学研究科

専攻	科目区分	授業科目	標準開講年次と単位数				備考
			年次	必修	選択	自由	
社会福祉専攻	コア科目	特別研究	1～2	4			履修方法及び修了要件 1. 修士課程の修了には、各自の研究分野に従い、指導教員の下に、所定の30単位以上(心理臨床専攻は32単位以上)を修得し、かつ修士論文の審査と最終試験に合格しなければならない。 2. 社会福祉専攻は、専攻から必修科目10単位を含めて、合計30単位以上を修得すること。ただし、他専攻科目から4単位まで、修了要件として単位認定できる。 3. 心理臨床専攻は、専攻から必修科目14単位を含めて、合計30単位以上を修得すること。ただし、他専攻から4単位まで、修了要件として単位認定できる。 4. 心理臨床専攻の臨床心理基礎科目及びE群については、他専攻の学生は受講できない。
		社会福祉研究法	1	2			
		フィールドワーク	1		2		
		量的研究法	1・2		1		
		質的研究法	1・2		1		
	社会福祉分野	社会福祉研究	1・2				
		社会福祉演習	1・2	2	2		
		ソーシャルワーク研究	1・2	2			
		ソーシャルワーク演習	1・2		2		
		高齢者福祉研究	1・2		2		
高齢者福祉演習		1・2		2			
障害者福祉研究		1・2		2			
障害者福祉演習		1・2		2			
地域福祉研究		1・2		2			
地域福祉演習		1・2		2			
地域社会分野	子ども家庭福祉研究	1・2		2			
	子ども家庭福祉演習	1・2		2			
	精神保健福祉研究	1・2		2			
	精神保健福祉演習	1・2		2			
	福祉制度比較研究	1・2		2			
	社会保障制度研究	1・2		2			
	社会政策研究 (H29年度は開講せず)	1・2		2			
	社会政策演習 (H29年度は開講せず)	1・2		2			
	地域問題研究	1・2		2			
	地域問題演習 (H29年度は開講せず)	1・2		2			
公共政策研究 (H29年度は開講せず)	1・2		2				
地域文化研究	1・2		2				
地域文化演習	1・2		2				
地域社会研究 (H29年度は開講せず)	1・2		2				
地域社会演習 (H29年度は開講せず)	1・2		2				
	計		10	50			
心理臨床専攻	臨床心理基礎科目	臨床心理学特論	1・2				
		臨床心理面接特論	1・2	4			
		臨床心理査定演習	1・2	4	4		
		臨床心理基礎実習	1				
		臨床心理実習(学内)	2	2	1		
		臨床心理実習(施設)	2		1		
		A群	臨床心理学研究法特論	1・2		2	
		心理学研究法特論	1・2		2		
	B群	発達心理学特論	1・2		2		
		認知心理学特論	1・2		2		
C群	社会心理学特論	1・2		2			
	人間関係特論	1・2		2			
D群	神経生理学特論	1・2		2			
	老年心理学特論	1・2		2			
E群	心理療法特論	1・2		2			
	投影法特論	1・2		2			
	学校臨床心理学特論	1・2		2			
	特別研究	1～2	4				
	計		20	22			
コア科目	教育課題研究	1	2				
	教育課題演習	1	2				
	地域教育課題演習	1	2				
	子ども教育実践実習Ⅰ	1	1				
	子ども教育実践実習Ⅱ	2	1				
	特別研究	1・2	4				

子ども教育専攻	専 門 科 目	子ども教育課程研究	1・2	2		
		子どもの心理研究	1・2	2		
		子ども教育研究A	1・2	2		
		子ども教育研究B	1・2	2		
		子ども教育研究C	1・2	2		
		子どもの福祉研究	1・2	2		
		学校教育研究	1・2	2		
		子育ての社会学	2	2		
		子ども教育課程演習	1	2		
		子どもの心理演習	1	2		
		子ども教育演習A	1	2		
		子ども教育演習B	1	2		
		子ども教育演習C	1	2		
		子どもの福祉演習	1	2		
		学校教育演習	1	2		
		特別支援教育演習	1・2	2		
		子ども自立支援特別演習	1・2	2		
	計		12	34		

看護学研究科

科目区分	授業科目の名称	標準開講年次・時期・単位数					
		年次	開講時期	必修	選択	自由	
専門必修科目	看護理論	1	前期	2			
	看護倫理	1	前期	2			
	看護研究法	1	前期	2			
	計			6			
共通選択科目	コンサルテーション論	1	前期		2		
	看護教育学	1	後期		2		
	英語文献講読特論	1	前期		2		
	看護政策論	1	通年		2		
	Advanced生理学・病態生理学	1	前期		2		
	Advancedフィジカルアセスメント	1	後期		2		
	Advanced臨床薬理学	1	通年		2		
	看護管理学	1	後期		2		
	臨床心理学特論	1	後期		2		
	家族社会学特論	1	後期		2		
	ヘルスプロモーション科学	1	後期		2		
	哲学的人間学	1	後期		2		
	データ解析特論	1	前期		2		
	データ解析演習	1	後期		2		
	ウイメンズヘルス特論	1	前期		1		
ウイメンズヘルス演習	1	後期		1			
計				30			
専門科目	基盤看護学領域	看護教育学特論	1	前期		2	
		看護教育学演習	1	後期		2	
		基礎看護学特論	1	前期		2	
		基礎看護学演習	1	後期		2	
		看護心理学特論	1	前期		2	
		看護心理学演習	1	後期		2	
		実験看護学特論	1	前期		2	
		実験看護学演習	1	後期		2	
		基盤看護学特別研究	1～2	通年		8	
		小計				24	

看護学専攻	ヘルスプロモーション看護学領域	思春期ヘルスプロモーション特論	1	前期	2		
		思春期ヘルスプロモーション演習	1	後期	2		
		地域看護学特論	1	前期	2		
		地域看護学演習	1	後期	2		
		在宅看護学特論	1	前期	2		
		在宅看護学演習	1	後期	2		
		ヘルスプロモーション看護学特別研究	1～2	通年	8		
		小計			20		
	臨床看護学領域	専門科目	小児看護学特論	1	前期	2	
			小児看護学演習	1	後期	2	
			代替・補完看護学特論	1	前期	2	
			代替・補完看護学演習	1	後期	2	
			老年看護学特論	1	前期	2	
			老年看護学演習	1	後期	2	
			高齢者健康生活アセスメント論	1	前期	2	
			老年病診断治療学	1	前期	1	
			老年病診断治療学演習	1	前期	1	
			高齢者看護方法論	1	前期	2	
			高齢者地域・家族看護方法論	1	後期	1	
			高齢者保健医療福祉政策ケアシステム論	1	後期	2	
			終末期高齢者看護論	1	後期	2	
			認知症高齢者看護論	1～2	前期	2	
			終末期老年看護実習Ⅰ	1	後期	2	
			終末期老年看護実習Ⅱ	1	後期	3	
			認知症老年看護実習Ⅰ	1～2	前期	2	
			認知症老年看護実習Ⅱ	1～2	前期	3	
			成人看護学特論	1	前期	2	
			成人看護学演習	1	後期	2	
			精神看護学特論	1	前期	2	
精神看護学演習			1	後期	2		
精神看護関連法規・制度・政策論			1	通年	2		
精神看護論			1	通年	2		
精神看護アセスメント論			1	通年	2		
精神看護セラピーⅠ			1	通年	2		
精神看護セラピーⅡ			1	通年	2		
リエゾン精神看護論			1	通年	2		
精神障がい者地域移行・地域定着看護論			1	通年	2		
精神看護専門看護師直接ケア実習	1	通年	2				
精神看護専門看護師役割実習	1	通年	2				
精神科診断治療実習	2	通年	2				
Advanced精神看護専門看護師直接ケア実習	2	通年	2				
Advanced精神看護専門看護師役割実習	2	通年	2				
臨床看護学特別研究	1～2	通年	8				
課題研究	1～2	通年	4				
小計			79				

看護学専攻	専門科目	助産学領域	基礎助産学特論	1	前期	2	
			基礎助産学演習	1	通年	2	
			助産学特論	1	前期	2	
			助産学演習	1	後期	2	
			ホリスティック助産学特論	1	前期	1	
			ホリスティック助産学演習	1	後期	2	
			助産実践学Ⅰ（妊娠期）	1	前期	2	
			助産実践学Ⅱ（分娩期）	1	通年	4	
			助産実践学Ⅲ（産褥・新生児期）	1	後期	2	
			助産実践学Ⅳ（ハイリスクケア）	1	後期	2	
			マネジメント助産学特論	2	前期	2	
			コミュニティ助産学特論	1	後期	1	
			コミュニティ助産学演習	1	後期	2	
			助産学実習Ⅰ（外来ケア実習）	1	前期	1	
			助産学実習Ⅱ（周産期ケア実習）	1	後期	8	
			助産学実習Ⅲ（助産所実習・継続ケア実習）	2	前期	2	
			助産学実習Ⅳ（ハイリスクケア実習）	2	前期	1	
			助産学実習Ⅴ（マザークラス実習）	2	後期	2	
			助産実践アドバンス特論	1	後期	1	
			助産実践アドバンス実習	2	前期	4	
助産学特別研究	1～2	通年	8				
助産学課題研究	1～2	通年	4				
小計					57		
合計				6	210		

注1. 専門必修科目6単位、共通選択科目8単位、看護学分野専門科目16単位以上を修得する必要があります。

注2. 「特別研究」と「課題研究」は、修士論文作成指導であり、通常1年次前期から履修しますが、長期履修の場合は2年次前期からの履修もあり得ます。

(3) 講義・演習・実習の開講科目数

(単位：科目数)

研究科	講義科目	演習科目	実習科目	合計
社会福祉専攻科目	17	8	1	26
心理臨床専攻科目	12	3	3	18
地域教育支援専攻科目	8	13	2	23
看護学専攻科目	52	26	15	93

3. 学生の単位修得状況

(1) 成績評価及び単位認定（学部・研究科）

単位の修得の認定は、試験の成績および素の学習状況・出席状況等の総合的な評価によって行われるものであり、単位の修得はこれによって決定される。単位修得の認定を受けるためには、試験の有無にかかわらず、原則として授業実施回数（補講も含む）の3分の2以上の出席が必要となる。本学の試験の成績評価は、100点を満点とする次の5段階の評価点で行い、各段階に以下の成績評語及びGP（グレード・ポイント）を当て、60点以上を合格として単位を修得したものと認定する。ただし、大学院はGPを導入していない。

評価点	成績評価	GP	単位の認定
90～100	A	4.0	認定する (合格)
80～89	B	3.0	
70～79	C	2.0	
60～69	D	1.0	認定しない (不合格)
0～59	不可	0.0	
—	未受験	0.0	
—	無資格	0.0	

※未受験：出席は満たしているが、試験を受けなかったこと。

※無資格：出席を満たしていないこと。

学期ごとに、成績評語及び以下の計算式によって獲得G P、G P A及び累積G P Aを算出。

$$\text{獲得G P} = (\text{履修登録科目の単位数}) \times (\text{成績評語に対応するG P})$$

当該学期の履修登録科目の獲得G Pの総和

$$\text{G P A} = \frac{\text{当該学期の履修登録科目の獲得G Pの総和}}{\text{当該学期の履修登録科目の総単位数}}$$

前学期までの獲得G Pの総和 + 当該学期の獲得G Pの総和

$$\text{累積G P A} = \frac{\text{前学期までの獲得G Pの総和} + \text{当該学期の獲得G Pの総和}}{\text{当該学期までの履修登録科目の総単位数}}$$

当該学期までの履修登録科目の総単位数

(G P A、累積G P A：小数点第3位以下切り捨て)

(2) 学部単位習得状況 (学科ごとの成績評価とG P A平均値)

(単位：件数)

H 2 6 年度以前入学者	人間社会学部			看護学部
	公共社会学科	社会福祉学科	人間形成学科	看護学科
A	3,065	4,927	5,294	4,651
B	2,719	2,622	2,407	4,061
C	1,417	1,258	919	2,658
D	926	533	273	1,697
不可	228	74	31	74
未受験	144	55	30	3
無資格	536	310	106	68
G P A平均値	2.76	3.15	3.38	2.85

H 2 8 年度入学者	人間社会学部			看護学部
	公共社会学科	社会福祉学科	人間形成学科	看護学科
A	1,738	2,878	2,666	2,472
B	1,713	1,678	1,716	2,758
C	1,179	878	899	1,997
D	676	372	433	1,338
不可	66	27	36	86
未受験	20	16	13	13
無資格	29	10	65	58
G P A平均値	2.77	3.18	3.08	2.68

H 2 7 年度入学者	人間社会学部			看護学部
	公共社会学科	社会福祉学科	人間形成学科	看護学科
A	2,572	3,435	4,120	3,144
B	1,924	2,121	2,214	2,999
C	1,474	1,110	1,033	2,237
D	921	395	427	1,462
不可	85	38	47	89
未受験	50	18	22	4
無資格	77	42	86	17
G P A平均値	2.78	3.17	3.20	2.76

H 2 9 年度入学者	人間社会学部			看護学部
	公共社会学科	社会福祉学科	人間形成学科	看護学科
A	1,197	1,502	1,424	1,478
B	995	923	804	1,617
C	568	413	414	718
D	303	149	175	413
不可	38	6	39	40
未受験	6	6	6	0
無資格	43	35	29	4
G P A平均値	2.91	3.20	3.14	2.95

(3) 大学院単位修得状況 (成績評価)

(単位：件数)

H 2 8 年度以前入学者	人間社会学研究科	看護学研究科
A	445	368
B	43	196
C	1	79
D	1	17
不可	0	0
未受験	0	0
無資格	2	0

H 2 9 年度入学者	人間社会学研究科	看護学研究科
A	355	139
B	2	127
C	0	28
D	0	0
不可	0	0
未受験	0	4
無資格	0	16

4. 教員免許状取得数（高校公民・中学社会・幼稚園教諭・養護教諭）

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
高校公民	9	8	9	7	6	6
中学社会	3	5	6	7	7	6
幼稚園教諭	33	40	27	31	26	33
養護教諭	10	10	10	8	8	9

5. 保育士資格取得者数

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
保育士	33	39	27	31	26	34

6. スクールソーシャルワーカー教育課程修了者数

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
修了者数	9 (5)	10 (9)	6 (6)	3 (3)	6 (3)	4 (4)

()内は、社会福祉国家試験合格の後、課程修了証を交付された者の人数

※H29年度の課程修了証交付予定者は、平成30年11月に手続きを行うため確定人数ではない。

7. 社会福祉士・精神保健福祉士 国家試験合格者数

社会福祉士

	福岡県立大学（現役）			全国（現役）		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
H24年度	54	38	70.4%	42,841	8,058	18.8%
H25年度	51	36	70.6%	45,578	12,540	27.5%
H26年度	57	45	78.9%	45,187	12,181	27.0%
H27年度	52	38	73.1%	44,764	11,735	26.2%
H28年度	51	32	62.7%	45,849	11,828	25.8%
H29年度	57	38	66.7%	43,937	13,288	30.2%

精神保健福祉士

	福岡県立大学（現役）			全国（現役）		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
H24年度	25	22	88.0%	7,144	4,062	56.9%
H25年度	12	12	100.0%	7,119	4,149	58.3%
H26年度	26	23	88.5%	7,183	4,402	61.3%
H27年度	20	19	95.0%	7,173	4,417	61.6%
H28年度	13	13	100.0%	7,174	4,446	62.0%
H29年度	17	15	88.2%	6,992	4,399	62.9%

8. 看護師・保健師・助産師 国家試験合格者数

看護師

	福岡県立大学（現役）			全国（現役）		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
H24年度	72	71	98.6%	51,458	48,413	94.1%
H25年度	85	83	97.6%	52,914	50,349	95.2%
H26年度	79	78	98.7%	55,015	52,547	95.5%
H27年度	73	73	100.0%	56,414	53,547	94.9%
H28年度	84	80	95.2%	56,414	53,177	94.3%
H29年度	90	90	100.0%	57,929	55,764	96.3%

保健師

	福岡県立大学（現役）			全国（現役）		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
H24年度	81	78	96.3%	15,136	14,751	97.5%
H25年度	98	92	93.9%	16,555	14,698	88.8%
H26年度	80	80	100.0%	15,440	15,381	99.6%
H27年度	13	13	100.0%	7,648	8,295	108.5%
H28年度	13	13	100.0%	7,590	7,172	94.5%
H29年度	15	15	100.0%	7,675	6,572	85.6%

助産師

	福岡県立大学（現役）			全国（現役）		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
H24年度	7	7	100.0%	2,010	1,987	98.9%
H25年度	7	7	100.0%	2,042	1,993	97.6%
H26年度	8	8	100.0%	1,976	1,975	99.9%
H27年度						
H28年度	4	3	75.0%	2,044	1,904	93.2%
H29年度	6	6	100.0%	2,087	2,074	99.4%

※ H27年度は受験者なし（助産師課程を大学院へ移行したため）

9. 社会調査士資格取得者数

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
社会調査士	19	12	19	17	29	15

10. 上級情報処理士資格取得者

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
上級情報処理士	31	29	32	21	31	29

11. 認定心理士資格取得者数

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
認定心理士	0	0	1	3	0	1

12. 臨床心理士資格取得者数

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
臨床心理士	8	6	8	9	7	8

13. がん看護専門看護師資格取得者数

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
がん看護専門看護師	0	0	1	0	0	0

14. 精神看護専門看護師資格取得者数

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
精神看護専門看護師	—	—	1	1	1	2

※ 平成25年度より卒業生輩出のため（卒業後資格取得可能）

V. 教育の質の向上及び改善の取組

1. FD 活動（学部・研究科）

	テーマ	日時	参加人数
第1回 FD セミナー	第1回 e-learning 講習会 「e-learning のはじめかた～初心者向け講習と個別相談～」	平成29年6月7日（水）	48人
第2回 FD セミナー	FD・SD セミナー 「2017年度福岡県立大学新入生 大学生基礎力調査結果報告会」	平成29年8月24日（水）	45人
第3回 FD セミナー	第2回 e-learning 講習会 「アンケート機能の活用」	平成29年10月4日（水）	29人
第4回 FD セミナー	大学改革セミナー&FD セミナー	平成29年10月18日（水）	31人
第5回 FD セミナー	図書館セミナー内 ベストティーチャー公開授業	平成29年11月29日（水）	38人
第6回 FD セミナー	大学改革（FD・SD）セミナー 「平成28年度 業務実績評価」について	平成29年11月29日（水）	61人
第7回 FD セミナー （大学院）	大学院 FD セミナー 「大学院教育における教員と院生の関係づくり -円滑な院生指導を行うために-」	平成29年12月13日（水）	54人
第8回 FD セミナー	FD セミナー LTD（Learning Through Discussion）話し合い学習法の可能性～	平成30年1月31日（水）	38人
第9回 FD セミナー	研究倫理セミナー	平成30年3月1日（木）	38人

2. 教員個人業績評価結果

(1) 趣旨

各教員が自己の一年の活動を再確認し、教育・研究・社会貢献・管理運営活動への貢献を高めること、並びに本学の教育・研究活動等の活性化を通じた本学の使命の高揚を図ること。

(2) 評価の対象分野・ウエイト等

対象分野は①教育、②研究、③社会貢献、④管理運営対象分野ごとのウエイトは、①教育（60%以上）、②研究（10%～30%）、③社会貢献（5%～10%）、④管理運営（5%～25%）とし、各教員は、4分野を合計して100%とするウエイト申告をするものとする。

(3) 教員個人業績評価

5段階の「評価基準」

A	B	C	D	E
100～91	90～76	75～31	50～31	30以下

評価結果

評価区分	H23年度分	H24年度分	H25年度分	H26年度分	H27年度分	H28年度分
A	57	60	63	4	4	2
B	32	27	22	74	72	86
C	9	7	2	4	8	6
D	0	0	0	1	1	0
E	1	1	1	1	0	0

※各年度の教員個人業績評価は翌年度に行うため、H29年度分は掲載していない。

3. 授業評価アンケート

学部

これは、平成 29 (2017) 年度に福岡県立大学で開講された授業について学生による授業アンケートの結果である。人間社会学部と看護学部において開講された授業評価を明らかにするとともに、教員の授業改善に役立てることを目的とした。前期科目は 2017 年 7 月、後期科目は 2018 年 1 月に実施し、また集中講義など一部の科目については、講義が終了次第実施した。のべ 18,841 名分を回収した結果である。

	質問項目	評価 (平均)
1	この授業は、シラバス・授業科目概要や、授業でのオリエンテーションと一致する内容だった	3.6
2	シラバス・授業科目概要や、最初の授業で成績評価方法は明示されていた	3.6
3	教員の話し方は聞き取りやすかった	3.5
4	教員の指示や、授業での説明のしかたは分かりやすかった	3.5
5	授業のすすめかたは、授業の内容を理解するのに適切な速さだった	3.5
6	板書、スライド、教科書、資料など、授業で示されたものは学習に役立った	3.5
7	教員の指導やアドバイスのタイミングはよかった (実技、実習・演習項目)	3.4
8	教員の指導やアドバイスの内容は役立った (実技、実習・演習項目)	3.5
9	授業中に行う課題やグループ学習は授業の理解に役立った	3.5
10	この授業は、質問や意見を述べやすかった	3.4
11	教員は学生の質問や意見に対応していた	3.5
12	この授業は、予定された時間内 (開始時刻と終了時刻) で行われていた	3.6
13	この授業は、学生の理解度や習熟度を確認しながら行われていた	3.4
14	教員は授業時間外の学習に役立つ資料や課題、練習方法を示していた	3.4
15	この授業を受けて前よりも知識やスキルが増えた	3.6
16	この授業は、総合的に満足できるものであった	3.5
17	私は授業を受けるにあたって、シラバス・授業科目概要を活用した	3.2
18	私はこの授業の学習目標をわかったうえで授業を受けた	3.4
19	私はこの授業に熱心に取り組んだ	3.5
20	私はこの授業中に、授業に関係のないことはしなかった	3.5
21	私はこの授業中、他人の居眠り、私語、メールなどが気になった	3.4
22	私は授業時間外に、この授業に関して 1 週間に平均して次の時間の学習を行った ①0～30分 ②30～60分 ③60～90分 ④90～120分 ⑤120分以上	3.4
23	私はこの授業の学習の到達目標を達成できた	3.3
24	私はこの実習・演習で、講義で学んだ知識と実践の関連がよくわかった (実習・演習項目)	3.4

評価は 1, 2, 3, 4 からなる 4 段

大学院

これは、2017年度に福岡県立大学大学院で開講された授業について大学院生による授業評価の結果である。下記の項目別の実数は、高い、普通、低いの3段階で、普通以上と回答した人数である。全回答者数は19人であった。

質問項目	質問内容	29年度	
		実数	%
大学院のカリキュラム	①学びたい科目はあったか (多い 普通 少ない)	19	100
	②学びの深化や研究に役立った科目はあったか (あった なかった)	18	95
シラバス (履修の手引き)	①シラバスは授業選択や学習の参考になったか (なった ややなった ならなかった)	19	100
	②成績評価基準が明確に示されていたか (いる どちらともいえない)	19	100
授業 (講義・演習)	①授業方法の満足度 (高い 普通 低い)	19	100
	②授業内での配布資料に関する満足度 (高い 普通 低い)	19	100
	③授業課題に対する満足度 (高い 普通 低い)	19	100
	④授業内での対話・議論に関する満足度 (高い 普通 低い)	19	100
	⑤授業内容の満足度 (高い 普通 低い)	19	100
実習 (選択者のみ回答) H28: 21名	①実習時期・期間の満足度 (高い 普通 低い)	14	100
	②実習前の指導への満足度 (高い 普通 低い)	13	93
	③実習指導・支援体制の満足度 (高い 普通 低い)	13	93
	④実習後の指導への満足度 (高い 普通 低い)	13	100
	⑤実習内容の満足度 (高い 普通 低い)	14	100
	⑥実習評価方法の満足度 (高い 普通 低い)	13	100
修士論文作成・研究	①指導体制の満足度 (高い 普通 低い)	17	89
	②指導方法・内容の満足度 (高い 普通 低い)	18	95
	③研究計画発表会での助言への満足度 (高い 普通 低い)	12	75
大学院の雰囲気	①入学前後でのイメージの違い	8	44
	②院生間のつながり (同学年・上下の学年)	17	94
総合評価	満足度 (高い 普通 低い)	17	95

4. 卒業時学修到達度調査

1. 以下の質問文を読み、全学共通科目（教養科目・基礎科目）での学びについて、あなたの思いと最も近い番号に○をつけてください。

質問内容	回答選択肢	人間社会学部			看護学部
		公共社会学科	社会福祉学科	人間形成学科	看護学科
問 1. 全学共通科目（教養科目・基礎科目）で学んだことにより、今後の社会人生活に役立つ知識やスキルを身につけることができた。	そう思う	11 (22.0%)	18 (32.7%)	18 (36.0%)	22 (36.7%)
	ややそう思う	30 (60.0%)	29 (52.7%)	26 (52.0%)	30 (50.0%)
	どちらともいえない	5 (10.0%)	8 (14.5%)	4 (8.0%)	6 (10.0%)
	あまりそう思わない	2 (4.0%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)	2 (3.3%)
	そう思わない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	無回答	2 (4.0%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)
	計	50 (100.0%)	55 (100.0%)	50 (100.0%)	60 (100.0%)
問 2. 全学共通科目で学んだことにより、専門分野で学習する内容の基礎を身につけることができた。	そう思う	12 (24.0%)	19 (34.5%)	18 (36.0%)	25 (41.7%)
	ややそう思う	28 (56.0%)	26 (47.3%)	27 (54.0%)	30 (50.0%)
	どちらともいえない	6 (12.0%)	6 (10.9%)	3 (6.0%)	5 (8.3%)
	あまりそう思わない	2 (4.0%)	4 (7.3%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)
	そう思わない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	無回答	2 (4.0%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)
	計	50 (100.0%)	55 (100.0%)	50 (100.0%)	60 (100.0%)
問 3. 教養科目（人文科学・社会科学・自然科学・総合科目）で学んだことにより、人文科学、社会科学、自然科学および学際的な知識を身につけることができた。	そう思う	8 (16.0%)	8 (14.5%)	13 (26.0%)	16 (26.7%)
	ややそう思う	31 (62.0%)	38 (69.1%)	27 (54.0%)	32 (53.3%)
	どちらともいえない	7 (14.0%)	8 (14.5%)	8 (16.0%)	8 (13.3%)
	あまりそう思わない	2 (4.0%)	1 (1.8%)	1 (2.0%)	3 (5.0%)
	そう思わない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)
	無回答	2 (4.0%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)
	計	50 (100.0%)	55 (100.0%)	50 (100.0%)	60 (100.0%)
問 4. 外国語科目を学んだことにより、外国語によるコミュニケーション能力を身につけることができた。	そう思う	10 (20.0%)	2 (3.6%)	9 (18.0%)	7 (11.7%)
	ややそう思う	16 (32.0%)	24 (43.6%)	20 (40.0%)	14 (23.3%)
	どちらともいえない	14 (28.0%)	16 (29.1%)	12 (24.0%)	17 (28.3%)
	あまりそう思わない	7 (14.0%)	12 (21.8%)	6 (12.0%)	15 (25.0%)
	そう思わない	1 (2.0%)	1 (1.8%)	2 (4.0%)	7 (11.7%)
	無回答	2 (4.0%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)
	計	50 (100.0%)	55 (100.0%)	50 (100.0%)	60 (100.0%)
問 5. 情報系基礎科目を学んだことにより、基礎的な情報リテラシーを身につけることができた。	そう思う	6 (12.0%)	8 (14.5%)	12 (24.0%)	16 (26.7%)
	ややそう思う	28 (56.0%)	33 (60.0%)	26 (52.0%)	36 (60.0%)
	どちらともいえない	12 (24.0%)	9 (16.4%)	7 (14.0%)	4 (6.7%)
	あまりそう思わない	1 (2.0%)	5 (9.1%)	4 (8.0%)	3 (5.0%)
	そう思わない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)
	無回答	3 (6.0%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)
	計	50 (100.0%)	55 (100.0%)	50 (100.0%)	60 (100.0%)
問 6. 健康・保健に関する基礎科目を学んだことにより、今後の社会人生活に役立つ知識やスキルを身につけることができた。	そう思う		10 (18.2%)		
	ややそう思う		32 (58.2%)		
	どちらともいえない		11 (20.0%)		
	あまりそう思わない		2 (3.6%)		
	そう思わない		0 (0.0%)		
	無回答		0 (0.0%)		
	計		55 (100.0%)		

質問内容	回答選択肢	人間社会学部			看護学部
		公共社会学科	社会福祉学科	人間形成学科	看護学科
問 6. (1) 健康・保健に関する基礎科目を学んだことにより、健康に関する基礎知識を身につけることができた。	そう思う	7(14.0%)		17(34.0%)	25(41.7%)
	ややそう思う	23(46.0%)		27(54.0%)	31(51.7%)
	どちらともいえない	14(28.0%)		4(8.0%)	3(5.0%)
	あまりそう思わない	4(8.0%)		1(2.0%)	0(0.0%)
	そう思わない	0(0.0%)		0(0.0%)	1(1.7%)
	無回答	2(4.0%)		1(2.0%)	0(0.0%)
	計	50(100.0%)		50(100.0%)	60(100.0%)
問 6. (2) 健康・保健に関する基礎科目を学んだことにより、自らの健康を維持し高める基礎技能を身につけることができた。	そう思う	6(12.0%)		12(24.0%)	21(35.0%)
	ややそう思う	25(50.0%)		27(54.0%)	31(51.7%)
	どちらともいえない	13(26.0%)		5(10.0%)	4(6.7%)
	あまりそう思わない	4(8.0%)		5(10.0%)	3(5.0%)
	そう思わない	0(0.0%)		0(0.0%)	1(1.7%)
	無回答	2(4.0%)		1(2.0%)	0(0.0%)
	計	50(100.0%)		50(100.0%)	60(100.0%)
問 7. 教養演習で学んだことにより、その後に履修した講義や演習、実習で役立つ知識やスキルを身につけることができた。	そう思う	8(16.0%)	16(29.1%)	14(28.0%)	18(30.0%)
	ややそう思う	31(62.0%)	30(54.5%)	28(56.0%)	32(53.3%)
	どちらともいえない	8(16.0%)	7(12.7%)	4(8.0%)	6(10.0%)
	あまりそう思わない	1(2.0%)	2(3.6%)	3(6.0%)	2(3.3%)
	そう思わない	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(3.3%)
	無回答	2(4.0%)	0(0.0%)	1(2.0%)	0(0.0%)
	計	50(100.0%)	55(100.0%)	50(100.0%)	60(100.0%)

2. 以下の質問文を読み、学科の専門教育での学びにおいて、大学入学時と比べた上での学習到達度について、あなたの思いと最も近い番号に○をつけてください。

人間社会学部公共社会学科

質問内容	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答	計
問 1. 入学時と比べ、地域課題や社会問題を、客観的に理解できるようになった。	16 (32.0%)	30 (60.0%)	2 (4.0%)	2 (4.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	50 (100.0%)
問 2. 入学時と比べ、異なる文化や価値観を、客観的に理解できるようになった。	17 (34.0%)	27 (54.0%)	4 (8.0%)	2 (4.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	50 (100.0%)
問 3. 入学時と比べ、物事について、根拠をふまえて意見する力がついていた。	9 (18.0%)	34 (68.0%)	4 (8.0%)	3 (6.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	50 (100.0%)

質問内容	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答	計
問 4. 入学時と比べ、物事について、公共性の観点をふまえることができるようになった。	14 (28.0%)	27 (54.0%)	6 (12.0%)	3 (6.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	50 (100.0%)
問 5. 入学時と比べ、自分の考え・気持ちを、他者に伝わるよう適切に説明できるようになった。	14 (28.0%)	26 (52.0%)	6 (12.0%)	4 (8.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	50 (100.0%)
問 6. 入学時と比べ、目標に向けて自分で考え、主体的に活動できるようになった。	19 (38.0%)	23 (46.0%)	6 (12.0%)	1 (2.0%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	50 (100.0%)
問 7. 入学時と比べ、様々な地域課題や社会問題、または異なる文化・価値観に対して関心をもつようになった。	18 (36.0%)	27 (54.0%)	3 (6.0%)	2 (4.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	50 (100.0%)
問 8. 入学時と比べ、地域課題、または社会問題に対して、自ら何か働きかけたいと思うようになった。	8 (16.0%)	28 (56.0%)	9 (18.0%)	4 (8.0%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	50 (100.0%)
問 9. 入学時と比べ、資料やデータを収集する技法が身についた。	7 (14.0%)	37 (74.0%)	5 (10.0%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	50 (100.0%)
問 10. 入学時と比べ、調査研究を行う際に、適切な方法により分析することができるようになった。	6 (12.0%)	35 (70.0%)	8 (16.0%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	50 (100.0%)

人間社会学部社会福祉学科

質問内容	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答	計
問 1. 社会福祉学科での学びをとおして、社会に貢献するために必要な幅広い知識を身につけることができた。	23 (41.8%)	32 (58.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	55 (100.0%)

質問内容	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答	計
問 2. 社会福祉学科での学びをとおして、社会に貢献するために必要な幅広い知識を身につけることができた。	27 (49.1%)	26 (47.3%)	2 (3.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	55 (100.0%)
問 3. 社会福祉学科での学びをとおして、社会に貢献するために必要な幅広い知識を身につけることができた。	17 (30.9%)	34 (61.8%)	4 (7.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	55 (100.0%)
問 4. 社会福祉学科での学びをとおして、社会に貢献するために必要な幅広い知識を身につけることができた。	24 (43.6%)	26 (47.3%)	4 (7.3%)	1 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	55 (100.0%)
問 5. 社会福祉学科での学びをとおして、社会に貢献するために必要な幅広い知識を身につけることができた。	17 (30.9%)	26 (47.3%)	10 (18.2%)	2 (3.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	55 (100.0%)
問 6. 社会福祉学科での学びをとおして、社会に貢献するために必要な幅広い知識を身につけることができた。	23 (41.8%)	27 (49.1%)	3 (5.5%)	2 (3.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	55 (100.0%)
問 7. 社会福祉学科での学びをとおして、社会に貢献するために必要な幅広い知識を身につけることができた。	23 (41.8%)	28 (50.9%)	4 (7.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	55 (100.0%)
問 8. 社会福祉学科での学びをとおして、社会に貢献するために必要な幅広い知識を身につけることができた。	31 (56.4%)	22 (40.0%)	2 (3.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	55 (100.0%)
問 9. 社会福祉学科での学びをとおして、社会に貢献するために必要な幅広い知識を身につけることができた。	23 (41.8%)	25 (45.5%)	6 (10.9%)	1 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	55 (100.0%)
問 10. 社会福祉学科での学びをとおして、社会に貢献するために必要な幅広い知識を身につけることができた。	16 (29.1%)	30 (54.5%)	8 (14.5%)	1 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	55 (100.0%)

人間社会学部人間形成学科

質問内容	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答	計
問1 入学時に比べて、教育学(保育・幼児教育を含む)または心理学に関する専門的知識が身についたと思う。	30 (61.2%)	15 (30.6%)	2 (4.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.1%)	49 (100.0%)
問2 入学時に比べて、教育学(保育・幼児教育を含む)または心理学における援助のあり方を理解できるようになったと思う。	27 (55.1%)	19 (38.8%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.1%)	49 (100.0%)
問3 入学時に比べて、教育学(保育・幼児教育を含む)または心理学に関する現代的課題について考察することができるようになったと思う。	23 (46.9%)	18 (36.7%)	6 (12.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.1%)	49 (100.0%)
問4 入学時に比べて、教育(保育・幼児教育を含む)または心理に関する諸問題に対して適切な対応を検討できるようになったと思う。	24 (49.0%)	17 (34.7%)	5 (10.2%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	2 (4.1%)	49 (100.0%)
問5 入学時に比べて、文献や調査、実験などを通して導いた自分の考えを適切に表現することができるようになったと思う。	21 (42.9%)	21 (42.9%)	4 (8.2%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	2 (4.1%)	49 (100.0%)
問6 入学時に比べて、教育(保育・幼児教育を含む)または心理に関する課題を抽出し、探求することができるようになったと思う。	21 (42.9%)	17 (34.7%)	6 (12.2%)	3 (6.1%)	0 (0.0%)	2 (4.1%)	49 (100.0%)
問7 入学時に比べて、教育学(保育・幼児教育を含む)または心理学に関するスキルを社会に活かしたいと思う。	31 (63.3%)	16 (32.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.1%)	49 (100.0%)
問8 入学時に比べて、教育(保育・幼児教育を含む)的または心理的援助に従事する際の基本的態度・倫理などに従って行動できるようになったと思う。	24 (49.0%)	20 (40.8%)	3 (6.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.1%)	49 (100.0%)

質問内容	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答	計
問 9 入学時に比べて、教育(保育・幼児教育を含む)または心理に関する諸問題を検討するための方法を身につけることができたと思う。	21 (42.9%)	23 (46.9%)	2 (4.1%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	2 (4.1%)	49 (100.0%)
問 10 入学時に比べて、様々な立場にある人々に対する心理的または教育(保育・幼児教育を含む)的な援助のスキルを修得できたと思う。	23 (46.9%)	16 (32.7%)	7 (14.3%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	2 (4.1%)	49 (100.0%)

看護学部看護学科

質問内容	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答	計
問 1. 看護学部での学びで、人間を全人的に理解するための知識が身についた。	30 (50.0%)	28 (46.7%)	2 (3.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	60 (100.0%)
問 2. 看護学部での学びで、対象を支援するために必要な専門知識が身についた。	34 (56.7%)	25 (41.7%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	60 (100.0%)
問 3. 看護学部での学びで、科学的根拠に基づいて対応できる問題解決能力が身についた。	29 (48.3%)	29 (48.3%)	2 (3.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	60 (100.0%)
問 4. 看護学部での学びで、対象にあわせて、根拠に基づいた適切な看護を選択する力が身についた。	30 (50.0%)	29 (48.3%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	60 (100.0%)
問 5. 看護学部での学びで、柔軟な思考を持ち、他者との違いを理解した上で、自分の意見を伝えることができるようになった。	26 (43.3%)	31 (51.7%)	3 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	60 (100.0%)

質問内容	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答	計
問 6. 看護学部での学びで、他者に対して関心を持ち、人間関係をつくる態度が身についた。	29 (48.3%)	27 (45.0%)	3 (5.0%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	60 (100.0%)
問 7. 看護学部での学びで、対象の問題を解決するために多職種と連携する意欲と態度が身についた。	33 (55.0%)	24 (40.0%)	2 (3.3%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	60 (100.0%)
問 8. 看護学部での学びで、看護の役割を自覚し、健康に関する諸問題を探究することができるようになった。	33 (55.0%)	25 (41.7%)	1 (1.7%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	60 (100.0%)
問 9. 看護学部での学びで、対象にあわせて、安全で適切な看護が提供できるようになった。	30 (50.0%)	27 (45.0%)	2 (3.3%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	60 (100.0%)
問 10. 看護学部での学びで、看護の役割を自覚し、看護者としての倫理観や責任感が身についた。	32 (53.3%)	26 (43.3%)	2 (3.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	60 (100.0%)

VI. 入試

1. 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

「福岡県立大学は、あなたを求めています。」

何のために大学に入りますか。

学ぶために大学生になってください。

そして大学生活を楽しんでください。

そんな前向きな人を求めています。

困っているひとをみかけて声をかけられますか。

ひとのために働ける人、それを喜びと感じられる人を求めています。

最近何かに感動したことはありますか。

その感動を伝えることができますか。

伝えることの大切さが分かる人を求めています。

今住んでいるまちのことをどのくらい知っていますか。

まちと暮らしに関心をもてる人を求めています。

「生きている」と実感したことはありますか。

「生きていること」に関心をもとうという人を求めています。

(1) 学部別入学者受入方針

人間社会学部

(1) 求める学生像

1. 高等学校等で履修した主要教科・科目について、基礎的な知識を有している人
2. 与えられた情報をテーマに即して結びつけることができる人
3. 物事をさまざまな角度から考察し、自らの考えをまとめることができる人
4. 自らの考えをわかりやすく表現することができる人
5. 自らの目標に向かって、主体的・自律的にステップアップしようとする積極性をもっている人
6. これからの時代における、人間と社会に関わる重要な課題を発見・探求・解決することに関心がある人
7. 自らの考えを適切な日本語表現を使い、道筋を立てて伝えることができる人
8. 英語による基礎的なコミュニケーションをすることができる人

(2) 入学者選抜の基本方針

人間社会学部の入学者選抜には、①一般選抜（前期日程、後期日程）、②特別選抜（推薦入試、社会人特別選抜、国外就学経験者特別選抜、留学生特別選抜）、③転・編入学試験があります。多様な人材を受け入れるため、複数の選抜方式を採用しています。

【公共社会学科】

① 一般選抜（前期日程、後期日程）

大学入試センター試験によって、基礎的な学力を評価します。

個別学力試験（小論文）によって、与えられた情報を理解・分析し、表現する能力等を評価します。

②特別選抜

推薦入試：

小論文によって、与えられた情報を理解・分析し、表現する能力等を評価します。

英語によって、基礎的な学力及び英語による基礎的なコミュニケーション能力等を評価します。

面接（集団討論）によって、自らの考えをまとめ、他者と協同しつつ適切に表現する能力等を評価します。

調査書によって、基礎的な学力を評価します。

教科外活動によって、主体性及び課題への関心等を評価します。

社会人特別選抜：

小論文によって、与えられた情報を理解・分析し、表現する能力等を評価します。

英語によって、基礎的な学力及び英語による基礎的なコミュニケーション能力等を評価します。

口頭試問によって、出願時の提出書類を参考に、志望動機・専門分野への関心及び理解力・表現力等を評価します。

国外就学経験者特別選抜、留学生特別選抜：

小論文によって、与えられた情報を理解・分析し、表現する能力等を評価します。

口頭試問によって、出願時の提出書類に基づき、志望動機・専門分野への関心及び理解力・表現力等を評価します。

③転・編入学試験

小論文によって、与えられた情報を理解・分析し、表現する能力等を評価します。

英語によって、基礎的な学力及び英語による基礎的なコミュニケーション能力等を評価します。

口頭試問によって、出願時の提出書類を参考に、志望動機・専門分野への関心及び理解力・表現力等を評価します。

【社会福祉学科】

①一般選抜（前期日程、後期日程）

大学入試センター試験によって、基礎的な学力を評価します。

個別学力試験（小論文）によって、与えられた情報を理解・分析し、表現する能力等を評価します。

②特別選抜

推薦入試：

小論文によって、与えられた情報を理解・分析し、表現する能力等を評価します。

英語によって、基礎的な学力及び英語による基礎的なコミュニケーション能力等を評価します。

面接（集団討論）によって、自らの考えをまとめ、他者と協同しつつ適切に表現する能力等を評価します。

調査書によって、基礎的な学力を評価します。

教科外活動によって、主体性及び課題への関心等を評価します。

社会人特別選抜：

小論文によって、与えられた情報を理解・分析し、表現する能力等を評価します。

英語によって、基礎的な学力及び英語による基礎的なコミュニケーション能力等を評価します。

口頭試問によって、出願時の提出書類を参考に、志望動機・専門分野への関心及び理解力・表現力等を評価します。

国外就学経験者特別選抜、留学生特別選抜：

小論文によって、与えられた情報を理解・分析し、表現する能力等を評価します。

口頭試問によって、出願時の提出書類に基づき、志望動機・専門分野への関心及び理解力・表現力等を評価します。

③転・編入学試験

小論文によって、与えられた情報を理解・分析し、表現する能力等を評価します。

英語によって、基礎的な学力及び英語による基礎的なコミュニケーション能力等を評価します。

口頭試問によって、出願時の提出書類を参考に、志望動機・専門分野への関心及び理解力・表現力等を評価します。

【人間形成学科】

①一般選抜（前期日程、後期日程）

大学入試センター試験によって、基礎的な学力を評価します。

個別学力試験（小論文）によって、与えられた情報を理解・分析し、表現する能力等を評価します。

②特別選抜

推薦入試：

小論文によって、与えられた情報を理解・分析し、表現する能力等を評価します。

英語によって、基礎的な学力及び英語による基礎的なコミュニケーション能力等を評価します。

面接（集団討論）によって、自らの考えをまとめ、他者と協同しつつ適切に表現する能力等を評価します。

調査書によって、基礎的な学力を評価します。

教科外活動によって、主体性及び課題への関心等を評価します。

社会人特別選抜：

小論文によって、与えられた情報を理解・分析し、表現する能力等を評価します。

英語によって、基礎的な学力及び英語による基礎的なコミュニケーション能力等を評価します。

口頭試問によって、出願時の提出書類を参考に、志望動機・専門分野への関心及び理解力・表現力等を評価します。

国外就学経験者特別選抜、留学生特別選抜：

小論文によって、与えられた情報を理解・分析し、表現する能力等を評価します。

口頭試問によって、出願時の提出書類に基づき、志望動機・専門分野への関心及び理解力・表現力等を評価します。

③転・編入学試験

小論文によって、与えられた情報を理解・分析し、表現する能力等を評価します。

英語によって、基礎的な学力及び英語による基礎的なコミュニケーション能力等を評価します。

口頭試問によって、出願時の提出書類を参考に、志望動機・専門分野への関心及び理解力・表現力等を評価します。

看護学部

(1)求める学生像

1. 高等学校等で履修した主要教科・科目について、基礎的な知識を有している人
2. 人の健康や生活について、さまざまな角度から考察し、自らの考えをまとめることができる人
3. 物事に対して積極的、かつ、自律的に取り組みたいという姿勢が見られる人
4. 人の健康と生活を取り巻く諸問題に関心を持っている人
5. 自らの考えを適切な日本語表現を使い、筋道を立てて伝えることができる人
6. 人の話を聞いて、まとめたり、展開したりすることができる人

(2) 入学者選抜の基本方針

看護学部の入学者選抜には、①一般選抜（前期日程、後期日程）、②特別選抜（推薦入試、社会人特別選抜）があります。多様な人材を受け入れるため、複数の選抜方式を採用しています。

①一般選抜（前期日程、後期日程）

大学入試センター試験によって、基礎的な学力を評価します。

個別学力試験（小論文）によって、人の健康や生活に関する問題を理解・分析し、表現する能力等を評価します。

②特別選抜

推薦入試：

小論文によって、人の健康や生活に関する問題を理解・分析し、表現する能力等を評価します。

面接（集団討論）によって、人の健康や生活に関する問題への関心、自らの考えをまとめ、他者と協同しつつ適切に表現する能力等を評価します。

調査書によって、基礎的な学力を評価します。

教科外活動によって、積極性・自律性・人の健康や生活に関する問題への関心等を評価します。

社会人特別選抜：

小論文によって、人の健康や生活に関する問題を理解・分析し、表現する能力等を評価します。

面接（集団討論）によって、人の健康や生活に関する問題への関心、自らの考えをまとめ、他者と協同しつつ適切に表現する能力等を評価します。

(2) 研究科別入学者受入方針

人間社会学研究科

(1) 求める学生像

現在、少子・高齢化、地方分権化、自己実現要求の高まりに伴って、地域政策、福祉政策、子ども教育、対人援助に関わる高度な専門的知識・技術を持った職業人が必要とされてきています。本研究科では、とくに、これらの専門知識を統合させ、地域社会において高度福祉社会の実現に向けて貢献できる人材を養成しようとしています。

そこで、学部教育を基礎として、より一層の専門性を持った人材を養成するとともに、職業人のリカレント教育の要請に応えることを目指し、3つの専攻を設置しています。このため、本研究科では、次のような大学院生を求めています。

1. 専門分野における国内外の論文の読解力を有している人
2. 専門分野において大学卒業程度の知識を有している人
3. 専門分野の知識をもとに研究の見通しを立てることができる人
4. 専門分野の知識をもとに新たな展開を表現できる人
5. 専門分野に関心と問題意識を持っている人
6. 高度福祉社会の実現のために、積極的に専門性を身につけ、役立てたいと考えている人
7. 専門分野に関して自らの考えを論理的に伝えるためのスキルを有している人
8. フィールドワークや学外施設実習に必要なコミュニケーションスキルを有している人

(2) 入学者選抜の基本方針

【社会福祉専攻】

- ・社会福祉専攻としての基礎的能力と適性を備えた学生を選抜するために入学者選抜を実施する。
- ・外国語（英語）で、論文読解力、人間社会に関連する知識を評価し、専門科目で、社会福祉分野の知識、論理性、表現力、関心、意欲を評価し、研究計画書で、社会福祉分野の知識に基づく研究の見通し、関心、意欲、論理性、論文読解力を評価し、口頭試問で、表現力、関心、意欲、論理性、コミュニケーションスキル、社会福祉分野の知識、研究の見通しを評価する。大学卒業後の経験を一定以上有する受験者は、外国語（英語）の代わりに小論文での受験も可能とし、その場合も外国語（英語）と同様、論文読解力、人間社会に関連する知識を評価する。

【心理臨床専攻】

- ・心理臨床専攻としての基礎的能力と適性を備えた学生を選抜するために入学者選抜を実施する。
- ・外国語（英語）で、論文読解力、人間社会に関連する知識を評価し、専門科目で、社会福祉分野の知識、論理性、表現力、関心、意欲を評価し、研究計画書で、心理臨床分野の知識に基づく研究の見通し、関心、意欲、論理性、論文読解力を評価し、口頭試問で、表現力、関心、意欲、論理性、コミュニケーションスキル、心理臨床分野の知識、研究の見通しを評価する。大学卒業後の経験を一定以上有する受験者は、外国語（英語）の代わりに小論文での受験も可能とし、その場合も外国語（英語）と同様、論文読解力、人間社会に関連する知識を評価する。

【子ども教育専攻】

- ・子ども教育専攻としての基礎的能力と適性を備えた学生を選抜するために入学者選抜を実施する。
- ・外国語（英語）で、論文読解力、人間社会に関連する知識を評価し、専門科目で、子ども教育分野の知識、論理性、表現力、関心、意欲を評価し、研究計画書で、子ども教育分野の知識に基づく研究の見通し、関心、意欲、論理性、論文読解力を評価し、口頭試問で、表現力、関心、意欲、論理性、コミュニケーションスキル、子ども教育分野の知識、研究の見通しを評価する。大学卒業後の経験を一定以上有する受験者は、外国語（英語）の代わりに小論文での受験も可能とし、その場合も外国語（英語）と同様、論文読解力、人間社会に関連する知識を評価する。

看護学研究科

本研究科では以下に記すような向学心のある方を求めています。

(1) 求める学生像

本研究科では以下に記すような向学心のある方を求めています。

1. 看護学の基礎的知識を有している人
2. 専門分野の基礎的知識を有している人
3. 専門分野における国内外の論文の読解力を有している人
4. 専門分野の知識をもとに研究の見通しを立てることができる人
5. 研究計画もしくは志願理由について論理的に他者に伝えることができる人
6. 専門分野に関心と問題意識をもっている人
7. 専門性をより高め保健医療福祉社会に貢献したいという意思を有している人
8. 看護実践に必要なコミュニケーションスキルを有している人

(2) 入学者選抜の基本方針

- ・ 基礎的能力と知識を備え、専門分野に対する関心と問題意識をもって保健医療福祉に貢献できる多様な人材を選抜するために、入学者選抜を実施する。
- ・ 看護学の基礎的・専門的知識及び論文の読解力は、専門科目共通試験、専門科目分野別試験および外国語試験で評価する。
- ・ 専門分野への関心と問題意識、保健医療福祉社会への貢献、研究の計画性については、研究計画書または志願理由書と口頭試問または面接で評価し、看護実践に必要なコミュニケーションスキルは、口頭試問または面接で評価する。

2. 入学者選抜方法

(1) 学部別入学試験種別と試験科目

人間社会学部

○推薦入試概要

区 分		推薦入試
募集人員	公共社会学科	10人（うち福岡県内 6名、県外4名）
	社会福祉学科	15人（うち福岡県内10名、県外5名）
	人間形成学科	15人（うち福岡県内10名、県外5名）
試験科目	個別学力試験	小論文 200点（10:00～11:30 90分） 英語 200点（12:30～14:00 90分） 面接 50点（14:30～） 調査書 50点（全体の評定平均値×10） 教科外活動 5点（社会的活動、スポーツ活動、文化活動等）
出願期間		平成29年11月01日（水）～平成29年11月10日（金）17時必着
試験日		平成29年11月25日（土）
合格発表		平成29年12月12日（火）

○一般選抜概要

区 分		前期日程	後期日程
募集人員	公共社会学科	30人	10人
	社会福祉学科	25人	10人
	人間形成学科	25人	10人
試験科目	センター試験	国語 200点 公民及び地理歴史から1科目 100点 数学I・数学A 100点 外国語（英語・リスニングを含む） 200点（筆記200点を150点に換算し、リスニング50点を加点）	
	個別学力試験	小論文 200点（10:00～12:00 120分）	
出願期間		平成30年01月22日（月）～平成30年01月31日（水）17時必着	
試験日		平成30年02月25日（日）	平成30年03月12日（月）
合格発表		平成30年03月08日（木）	平成30年03月22日（木）

○社会人特別選抜概要

区 分		社会人
募集人員	公共社会学科	若干名
	社会福祉学科	
	人間形成学科	
試験科目	個別学力試験	小論文 200点（10:00～11:30 90分） 英語 100点（12:30～14:00 90分） 口頭試問 100点（14:30～）
出願期間		平成29年11月01日（水）～平成29年11月10日（金）17時必着
試験日		平成29年11月25日（土）
合格発表		平成29年12月12日（火）

○国外就学経験者（帰国生）特別選抜概要

区 分		国外就学経験者（帰国生）
募集人員	公共社会学科	若干名
	社会福祉学科	
	人間形成学科	
試験科目	個別学力試験	小論文 200点（10:00～11:30 90分） 口頭試問 100点（12:30～）
出願期間		平成29年11月01日（水）～平成29年11月10日（金）17時必着
試験日		平成29年11月25日（土）
合格発表		平成29年12月12日（火）

○留学生特別選抜概要

区 分		留学生
募集人員	公共社会学科	若干名
	社会福祉学科	
	人間形成学科	
試験科目	個別学力試験	小論文 200点（10:00～11:30 90分） 口頭試問 100点（12:30～）
出願期間		平成29年11月01日（水）～平成29年11月10日（金）17時必着
試験日		平成29年11月25日（土）
合格発表		平成29年12月12日（火）

○転・編入試験概要

区 分		転・編入学	編入年次
募集人員	公共社会学科	若干名	第3年次
	社会福祉学科		
	人間形成学科		
試験科目	個別学力試験	小論文 200点（10:00～11:30 90分） 英 語 200点（12:30～14:00 90分） 口頭試問 100点（14:30～）	
出願期間		平成29年11月01日（水）～平成29年11月10日（金）17時必着	
試験日		平成29年11月25日（土）	
合格発表		平成29年12月12日（火）	

看護学部

○推薦入試概要

区 分		推薦入試
募集人員	看護学部看護学科	30人（うち県内20人、県外10人）
試験科目	個別学力試験	小論文 200点（10:00～12:00 120分）
		面接 50点（13:00～）
		調査書 50点（全体の評定平均値×10）
		教科外活動 5点（社会的活動、スポーツ活動、文化活動等）
		英語の資格・検定試験 5点（英語力国際指標CEFRの定めるB1レベル以上）
出願期間		平成29年11月01日（水）～平成29年11月10日（金）17時必着
試験日		平成29年11月25日（土）
合格発表		平成29年12月12日（火）

○一般選抜概要

区 分		前期日程	後期日程
募集人員	看護学部看護学科	50人	10人
試験科目	センター試験	国語 前期：100点 後期：200点 数学Ⅰ・数学A 前期：100点 後期：50点 数学Ⅱ・数学B 前期：100点 後期：50点 物理基礎、化学基礎、生物基礎から2科目、または物理、化学、生物から1科目 前・後期：100点 外国語（英語・リスニングを含む。）前・後期：200点（筆記200点、リスニング50点、合計250点を200点に換算）	
	個別学力試験	小論文 200点 （10：00～12：00 120分）	小論文 200点 （10：00～12：00 120分）
出願期間		平成30年01月22日（月）～平成30年01月31日（水）17時必着	
試験日		平成30年02月25日（日）	平成30年03月12日（月）
合格発表		平成30年03月08日（木）	平成30年03月22日（木）

○社会人特別選抜概要

区 分		社会人
募集人員	看護学部看護学科	若干名
試験科目	個別学力試験	小論文 200点（10：00～12：00 120分）
		面接 50点（13：00～）
出願期間		平成29年11月01日（水）～平成29年11月10日（金）17時必着
試験日		平成29年11月25日（土）
合格発表		平成29年12月12日（火）

(2) 研究科別入試選抜試験科目

人間社会学研究科

○募集要項

区 分		秋季日程	春季日程
募集人員	社会福祉専攻	6名	4名
	子ども教育専攻	3名	1名
	心理臨床専攻	6名	秋季日程で定員を満たしたため募集なし
試験科目	個別学力試験	外国語（注1）：英 語 専門科目：専攻分野に関するもの 口頭試験：あらかじめ提出した研究計画書に基づく	
出願期間		平成29年09月25日（月）～平成29年10月02日（月）17時必着	平成30年01月12日（金）～平成30年01月23日（火）17時必着
試験日		平成29年10月21日（土）	平成30年02月03日（土）
合格発表		平成29年10月27日（金）	平成30年02月09日（金）

看護学研究科

○募集要項

区 分		秋季日程	春季日程
募集人員	看護学専攻	12名	1名
試験科目	個別学力試験	外国語：英 語 専門科目：専門領域に関するもの 口頭試験：あらかじめ提出した研究計画書に基づく	
出願期間		平成29年09月25日（月）～平成29年10月02日（月）17時必着	平成30年01月12日（金）～平成30年01月23日（火）17時必着
試験日		平成29年10月21日（土）	平成30年02月03日（土）
合格発表		平成29年10月27日（金）	平成30年02月09日（金）

3. 入試実績

(1) 2018（平成30）年度 学部入学試験状況

区分			定員 (A)	志願者 (B)		受験者 (C)			合格者 (D)			入学者 (E)			志願倍率 (B) / (A)	実質倍率 (C) / (D)	定員充足率 (E) / (A)		
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
人間 社会 学部	推薦	県内	公共社会学科	6	14	5	9	14	5	9	8	3	5	8	3	5	2.3	1.8	1.3
		社会福祉学科	10	23	5	18	23	5	18	10	2	8	10	2	8	2.3	2.3	1	
		人間形成学科	10	30	4	26	30	4	26	10	2	8	10	2	8	3	3	1	
		小計	26	67	14	53	67	14	53	28	7	21	28	7	21	2.6	2.4	1.1	
	県外	公共社会学科	4	3	1	2	3	1	2	2	0	2	2	0	2	0.8	1.5	0.5	
	社会福祉学科	5	10	1	9	10	1	9	5	0	5	5	0	5	2	2	1		
	人間形成学科	5	17	3	14	16	3	13	5	0	5	5	0	5	3.4	3.2	1		
	小計	14	30	5	25	29	5	24	12	0	12	12	0	12	2.1	2.4	0.9		
	合計	40	97	19	78	96	19	77	40	7	33	40	7	33	2.4	2.4	1		
	一般 入試	前期	公共社会学科	30	110	47	63	104	44	60	49	17	32	40	16	24	3.7	2.1	1.3
			社会福祉学科	25	66	16	50	66	16	50	37	6	31	27	4	23	2.6	1.8	1.1
			人間形成学科	25	113	21	92	106	20	86	40	7	33	32	5	27	4.5	2.7	1.3
		小計	80	289	84	205	276	80	196	126	30	96	99	25	74	3.6	2.2	1.2	
		後期	公共社会学科	10	111	39	72	39	19	20	10	4	6	4	2	2	11.1	3.9	0.4
社会福祉学科			10	83	17	66	27	7	20	17	4	13	11	4	7	8.3	1.6	1.1	
人間形成学科	10		146	26	120	56	12	44	14	3	11	11	2	9	14.6	4	1.1		
小計	30	340	82	258	122	38	84	41	11	30	26	8	18	11.3	3	0.9			
合計	110	629	166	463	398	118	280	167	41	126	125	33	92	5.7	2.4	1.1			
社会人	公共社会学科	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—		
	社会福祉学科	若干名	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—		
	人間形成学科	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—		
合計		1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—			
留学生 特別選抜	公共社会学科	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—		
	社会福祉学科	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—		
	人間形成学科	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—		
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—			
転編入試験	公共社会学科	若干名	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	—	—	—		
	社会福祉学科	若干名	5	1	4	5	1	4	1	0	1	1	0	1	—	—	—		
	人間形成学科	若干名	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	—	—	—		
合計		8	2	6	8	2	6	2	1	1	2	1	1	—	—	4	—		
海外修学経験者 (帰国生)	公共社会学科	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—		
	社会福祉学科	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—		
	人間形成学科	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—		
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—			
公共社会学科 計	50	240	92	148	162	69	93	69	24	45	54	21	33	4.8	2.3	1.1			
社会福祉学科 計	50	188	41	147	132	31	101	70	12	58	54	10	44	3.8	1.9	1.1			
人間形成学科 計	50	307	55	252	209	40	169	70	13	57	59	10	49	6.1	3	1.2			
人間社会学部 合計	150	735	188	547	503	140	363	209	49	160	167	41	126	4.9	2.4	1.1			
看護 学部	推薦	県内	20	61	5	56	61	5	56	20	0	20	20	0	20	3.1	3.1	1	
		県外	10	44	6	38	44	6	38	10	1	9	10	1	9	4.4	4.4	1	
	合計	30	105	11	94	105	11	94	30	1	29	30	1	29	3.5	3.5	1		
	一般	前期	50	226	25	201	216	25	191	79	10	69	62	7	55	4.5	2.7	1.2	
		後期	10	141	9	132	66	3	63	10	0	10	8	0	8	14.1	6.6	0.8	
	合計	60	367	34	333	282	28	254	89	10	79	70	7	63	6.1	3.2	1.2		
社会人	若干名	3	1	2	3	1	2	1	0	1	1	0	1	—	3	—			
看護学部 合計	90	475	46	429	390	40	350	120	11	109	101	8	93	5.3	3.3	1.1			
両学部 合計	240	1,210	234	976	893	180	713	329	60	269	268	49	219	5	2.7	1.1			

(2) 2018（平成30）年度 学部出身地別入学者数

学部	人間社会学部			看護学部				
	人間社会学部	看護学部		人間社会学部	看護学部			
北海道			石川県			岡山県	2	1
青森県			福井県	1		広島県	9	3
岩手県			山梨県			山口県	5	4
宮城県			長野県	1		徳島県		
秋田県			岐阜県	1		香川県	2	
山形県			静岡県	1	1	愛媛県	1	3
福島県			愛知県	1		高知県		1
茨城県		1	三重県			福岡県	79	52
栃木県			滋賀県			佐賀県	4	6
群馬県			京都府	2	1	長崎県	6	6
埼玉県	1		大阪府		3	熊本県	13	3
千葉県			兵庫県	2	1	大分県	7	4
東京都			奈良県			宮崎県	8	5
神奈川県	1		和歌山県			鹿児島県	13	3
新潟県			鳥取県		1	沖縄県		1
富山県			島根県	4				

(3) 2018（平成30）年度 大学院入学試験状況

区分	定員 (A)	志願者 (B)		受験者 (C)		合格者 (D)		入学者 (E)		志願倍率 (B) / (A)	実質倍率 (C) / (D)	定員充足率 (E) / (A)					
		男	女	男	女	男	女	男	女								
社会科学研究科	社会福祉専攻	6	8	3	5	8	3	5	1	4	5	1	4	1.3	1.6	0.8	
	心理臨床専攻	6	19	6	13	17	5	12	8	0	8	8	0	8	3.2	2.1	1.3
	子ども教育専攻	3	3	0	3	3	0	3	2	0	2	2	0	2	1	1.5	0.7
	合計	15	30	9	21	28	8	20	15	1	14	15	1	14	2	1.9	1
看護学研究科	看護学専攻	12	15	2	13	14	2	12	12	1	11	12	1	11	1.3	1.2	1
両研究科 合計		27	45	11	34	42	10	32	27	2	25	27	2	25	1.7	1.6	1

4. 入試広報

入試説明会・高校訪問・オープンキャンパス等 実績

区分	開催回数	参加人数	場所
高校訪問	31	846	稲築志耕館高校・中間高校など
入試説明会	10	298	福岡国際センター、長崎新聞文化ホールなど
オープンキャンパス	2	1,724	本学
出前講義	19	618	北九州市立・嘉徳・育徳館など
高校訪問（来学）	9	124	本学
出前講義（来学）	3	101	本学
意見交換会	1	6	本学
合計	75	3,717	

Ⅶ. 学生支援

1. 学生に対する経済面の援助

(1) 奨学金受給実績

	在学生数 (A)	学内制度		学外制度					合計 (B)	受給学生の 割合 (%) (B) / (A)
		和田奨 学基金	特別奨 学金	日本学生 支援機構 (第1種)	日本学生 支援機構 (第2種)	福岡県 教育文化 奨学財団	その他 各自治体 奨学金	その他		
学部生	1,068	1	1	376	288		9	15	690	64.6%
大学院生	51			8	3				11	21.6%
合計	1,119	1	1	384	291	0	9	15	701	62.6%

(2) 授業料減免実績

区分		申請者数 (A)	基準該当者数	免除者数 (B)	割合 (%) (B) / (A)
前期	全額免除	42	35	35	83.3%
	半額免除	36	29	29	80.6%
後期	全額免除	53	47	47	88.7%
	半額免除	41	34	34	82.9%

(3) 授業料分割納付実績

区分	学部生	大学院生	合計
前期	21		21
後期	24		24

(4) 学生寮の整備状況及び利用実績

区分	定員	利用者数	形態	使用料	雑費	共益費 (入寮時)	入寮期間
すずかけ寮	60	59人	2人部屋	4,300円	5,500円	30,000円	原則2年
アザレア寮	99	98人	個室	11,000円	6,500円	30,000円	原則1年

平成29年5月1日現在

2. 学生に対する生活支援（生活、健康、就職等進路、各種ハラスメント等）

(1) 保健室利用実績

処置内容	件数	処置内容	件数
与薬	58	血圧測定	30
外科的応急処置	76	検尿	148
整形外科的応急処置	24	医療機関紹介	71
ベッド休養	272	病院移送	1
身体計測	133	学生相談紹介	40
アルコールパッチテスト	41	その他	26
合計	920	件	

(2) 学生相談室利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用回数	26	42	46	40	20	13	40	30	33	30	29	14	363

(3) GPAに基づいた学習支援対象者数

学部	前期	後期	合計
公共社会学科	25	23	48
社会福祉学科	15	9	24
人間形成学科	7	12	19
看護学科	37	29	66
合計	84	73	157

(4) 課外・サークル活動概要

ボランティア系：10

サークル名	活動概要	部員数
湯山荘 ボランティアサークル	児童養護施設「湯山荘」において、月曜日は、小学5・6年生対象の学習ボランティア、土曜日は、3～8歳くらいまでの幼児さんたちと一緒に遊ぶ活動を行っています。	61
障害児 ボランティアサークル つくしんぼ	障害を持つ子供たちを大学に招いてゲームを楽しむ余暇支援活動を行っています。その他にも、地域の施設で開催される行事に参加しサポートするなど、様々な活動を行っています。	45
OTTっと (おととと)	OTTっと(おととと)は、おもちゃとしょかんたがわの略称です。子どもと遊ぶボランティアサークルです。発達の気になる子どもや乳幼児を対象に、研究所内のおもちゃ図書館を遊び場として提供しています。また、保護者との集いの場であり、おもちゃの貸し出しも行っていきます。	34
ハンドポスト	手話啓発活動サークルです。聴覚障害のある方とのコミュニケーションを図ったり、イベントで『手話コーラス』を披露したりしています。	70
ボランティアサークル だん☆だん	高齢者施設でボランティアを行っています。少人数で活動も不定期ですが、個人が楽しみながら利用者様と交流しています。	22
たけのこサークル	託児ボランティアを行っています。一緒に遊ぶ子どもたちはいつも楽しそうで、やりがいを感じています。飯塚市社会福祉協議会と関わりながら活動しています。	22
てんぶらあいす	心の病を持つ方々と楽しく交流するボランティアサークルです。活動拠点は「地域活動支援センター 相談支援事業ゆう」と「一本松すずかけ病院」です。他には、社会福祉協議会や社会貢献ボランティアセンター等からのボランティアにも参加させて頂いています。	24
献血推進サークル	月に一度、所属している北九州ブロックの大学が集まり、赤十字社で定例会を行っています。そこで今後の方針を決め、夏・冬に行う街頭献血、学内献血、5月の博多どんたくに参加します。夏前には、県内所属大学全員で合宿を行い、若年層に向けて献血啓発活動を行っていくうえでの目標や知識を深めます。	9
福岡県立大学 BBS	非行傾向にある子どもたちと関わりを持ち、一緒に活動しているボランティアサークルです。主な活動として、NPO法人「田川ふれ愛塾」への訪問ボランティアを行っています。毎月1回定例会を開き、活動の報告などを行っています。	20
Rainbow Garden	性的マイノリティーの人達について話し合ったり考えたりします。	15

体育会系：15

サークル名	活動概要	部員数
男子バスケットボール部	体育館における練習では、基本的な練習メニューから、試合に向けた応用練習まで、キャプテンを中心に皆で一丸となって楽しく活動しています。また、地域の試合にも積極的に参加し、多くの方々との交流させてもらっています。新チームになったので、今まで以上に団結して頑張っていきます。	29

女子バスケットボール部	火・木・土曜の週3回の練習に加え、公式戦や練習試合などもあり、真面目に楽しく練習しています。	50
硬式テニス部	週4回、13時からヤル気のある部員たちが笑顔でコート駆け回っています。 “仲の良いサークルトップ5”には確実にランクインすると思います！	56
ソフトテニス部	毎週、月・火・木・土と活動しています。初心者でも気軽にテニスができ、ワイワイやっているのでとても楽しく明るい部活です。試合にも出たり、ボランティアをやったりもしていて、積極的に参加しています。	22
男子サッカー部	水曜・土曜の週2度の練習、練習試合、インカレやリーグ戦への出場に向けて頑張っています。	42
女子サッカー部	毎週火曜日、週1回のペースで県立大学のグラウンドを利用して練習しています。初心者から経験者までいますが、初心者に合わせて練習を行い、楽しくサッカーの技術を身に付けて貰うことをモットーとしています。女子サッカー部は本当に個性豊かでみんな仲良く、楽しいサークルです。	61
男子バレーボール部	週3回(月・水・金)、充実した練習を行い、インカレやリーグ戦にも参加しています。	18
女子バレーボール部	毎週月・水・金曜日に体育館で活動しています。練習時間は4時間を男子バレー部と半分ずつ使ってやっています。初心者から経験者一緒に楽しく活動しています。	50
硬式野球部	キャッチボール、バッティング、ノック、ティー、ベーラン… リーグ戦に向け、一生懸命練習に取り組んでいます！	30
軟式野球部	男女問わず野球が好きな人が集まっているので、みんな仲が良いサークルです。	44
バドミントン部	素敵な先輩・後輩に恵まれた素晴らしいサークルです。活動内容は、まだまだ試行錯誤している最中ですが、経験者も未経験者も関係なく、全員が楽しめるような雰囲気づくりに努めていきます。	54
水泳部 筋魚	夏は体育館屋上の学内プールで、シーズンオフは学外のプールで泳ぎ、体育館でも軽い運動をしています。	10
フットサルサークル英彦山FC	週に2回、初心者・経験者関係なく、楽しく大人数でフットサルをしています。	50
卓球サークル	週に1回、みんなで楽しく卓球をしています。	15
陸上部	みんなで楽しく走ります！！	5

文化系：14

サークル名	活動概要	部員数
茶道部	お茶のお稽古(表千家)と着付けのお稽古を中心に毎週活動をしています。秋の大学祭では、外部のお客さまを呼んでお茶会を開きます。その他にも初釜や七夕茶会など、内輪で楽しむイベントも行っていますよ。茶道の免許を取ることもできます。お茶を始めてみませんか？初心者の方も大歓迎です。	16
文芸部	毎年大学祭で配布する『部誌』を完成させるために日々活動していますが、毎回部員を集めて作品評価をしているわけではありません。自分のペースで自分の好きな時に創作活動をしています。経験者も未経験者も気軽に入部できるサークルです。	11
二次研	アニメや漫画等を通して自由に話し合うサークルです。	41

ジャズ研究サークル	大学祭のステージ、新歓ライブ、クリスマスコンサートを通して、日頃の練習の成果を聴いて貰っています。 地域のイベントから演奏依頼がくることもあり、大学以外でも演奏する機会が多いです。Jazz は難しいジャンルですが奥が深く、たくさんの魅力があり、初心者から始めた人も楽しく活動しています。	38
軽音楽サークル 「万屋」	月に 1 回程度ライブしてます！イベントなどの音響手伝いもしてます！みなさん、ライブに遊びに来て下さい！	79
福岡県立大学吹奏楽団	毎週 月・水・金曜日に音楽室にて練習しています。個人やパート練習をしたり、合奏をしたりして充実した時間を過ごしています。初心者も経験者もみんなで楽しく活動しています。	19
創作芸能研究部 (CDR21)	九州工業大学・社会人との合同サークルで、地域活性化を目指しているパフォーマンス団体です。『創作炭坑節』という看板を背負いながら、主に学外の舞台で、様々な方から依頼を受けて出演させて頂いています。夏から秋にかけては、多くのお祭にも参加します。週 2 回の練習では、出演のためにメンバーで楽しく練習をしています。1 年生は、5 月の神幸祭でデビューします。テレビ出演や県外での出演をしたこともあります。	24
HIP HOP ダンスサークル	サークル内で各自チームを組み、ダンスイベントへの参加、大学祭のステージ参加をしています。 毎週月・水・木に体育館 2 階のダンスフロアでイベントやショーに向け、練習しています。いつも元気に楽しく練習しているので、笑いの絶えないサークルです。	43
ESS	卒業、または進学までに、TOEIC で点数をとりたい人が集まって、日々楽しく勉強します！	15
魔女のさんぽみち	庭 (4 号館と 5 号館の間のハーブ園) でハーブを育て、収穫し、自分のため、大切な誰かのため、暮らしの中で役立てることが目標です。無理をせず、時間をかけて共に庭を育てていきましょう。 *月の最終火曜日は、茶話会。 *不定期でイベントやワークショップを。	18
写真部	学内・学内で撮影会を行っています。定期的に講評会も行い、技術の向上をはかります。	8
演劇部	文化祭などの公演に備え、日々発声練習や台本読みをしています。役者志望も裏方志望も分け隔てなく仲が良いです。	14
書道部	字を書くのが好き！筆を持ちたい！などの思いを持ったいろんな人と楽しく活動しています。	5
SING	みんなで楽しく歌います。	8

(5) キャリアサポートセンター利用人数実績

	人間社会学部	看護学部	合計
1 年生	2	0	2
2 年生	3	1	4
3 年生	240	23	263
4 年生	456	225	681
既卒	0	0	0
合計	701	249	950

(6) 就業力向上支援室活動概要

表1 インターンシップの実績

	プレ・インターンシップ	中長期・実践型 インターンシップ
学生数	51名	2名
受入企業	61件（夏季33+春季28）	1件

表2 研修会、報告会等の実績

研修会等	回数
ガイダンス（プレ・インターンシップ）	1
ガイダンス（中長期・実践型インターンシップ） ※第1期、第2期の2回実施	2
マナー研修（プレ・インターンシップ）	1
マナー研修（中長期・実践型インターンシップ） ※DVD研修	1
直前研修（プレ・インターンシップ/中長期・実践型インターンシップ）	1
中間報告会（プレ・インターンシップ） ※グループディスカッション形式	1
事後研修（中長期・実践型インターンシップ） ※第1期、第2期の2回実施	2
ポスターセッション研修 ※同じ内容のものを2回実施 （プレ・インターンシップ/中長期・実践型インターンシップ）	2
インターンシップ報告会（プレ・インターンシップ/中長期・実践型インターンシップ）	1

表3 報告書等成果物について

成果物	発行数
マイキャリアポケット（社会貢献活動記録帳）	840
インターンシップ報告会報告書（電子ブックをHPに掲載）	1
福岡県立大学 キャリア・ハンドブック	60

(7) インターンシップ参加者数及び派遣企業・団体数

	参加者数	派遣企業・団体数	派遣先
H25年度	17	16	田川市役所、西日本鉄道株式会社など
H26年度	20	17	田川市役所、九州海外協力協会など
H27年度	32	27	福岡県庁、田川市役所など
H28年度	21	19	福岡県庁、田川市役所など
H29年度	21	21	田川市役所、飯塚市役所

(8) 支援を必要とする学生数

	人間社会学部	看護学部	人間社会学研究科	看護学研究科
障害のある学生	2	0	0	0
留学生	0	0	0	0
社会人学生	0	0	9	13
合計	2	0	9	13

(9) 留学生ビジット状況

ホームステイ先	留学生の出身大学	人数	ホームステイ期間
個人宅（大任町）	大邱韓医大学 三育大学校	2	平成29年12月31日 ～平成30年1月1日

(10) 留学生支援事業実施状況

実施日	行き先	事業内容
平成29年5月27日	石炭歴史博物館、魚楽園	田川地域の歴史と文化に触れ、日本を学ぶ
平成29年6月16日	飯塚市内ホテル	他大学の留学生と交流しネットワークを広げる
平成29年7月29日	北九州いのちのたび博物館他	九州とアジアの歴史的関わりについて学ぶ
平成29年10月28日	小石原焼窯元、秋月城址	大陸伝来の陶芸と日本の古い町並みを体験する
平成30年2月3日	動物園、太宰府天満宮他	福岡地域の歴史と文化に触れ、日本を学ぶ

(11) 社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験の受験対策実施状況

受験対策内容	回数	参加人数
先輩との交流会	2	74
模試	2	93
受験対策講座	20	877

(12) 看護師・保健師国家試験の受験対策実施状況

受験対策内容	回数	参加延人数
補講	看護師4、保健師1	366
模試	看護師6、保健師5	615

※平成24年度入学者より保健師国家試験の受験資格が選抜となった。

(13) 公務員講座実施状況

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
授業回数	70回	70回/148回	70回/110回	70回/111回	70回/111回	70回/110回
登録者人数	68名	52名/17名	38名/32名	70名/32名	70名/32名	34名/30名

平成25年度より2年生向けの対策<基礎>講座/3年生向けの対策講座の2コースになっています。

(14) 就職対策講座実施状況

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
回数	3回	3回	3回	5回	6回	11回
参加者数	36名	35名	25名	49名	56名	102名

VIII. 施設・設備

1. 講義室等の設置状況

区分	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設
1号館	7	1	5	—	—
2号館	1	—	—	—	—
3号館	7	7	3	2	1
4号館	2	—	5	1	—
5号館	9	10	4	—	—
その他	1	—	—	—	—
計	27	18	17	3	1

2. 施設・設備のバリアフリー化状況

	スロープ	階上階用エレベータ	多目的トイレ	点字ブロック
1号館	設置	設置	4ヶ所	—
2号館	設置	設置	—	—
3号館	設置	設置	2ヶ所	—
4号館	設置	設置	4ヶ所	—
5号館	設置	設置	4ヶ所	—
管理棟・講堂・大講義室	設置	設置	5ヶ所	設置
図書館	設置	設置	2ヶ所	設置
体育館・プール	設置	—	1ヶ所	—
福利厚生棟	設置	—	1ヶ所	—
附属研究所	設置	設置	1ヶ所	—
心理学実験棟	設置	—	—	—

3. 自主的な学習活動が可能な施設

施設一覧	
<ul style="list-style-type: none"> ・1号館1階 自由閲覧室 ・1号館1階 国家試験対策室 (3室) ・5号館2階 自習室 (5室) 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館 (本館・分館 (4号館1階)) ・3号館2階 3211 自習室

4. 自由閲覧室利用状況 (利用者数)

時間帯	H24年度		H25年度		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度	
	8:45 ～ 17:00	17:00 ～ 21:00	8:45 ～ 17:00	17:00 ～ 21:00	8:45 ～ 17:00	17:00 ～ 21:00	8:45 ～ 17:00	17:00 ～ 21:00	8:45 ～ 17:00	17:00 ～ 21:00	8:45 ～ 17:00	17:00 ～ 21:00
年間延べ人数	1,618	860	1,684	954	1,575	907	1,597	991	1,365	735	1,061	540

5. ICT 環境（情報処理センター）

(1) 情報処理学習施設

区分	パソコン台数	利用曜日	時間
情報処理教室 1	74	月～金	8：30～20：00
情報処理教室 2	54	月～金	8：30～20：00
3208 演習室	16	月～金	8：30～18：00

(2) 無線 LAN アクセスポイント

建物設置箇所	建物設置箇所	
1号館	1階	2箇所（キャンパススクール、学生談話室）
	2階	2箇所（公共社会科学学生研究室、1222 講義室）
	3階	3箇所（心理臨床大学院生研究室、社会福祉大学院生研究室（2 部屋））
2号館	4階	1箇所（1410 栄養実習室）
3号館	1階	1箇所（2101 講義室）
	1階	7箇所（3102 演習室、3103 演習室、3104 演習室、3105 演習室、3107 非常勤講師室、3109 講義室、キャリアサポートセンター）
	2階	10箇所（3201 演習室、3205 演習室、3208 演習室、3202 講義室、3203 講義室、3204 講義室、3207 講義室、3212 講義室、3206 社会調査実習室、3211 自習室）
4号館	3階	2箇所（3317 LL 教室、3319 講義室）
	3階	1箇所（4302（学生実験室））
	4階	3箇所（会議室、廊下 2 箇所）
5号館	2階	4箇所（廊下）
	3階	4箇所（5301 実習室Ⅳ、5302 実習室Ⅲ、5303 実習室Ⅱ、5304 実習室Ⅰ）
	4階	5箇所（小会議室、廊下 4 箇所）
講堂管理棟	1階	1箇所（廊下）
	2階	1箇所（廊下）
心理学実験棟	1階	1箇所（心理教育相談室）
附属図書館	1階	1箇所（自由閲覧室）
	2階	1箇所（閲覧室）
福利厚生棟	1階	1箇所（食堂）

6. 図書館

(1) 施設・職員、開館時間

区分		本館		看護学部分館	
		開館	閉館	開館	閉館
通常期間 (下記を除く期間)	平日	8:45	20:00	8:45	22:00
	土曜日	8:45	17:00	8:45	21:00
	日曜日・祝日	休館	休館	9:00	17:00
1月4～9日 3月1～31日 8月11日～9月30日 12月24～29日	平日	8:45	17:00	8:45	17:00
	土曜日	休館	休館	9:00	17:00
	日曜日・祝日	休館	休館	9:00	17:00
休館日		<ul style="list-style-type: none"> ・年末年始（12月29日～翌年1月） ・大学及び大学院入学試験日 ・秋興祭 ・館内整理日（毎月末日。末日が休日の場合は前日） 			
職員数		3(他：図書館事務1)人		2人	

(2) 貸出条件

○帯出冊数および日数				
利用者	種別	数	期間	
1～3年生	図書	5冊以内	1週間以内	
	雑誌	3冊以内	1週間以内	
研究生、聴講生、 科目等履修生 一般利用者	音楽CD・カセット	2タイトル以内	1週間以内	
	図書	5冊以内	2週間以内	
	雑誌	3冊以内	1週間以内	
4年生、留学生	音楽CD・カセット	2タイトル以内	1週間以内	
	図書	10冊以内	30日間以内	
	雑誌	5冊以内	1週間以内	
大学院生、教職員（非常勤の者を含む）	音楽CD・カセット	2タイトル以内	1週間以内	
	図書	10冊以内	30日間以内	
	雑誌	5冊以内	1週間以内	

次の図書は帯出できません。

- ① 図書（辞書、辞典、図鑑、年鑑、統計、地図、法令集及びこれらに準ずるもの）
- ② 貴重図書
- ③ 雑誌の最新号、新聞
- ④ 機械可読資料（マイクロフィルム、CD-ROM等）
- ⑤ 映像資料（DVD、ビデオテープ、ビデオディスク等）
- ⑥ その他館長が館外利用を不適当と認めたもの

○帯出更新
貸出中の図書は予約者のないときに限り、貸出期間を更新することができます。

(3) 蔵書数

(単位：冊)

区分	図書	学術雑誌			
			(うち外国書)	(うち外国書)	電子ジャーナル (うち外国書)
本館	136,525	81,394	25,670	13,540	15
分館	29,828	31,452	3,712	643	17
合計	166,353	112,846	29,382	14,183	32

(4) 入館者状況

(単位：人)

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
本館	21,340	19,613	18,296	18,035	12,730	17,937
分館	19,716	21,033	23,943	21,221	24,329	27,699
合計	41,056	40,646	42,239	39,256	37,059	45,636

(5) 貸出状況 (学内・学外者)

(単位：人)

区分	H24年度		H25年度		H26年度				
	学内者	学外者	学内者	学外者	学内者	学外者			
本館	19,661	18,489	1,172	17,672	14,179	3,493	16,134	13,383	2,751
分館	20,072	16,469	3,603	21,193	15,741	5,452	18,557	14,217	4,340
合計	39,733	34,958	4,775	38,865	29,920	8,945	34,691	27,600	7,091

区分	H27年度		H28年度		H29年度				
	学内者	学外者	学内者	学外者	学内者	学外者			
本館	15,811	13,189	2,622	8,000	7,011	989	12,108	11,297	811
分館	15,903	14,369	1,534	13,430	11,273	2,157	12,913	10,779	2,134
合計	31,714	27,558	4,156	21,430	18,284	3,146	25,021	22,076	2,945

7. 学生団体が課外活動に利用する施設の整備状況

サークル部屋・学生会館

施設一覧		
・グラウンド	・プール	・茶室
・体育館	・音楽室	・部室 17 部屋
・テニスコート	・スタジオ 2 部屋	

※上記以外に、講義室・演習室を使うサークルもある。

IX. 就職

1. 卒業後の状況

(1) 学科別就職率及び進学、就職希望者の就職率

学部 学科別	卒業生数 (A)	就職希望者数 (B)	就職決定者数 (C)	進学者数			その他	就職率 (%) (C) / (A)	就職希望者の就職率 (%) (C) / (B)
				大学院	その他 専修学校				
公共社会学科	54	52	50	0	0	0	4	92.6%	96.2%
社会福祉学科	59	57	55	1	1	0	3	93.2%	96.5%
人間形成学科	57	44	43	12	10	2	2	75.4%	97.7%
看護学科	90	82	82	8	6	2	0	91.1%	100.0%
合計	260	235	230	21	17	4	9	88.5%	97.9%

(2) 学科別所在地別就職先一覧

学部	公共社会 学 科	社会福祉 学 科	人間形成 学 科	看護学科		公共社会 学 科	社会福祉 学 科	人間形成 学 科	看護学科
北海道					和歌山県				
青森県					滋賀県				
岩手県					奈良県				
秋田県					京都府		1		
宮城県					大阪府	2	1		1
山形県					兵庫県	1	1		4
福島県					岡山県				
茨城県					広島県	2	4		2
栃木県					鳥取県				1
群馬県					島根県		1	1	
埼玉県		1			山口県	1			1
千葉県	1	1		2	香川県				
東京都	8	2	7	1	徳島県				
神奈川県		1		1	愛媛県	1			1
新潟県					高知県				
福井県			1		福岡県	23	37	28	58
石川県					佐賀県	1	1	1	1
富山県					長崎県		1	2	2
静岡県			1		大分県		1		3
山梨県					熊本県	4			2
長野県					宮崎県	3	1		
愛知県	3			1	鹿児島県			2	1
岐阜県					沖縄県				
三重県		1			その他				

(3) 学科別産業別就職先一覧

公共社会学科	種別	就職者数	割合
	製造業	4	8.0%
	情報通信業	6	12.0%
	卸売業・小売業	15	30.0%
	金融業・保険業	4	8.0%
	不動産業・物品賃貸業	2	4.0%
	宿泊業・飲食サービス業	1	2.0%
	生活関連サービス業・娯楽業	3	6.0%
	教育・学習支援業	2	4.0%
	医療・福祉	2	4.0%
	複合サービス業	2	4.0%
	サービス業	4	8.0%
	公務	5	10.0%
その他	0	0.0%	

社会福祉学科	種別	就職者数	割合
	運輸業・郵便業	1	1.8%
	卸売業・小売業	2	3.6%
	金融業・保険業	1	1.8%
	教育・学習支援業	2	3.6%
	医療・福祉	44	80.0%
	公務	5	9.1%
その他	0	0.0%	

人間形成学科	種別	就職者数	割合
	幼稚園・保育園	11	25.6%
	幼稚園・保育園（官公庁）	12	27.9%
	小売業	4	9.3%
	官公庁	3	7.0%
	サービス業	6	14.0%
	金融・保険業	2	4.7%
	不動産業	2	4.7%
	教育業・学習支援業	1	2.3%
	社会福祉業	2	4.7%

看護学科	種別	就職者数	割合
	病院・医療施設 （看護師・助産師）	64	78.0%
	教員 （養護教諭含む）	9	11.0%
	官公庁 （看護師・保健師）	9	11.0%
	サービス業	0	0.0%

(4) 大学院課程修了生専攻別就職率及び進学、就職希望者の就職率

研究科 専攻別	修了者数 (A)	就職希望者数 (B)	就職決定者数 (C)	進学者数	その他	就職率 (%) (C) / (A)	就職希望者の 就職率 (%) (C) / (B)
社会福祉専攻	1	0	0	0	1	0.0%	0.0%
心理臨床専攻	8	8	8	0	0	100.0%	100.0%
看護学研究科	14	6	6	0	8	42.9%	100.0%
合計	23	14	14	0	9	60.9%	100.0%

(5) 大学院課程修了生専攻別産業別就職先一覧

社 会 福 祉 専 攻	種別	就職者数	割合
	就職者なし		

看 護 学 専 攻	種別	就職者数	割合
	医療・福祉	6	100.0%

床 心 専 理 攻 臨	種別	就職者数	割合
	医療・福祉	8	100.0%

X. 研究

1. 研究成果の発信

(1) 紀要等

		H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
人間社会学部	発行回数	年 2 回	年 2 回	年 2 回	年 2 回
	発送部数 (発行部数)	1 号 250 (400) 2 号 249 (400)	1 号 239 (400) 2 号 230 (400)	1 号 67 (200) 2 号 66 (200)	1 号 70 (200) 2 号 70 (200)
看護学部	発行回数	年 2 回	年 2 回	年 1 回	年 1 回
心理臨床研究	発送部数 (発行部数)	1 号 241 (400) 2 号 240 (400)	1 号 239 (400) 2 号 239 (400)	1 号 256 (400)	1 号 252 (400)
	発行回数	年 1 回	年 1 回	年 1 回	年 2 回
	発送部数 (発行部数)	104 (200)	118 (200)	102 (200)	113 (200)

		H28 年度	H29 年度	公開 URL
人間社会学部	発行回数	年 2 回	年 2 回	【機関リポジトリ】 https://fukuoka-pu.repo.nii.ac.jp/index.php?action=page_s_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=4&pn=1&count=20&order=17&lang=japanese&page_id=13&block_id=21
	発送部数 (発行部数)	1 号 69 (200) 2 号 68 (200)	1 号 76 (200) 2 号 76 (200)	
看護学部	発行回数	年 1 回	年 1 回	【機関リポジトリ】 https://fukuoka-pu.repo.nii.ac.jp/index.php?action=page_s_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=9&pn=1&count=20&order=17&lang=japanese&page_id=13&block_id=21
	発送部数 (発行部数)	1 号 255(400)	1 号 251 (400)	
心理臨床研究	発行回数	年 1 回	年 1 回	【機関リポジトリ】 https://fukuoka-pu.repo.nii.ac.jp/index.php?action=page_s_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=17&pn=1&count=20&order=17&lang=japanese&page_id=13&block_id=21
	発送部数 (発行部数)	115 (165)	103 (150)	

(2) 附属研究所業務実績報告書等

発行元	出版物	発送部数（発行部数） 公開 URL（電子ブック）
生涯福祉研究センター	生涯福祉研究センター 2016 年度事業報告書（2017 年 9 月 30 日発行）	http://fukuokapuprd0101.powercms.hosting/research/img/53380a3359fec3220d98d7e1aa225214.pdf
不登校・ひきこもりサポートセンター	不登校・ひきこもりサポートセンター 2016 年度事業報告書（2017 年 9 月 29 日発行）	http://fukuokapuprd0101.powercms.hosting/research/img/021ad9c23e14a1afe43fd7b2b8d1e32f.pdf
ヘルスプロモーション実践研究センター	ヘルスプロモーション実践研究センター 2016 年度事業報告書（2017 年 8 月 31 日発行）	http://fukuokapuprd0101.powercms.hosting/research/img/4fb3fdbd6efbdcdb871ce7ce2ab8dc60_1.pdf
生涯福祉研究センター	vol56 『介護支援専門員による高齢者虐待の予兆察知と支援の課題ー地域包括支援センターにおけるソーシャルワークの役割ー』	60部

※ 平成 29 年度は国際シンポジウムと不登校のフォーラムが特別公開講座として実施されており、例年実施しているような公開講座がなかったため、附属研究所として公開講座の報告書は作成していません。

(3) その他

	H24 年度		H25 年度		H26 年度	
	発行回数	発送部数 （発行部数）	発行回数	発送部数 （発行部数）	発行回数	発送部数 （発行部数）
社会調査実習報告書	年 1 回	10 (30)	年 1 回	10 (30)	年 1 回	10 (30)

	H27 年度		H28 年度		H29 年度	
	発行回数	発送部数 （発行部数）	発行回数	発送部数 （発行部数）	発行回数	発送部数 （発行部数）
社会調査実習報告書	年 1 回	15 (60)	年 1 回	30 (70)	年 1 回	60 (200)

2. 研究奨励交付金決定一覧

区分		H24年度		H25年度		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度	
		件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
プロジェクト研究	人間社会学部	5	4,550	3	1,942	1	986	2	1,959	1	982		
	看護学部	6	5,700	4	3,606	5	4,248	2	1,787	5	4,064	5	4,106
	附属研究所												
	計	11	10,250	7	5,548	6	5,234	4	3,746	6	5,046	5	4,106
個別研究 ※1	人間社会学部	11	3,315	10	2,740								
	看護学部	13	4,190	15	4,311								
	附属研究所												
	計	24	7,505	25	7,051								
全学横断型プログラム研究助成 ※4	人間社会学部							2	891	2	750	2	784
	看護学部							2	988	2	984	2	989
	附属研究所												
	計							4	1,879	4	1,734	4	1,773
若手研究助成 ※3	人間社会学部					2	393	3	270	2	144	4	381
	看護学部					10	1,411	9	1,186	5	797	10	1,253
	附属研究所												
	計					12	1,804	12	1,456	7	941	14	1,634
附属研究所重点領域研究 ※5	人間社会学部									2	940	1	500
	看護学部									1	500	1	390
	附属研究所											1	500
	計									3	1,440	3	1,390
院生研究助成 ※3	人間社会学部					1	54	2	112			1	66
	看護学部							1	39	1	80		
	附属研究所												
	計					1	54	3	151	1	80	1	66
教員表彰者支援 ※3	人間社会学部					1	100					1	100
	看護学部					1	100			1	100		
	附属研究所												
	計					2	200			1	100	1	100
科研申請支援 ※2	人間社会学部			2	200	2	200	2	200			2	200
	看護学部			1	100	3	300			3	300		
	附属研究所												
	計			3	300	5	500	2	200	3	300	2	200
研究論文出版補助 ※5	人間社会学部												
	看護学部									1	54	2	59
	附属研究所												
	計									1	54	2	59
合計	人間社会学部	16	7,865	15	4,882	7	1,733	11	3,432	7	2,816	11	2,031
	看護学部	19	9,890	20	8,017	19	6,059	14	4,000	19	6,879	20	6,797
	附属研究所											1	500
	計	35	17,755	35	12,899	26	7,792	25	7,432	26	9,695	32	9,328

※金額については予算配分額

※1：平成26年度から廃止

※2：平成25年度より採択開始

※3：平成26年度より採択開始

※4：平成27年度より採択開始

※5：平成28年度より採択開始

3. 外部資金等の獲得実績（平成29年度受託研究等事業名）一覧

（単位：千円）

委託元		研究課題等	金額
継続	福岡県	福岡県訪問看護ステーション連携強化に係るアドバイザー業務	972
新規	福岡県	不登校児童生徒復帰支援事業	6,356
計		2件	7,328

4. 科学研究費補助金応募・獲得状況及び外部研究費受入額（各学部）

人間社会学部

			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
科学研究費補助金 (件数)	応募件数		25	25	29	37	35	41	44
	うち新規		15	13	20	30	26	32	34
	新規獲得件数		6	3	4	6	3	6	5
	採択率		40.0%	23.1%	20.0%	20.0%	11.5%	18.8%	14.7%
	獲得件数		17	13	11	16	12	15	17
外部研究資金 (受入額：千円)	科研費		27,950	21,862	17,940	27,468	11,310	18,330	22,230
	その他		0	0	0	0	0	570	2,439
	合計		27,950	21,862	17,940	27,468	11,310	18,900	24,669
受託研究等 (研究のみ)	受託研究	件数	1	-	2	1	-	-	-
		金額(千円)	1,995	-	535	500	-	-	-
	共同研究	件数	3	1	4	2	1	-	-
		金額(千円)	1,361	1,397	1,768	699	200	-	-
		GP及び大学改革推進事業	件数	1	1	1	2	1	-
	計	金額(千円)	16,800	8,431	11,983	19,774	6,919	-	-
		件数	5	2	7	5	2	-	-
金額(千円)	20,156	9,828	14,286	20,973	7,119	-	-		
受託研究等 (上記以外)	件数	1	1	-	-	-	-	-	
	金額(千円)	895	164	-	-	-	-	-	
受託研究等 合計	件数	6	3	7	5	2	-	-	
	金額(千円)	21,051	9,992	14,286	20,973	7,119	-	-	
合計(千円)			49,001	31,854	32,226	48,441	18,429	18,900	24,669

科学研究費補助金 (件数)	応募件数	25	29	34	35	39	44	48
	教員数	51	51	48	42	46	48	50
	応募率(無資格者等除く)	50.0%	56.9%	89.5%	89.7%	90.7%	95.7%	94.1%

看護学部

			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
科学研究費補助金 (件数)	応募件数		54	49	52	54	51	56	57
	うち新規		45	34	36	40	33	38	44
	新規獲得件数		13	6	6	10	7	4	6
	採択率		28.9%	17.6%	16.7%	25.0%	21.2%	10.5%	13.6%
	獲得件数		19	19	19	22	22	20	13
外部研究資金 (受入額：千円)	科研費		25,870	30,680	24,960	31,887	32,890	20,629	12,220
	その他		0	0	0	0	0	0	
	合計		25,870	30,680	24,960	31,887	32,890	20,629	12,220
受託研究等 (研究のみ)	受託研究	件数	0	2	1	1	1	1	1
		金額(千円)	199	607	302	1,655	500	400	6,356
	共同研究	件数	2	3	1	0	0	1	
		金額(千円)	687	940	0	0	0	0	
		GP及び大学改革推進事業	件数	1	1	1	2	2	2
	計	金額(千円)	71,000	37,702	28,374	24,321	26,585	16,531	
		件数	3	6	3	3	3	4	1
金額(千円)	71,886	39,249	28,676	25,976	27,085	16,931	6,356		
受託研究等 (上記以外)	件数	-	-	-	-	-	1	1	
	金額(千円)	-	-	-	-	-	800	972	
受託研究等 合計	件数	3	6	3	3	3	5	2	
	金額(千円)	71,886	39,249	28,676	25,976	27,085	17,731	7,328	
合計(千円)			97,756	69,929	53,636	57,863	59,975	38,360	19,548

科学研究費補助金 (件数)	応募件数	52	51	54	52	54	53	55
	教員数	60	62	62	58	61	60	62
	応募率(無資格者等除く)	92.9%	91.9%	100.0%	98.1%	100.0%	98.1%	98.2%

5. 査読付学術書掲載論文数及び学会発表等（各学部）

項目	学部	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
論文数（査読、学術書掲載分）	人間社会学部	19	21	34	14	36	17	70
	看護学部	67	71	40	35	50	30	41
	計	86	92	74	49	86	47	111
学会発表数（招待講演、シンポジスト招聘分）	人間社会学部	5	8	7	5	6	8	9
	看護学部	9	9	6	1	3	1	6
	計	14	17	13	6	9	9	15

6. 学術賞等の受賞状況

受賞名	所属学部	受賞者名	受賞内容	主催団体（学会）
川井記念賞	人間社会学部	中原雄一	勤労者における介護の有無と精神的健康度、身体活動量に関する検討	一般財団法人厚生労働統計協会
優秀学会発表賞	看護学部	原田直樹	学童保育における発達障害及びその傾向を有する児童と支援者の対応困難感に関する研究	日本保健福祉学会

7. 受賞論文・国際学会招待研究等一覧

実績無し

8. 国際学会招待研究等一覧

実績無し

9. 特許出願状況

学部		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
人間社会学部	申請	0	0	0	0	0	0	0
	取得	0	0	0	0	0	0	0
看護学部	申請	1	1	1	0	0	0	0
	取得	0	1	0	0	1	0	0
合計	申請	1	1	1	0	0	0	0
	取得	0	1	0	0	1	0	0

XI. 国際交流

1. 学部・学年別・国籍別留学生数

	人間社会学部		看護学部	
	人数	国籍	人数	国籍
1年生				
2年生				
3年生				
4年生				

※ 該当者なし

2. 留学生の受入・派遣

(1) 交換留学（受入・派遣）

	南京師範大学	大邱韓医大学校	三育大学校	吉林大学珠海学院
受入学生数	6	5	3	3
派遣学生数	1	1	1	

(2) 語学研修実績

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	行き先
参加学生数	16	25	23	17	16	27	イギリス（バース・オックスフォード）

(3) 留学における単位認定

		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
南京師範大学	対象学生数	6	6	6	6	6	6
	認定単位数	51	48	45	50	56	76
大邱韓医大学校	対象学生数	2	5	5	4	5	5
	認定単位数	64	138	161	136	139	118
三育大学校	対象学生数	—	1	—	2	—	3
	認定単位数	—	38	—	79	—	61
吉林大学珠海学院	対象学生数	—	—	—	—	—	3
	認定単位数	—	—	—	—	—	87

3. 学術交流協定等締結校一覧

中国	南京師範大学
	北京中医薬大学
	吉林大学珠海学院
韓国	大邱韓医大学校
	三育大学校
	威徳大学校
タイ	コンケン大学

XII. 社会貢献

1. 公開講座等の実施状況

(1) 公開講座実施状況

	実施日程	テーマ	講師	参加者 (人)
公開講座 I	平成 29 年 10 月 14 日 (土)	日独国際シンポジウム「石炭産業終焉後の“地域 ビジョン”をめぐってーポスト工業社会における 暮らしと文化ー」	前ツォルフェアアイン・ルール博物館 館長 ウルリヒ・ボルスドルフ氏 ※講師が体調不良のため来日できず、 福岡県立大学の田代教授が代理講演	200
公開講座 II	平成 30 年 2 月 26 日 (月)	「不登校・ひきこもり児童生徒の未来をひらく～ 最先端の支援を共有する～」 基調講演「児童福祉をめぐる課題と不登校・ひき こもりサポートセンターの役割」	福岡県立大学附属研究所不登校・ひき こもりサポートセンター センター長 本郷 秀和	157
	平成 30 年 2 月 26 日 (月)	「不登校・ひきこもり児童生徒の未来をひらく～ 最先端の支援を共有する～」分科会	①発達障害 山下雅子氏	154
			②知的障害 中村恵美子氏	
			③非行 大月祥子氏	
			④精神障害 長野美紀氏	142
	⑤人間関係・いじめ 星出智絵氏			
⑥虐待 梶谷優子氏				
				653

(2) 科目等履修生、聴講生、研究生の受入状況

区分	H 2 4 年度		H 2 5 年度		H 2 6 年度		H 2 7 年度		H 2 8 年度		H 2 9 年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
科目等履修生	5	8	7	1	2	3	7	2	1	2	2	1
科目等履修生(大学院)	0	1	2	3	2	1	5	1	3	2	2	2
聴講生	1	1	1	1	4	2	3	3	4	2	3	5
聴講生(大学院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
研究生	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1

(3) 出前講義の実施状況

区分	開催回数	参加人数	場所
出前講義	19	599	嘉穂高校、北筑高校他
高校訪問(来学)	9	124	本学
出前講義(来学)	3	101	本学

出前講義アンケート

	参加人数	回収人数	満足	だいたい満足	あまり満足でない	満足でない
出前講義	599	483	383	97	3	0
高校訪問(来学)	124	110	68	39	2	1
出前講義(来学)	101	95	85	10	0	0

平成 29 年度 出前講義テーマ一覧

人間社会学部	看護学部
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共とは何か ・ 心理学入門 ・ 占いはなぜ当たるのか ・ 脳とこころの最前線 ・ ニセ科学の見分け方 ・ 社会福祉学入門 ・ 保育所・幼稚園・こども園の先生になるためには？ 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手術と看護 ・ 看護の技について ・ 地域の人々に対する看護活動 ・ 性教育について ・ 小児科の看護師さんって？ ・ 認知症高齢者の体験世界と看護 ・ からだのリズム～睡眠と覚醒～ 等

2. 地域貢献活動

(1) 生涯福祉研究センター活動概要

リカレント教育事業

対象	事業名	回数	人数 (延べ)
保育士、幼・小・中・特別支援学校教諭 等	特別支援教育スキルアッププログラム	5	145
	保育士・教師のためのペアレントトレーニングスキルアッププログラム (直方市と共催)	5	145
	筑豊英語教員フォーラム	12	330
	保育士向け研修会 (潤野保育園、嘉麻公立保育所職員研修会、植木保育園)	5	145
福祉	福岡県立大学リカレントセミナー	2	421

地域貢献事業

対象	事業名	回数	人数 (延べ)
乳幼児、児童と保護者	おもちゃとしょかん・たがわ	24	119
親	お父さんとお母さんの学習室	24	72
福祉、介護、医療、福祉用具販売メーカー 等	福祉用具研究会	9	322
一般住民 (外国人)	日本語くらぶ・たがわ	24	144
一般住民	足と靴の相談室	7	7
市民及び学生	アドボチャイルド学習会	9	286
	実践：香春町子ども食堂協力	4	133

(2) ヘルスプロモーション実践研究センター活動概要

リカレント教育事業

対象	事業名	回数	人数 (延べ)
看護師、助産師	看護職へのリカレント教育、身体感覚活性化<世にも珍しい>マザークラス医療者向けセミナー	1	38
看護師、保健師	保健師リカレント教育	2	82
一般	地域住民の感染症予防スキルアップ事業、ユニフィケーションシステムによるヘルス・プロモーション推進事業	11	214

地域貢献事業

対象	事業名	回数	人数 (延べ)
一般	マザークラス田川	6	39
一般	マザークラス福岡	6	142
一般	健康大使への継続教育	1	16
一般	筑豊市民大学・ヘルシーエイジングゼミ	11	313
一般	健康教室 (ヒーリング)	11	110
一般	「癒しの空間」の管理運営	4	12
一般	食によるヒーリングパワー	3	17
一般	女性と子どものためのスペース「ら・どんな・まんま」	2	9
一般	性の健康に関する事業 (布ナプキン作成、マンスリーボックス、月経何でも相談、性教育)	19	244
一般	エンド・オブ・ライフケア教育	3	290

(3) 不登校・ひきこもりサポートセンター活動概要

リカレント教育事業

	対象	事業名	回数	人数
リカレント	小・中・高校教員	公開講座「不登校・ひきこもり児童生徒の未来をひらく～最先端の支援を共有する～」	3	453
		教員対象研修事業	49	3,386

地域貢献事業

	対象	事業名	回数	人数
地域貢献	小学生～20歳程度	県大子どもサポートセンター派遣	275 (名)	2,503
	小・中・高校生	キャンパススクール	22 (名)	1,252
	小学生～20歳程度	相談件数	1,349	4,079
	親	家族交流会	12	67

(4) 社会貢献・ボランティア支援センター活動概要

(外部団体の登録状況と学生の活動状況)

領域	登録団体件数	依頼申請件数	学生参加件数	学生参加人数
高齢者福祉に関する団体・施設	18	0	0	0
障害者福祉に関する団体・施設（障害児を含む）	63	22	10	122
児童福祉に関する団体・施設	34	7	3	497
社会福祉協議会	14	6	3	39
その他	58	41	7	86
合計	187	76	23	744

(5) 看護実践教育センター活動概要

リカレント教育事業

実施年度	対象	事業名	人数 (名)
平成 24 年度	看護職	第 1 回九州・山口・沖縄糖尿病療養指導スキルアップセミナー	125
平成 25 年度	看護職	第 1 回糖尿病看護実践力開発セミナー	317
平成 26 年度	看護職	第 2 回糖尿病看護実践力開発セミナー	400
平成 27 年度	看護職	第 3 回糖尿病看護実践力開発セミナー	248
平成 28 年度	看護職	第 4 回糖尿病看護実践力開発セミナー	249
平成 29 年度	看護職	第 5 回糖尿病看護実践力開発セミナー	244

(6) 心理教育相談室実績

事業名	面接件数
心理教育相談	1,283

(7) 教員免許更新事業

講習期間	講座の名称	時間数	参加教員数
8月22日	教育の最新事情	6	82
8月23日	ペアレントトレーニング	6	38
	子どもの問題行動と対応（青少年の心理的危機に対する初期対応）	6	31
	教育相談	6	17
8月28日	アクティブ・ラーニングを深く考える	6	16
	救急処置・危機管理と学校保健	6	39
8月30日	子どもを取り巻く課題と学校連携	6	38
計		42	261

教員免許状更新講習 事後アンケート

講座の名称	1：講習の内容・方法について				2：講習を受講したあなたの最新の知識・技能の習得の成果について				3：講習の運用面について				参加教員
	満足	だいたい満足	あまり満足でない	満足でない	満足	だいたい満足	あまり満足でない	満足でない	満足	だいたい満足	あまり満足でない	満足でない	
教育の最新事情	37	38	6	1	29	48	5	0	35	37	9	1	82
ペアレントトレーニング	32	6	0	0	30	8	0	0	23	14	1	0	38
子どもの問題行動と対応（青少年の心理的危機に対する初期対応）	25	6	0	0	19	12	0	0	17	13	1	0	31
教育相談	5	9	3	0	9	6	2	0	9	4	3	1	17
アクティブ・ラーニングを深く考える	7	8	1	0	9	5	2	0	9	7	0	0	16
救急処置・危機管理と学校保健	29	9	0	1	23	15	0	1	22	16	0	1	39

3. 学外講義・講演

講師等（行政・教育）

（単位：件）

福岡県	田川市郡	福岡県内市町村	他縣市町村	計
27	24	103	25	179

講師等（その他団体）

（単位：件）

福岡県内		他県	計
田川地区	その他		
7	72	18	97

4. 審議会・委員会等への参画状況

委員会（その他の団体）

（単位：件）

福岡県内		他県	計
田川地区	その他		
41	46	6	93

Ⅷ. 財務

1. 資産と負債の状況

(単位：千円)

科目	H24年度 (A)	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度 (B)	増減 (B - A)
資産 (①)	9,110,738	8,828,617	8,456,447	8,424,852	8,144,023	7,817,203	△ 1,293,535
固定資産	8,717,199	8,443,874	8,179,048	8,011,476	7,754,995	7,496,225	△ 1,220,974
流動資産	393,539	384,743	277,398	413,375	389,028	320,978	△ 72,561
負債	1,896,824	1,849,475	1,634,101	1,716,536	1,665,611	1,520,651	△ 376,173
固定負債	1,543,100	1,480,715	1,444,632	1,462,434	1,398,433	1,306,957	△ 236,143
資産見返負債	1,514,094	1,468,357	1,422,718	1,396,785	1,349,678	1,253,237	△ 260,857
長期リース債務	29,005	12,357	21,913	65,649	48,755	53,719	24,714
流動負債	353,724	368,760	189,469	254,101	267,177	213,693	△ 140,031
リース債務	22,807	16,647	12,363	25,012	22,704	32,191	9,384
その他	330,917	352,113	177,106	229,089	244,473	181,502	△ 149,415
資本 (②)	7,213,913	6,979,141	6,822,345	6,708,315	6,478,411	8,530,220	1,316,307
自己資本比率 (②/①)	79%	79%	81%	80%	80%	109%	

※項目ごとに千円未満を切り捨てているため、合計が一致しない場合がある。

(出典 貸借対照表)

2. 土地と建物の状況

(単位：㎡)

区分	法人設立時 (A)	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度 (B)	増減 (B - A)
土地	96,854	96,359	96,359	96,359	96,359	96,359	96,359	△ 495
建物	35,750	35,750	37,074	37,074	37,074	37,074	37,074	1,324

(出典 不動産登記簿)

3. 自己収入の状況

(単位：千円)

年度	学生納付金収入				雑収入	計
	授業料	入学金	検定料	小計		
H24年度	571,732	115,410	28,528	715,670	41,572	757,242
H25年度	569,211	114,528	21,598	705,337	39,114	744,451
H26年度	557,244	111,147	26,651	695,042	39,177	734,219
H27年度	548,357	120,698	26,401	695,456	38,063	733,519
H28年度	576,450	116,608	23,699	716,757	37,355	754,112
H29年度	586,315	118,445	22,141	726,901	36,790	763,691

(出典 損益計算書)

4. 外部研究資金の獲得状況

(単位：千円)

年度	科学研究費補助金		受託研究・共同研究資金		その他補助金		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
H24年度	32	52,542	8	2,944	3	46,297	43	101,783
H25年度	30	42,900	8	2,605	2	40,357	40	85,862
H26年度	38	59,355	4	2,854	4	44,095	46	106,304
H27年度	34	44,200	2	700	3	33,504	39	78,404
H28年度	35	38,959	3	1,200	4	17,101	42	57,260
H29年度	30	34,450	2	7,328	4	2,439	36	44,217

5. 収支状況

(単位：千円)

区分	H 2 4 年度	H 2 5 年度	H 2 6 年度	H 2 7 年度	H 2 8 年度	H 2 9 年度
経常費用	1,959,466	1,921,915	1,757,698	1,794,315	1,887,027	1,890,902
経常収益	1,923,017	1,887,408	1,820,261	1,874,513	1,851,678	1,878,566
経常利益	△ 36,449	△ 34,507	62,563	80,197	△ 35,348	△ 12,336
臨時損失	5,516	366	1,334	880	3,392	53,320
臨時利益	5,516	386	1,334	880	3,392	79,093
目的積立金取崩額	17,772	35,819	0	0	36,340	0
当期総利益	△ 18,676	1,332	62,562	80,197	992	13,436

(出典 損益計算書)

6. 教育研究経費の状況

(単位：千円)

区分	教育経費	研究経費				教育研究 支援経費	合計
		個人研究費	研究奨励交付金	その他	計		
H 2 4 年度	150,491	44,572	19,103	22,572	86,247	47,993	284,731
H 2 5 年度	162,110	44,572	19,103	23,675	87,350	49,238	298,698
H 2 6 年度	176,438	39,983	17,136	22,733	79,852	48,532	304,822
H 2 7 年度	172,478	35,985	15,423	28,097	79,505	48,072	300,055
H 2 8 年度	186,160	35,985	15,423	30,991	82,399	47,929	316,488
H 2 9 年度	189,794	35,985	15,423	29,409	80,817	48,333	318,944

(出典 収支計画予算)

〈付録〉

1. 平成 29 年度における主な取組

(1) 学部

- ・全学共通科目の再編成として科目の削減及び次年度開講のキャリア形成支援 2 科目の準備を行った。また、全学横断型関連科目として新たに 4 科目を開講し教育プログラムの充実を図った。
- ・教養演習において学生の思考力・表現力をより高めるために、共通テキストの内容を改善し改訂を行った。また、グローバル社会への対応を促す指導を目的とした新科目「グローバル社会論」を開講した。
- ・人間社会学部において、公認心理師受験資格並びに幼稚園教諭養成課程における再課程認定のために大幅なカリキュラムの改変を行った。
- ・コンソーシアムで取組んだ、文部科学省大学間連携共同教育推進事業(平成 24～28 年度)の事後評価において、コンソーシアムでの取組の継続発展が期待できると評価され「S 評価」を獲得した。また、事業終了後もコンソーシアムとして単位互換に関する包括協定を再締結し事業を継続している。
- ・看護師および保健師国家試験合格率 100.0%、看護学部就職率 100.0%を達成し、いずれも目標値を上回る高い実績をあげることができた。
- ・授業自己評価・対応プランを導入し、対応プランを公開した。また、授業参観を促進するため、授業参観ウィークを導入した。
- ・昨年に引き続きドイツにおける専門職養成教育についての研修を実施した。28 年度は施設長の立場から、29 年度は大学の立場からソーシャルワーカー等の専門職教育のプログラムを報告してもらい、意見交換することができた。
- ・両学部における辞退率が低下した。
- ・学生フェスティバルにおいて圏域を超えた交流が行われている。また、ナーシング・キャリアカフェと合同短期研修を共同教育推進事業からの継続事業として展開支援し、大学を超えた学生間のみならず卒業生等との交流が図られている。
- ・図書館充実のために図書館セミナーを実施した。また、機関リポジトリ登録件数が目標を大きく上回った。
- ・全学横断型教育プログラムのうち保健福祉情報とキャリア形成支援の両プログラムについて、卒論に至るカリキュラムを作成し、保健福祉情報教育プログラムではゼミを開設した。

(2) 大学院

- ・人間社会学研究科では、子ども教育専攻を開設し、申請カリキュラムを着実に実施した。また、公認心理師受験資格のための大幅なカリキュラム改変を行った。
- ・充足率が 100%となった。

2. 沿革

昭和 20 年 4 月	福岡県立保健婦学校設置
昭和 27 年 7 月	福岡県立保育専門学院設置
昭和 27 年 9 月	福岡県立保健婦学校を福岡県立保健婦養成所に再編
昭和 29 年 4 月	福岡県立保母養成所と改称する。(県直営となる。)
昭和 37 年 4 月	福岡県立保健婦養成所を福岡県立公衆衛生看護学校と改称
昭和 42 年 4 月	県下に分散していた福岡教育大学(国立)が昭和 41 年に宗像市に統合されたことにより、同大学田川分校跡地に、上記保母養成所を発展的に解消し、福岡県社会保育短期大学(保育科、社会福祉科)を開学
昭和 46 年 4 月	福岡県立公衆衛生看護学校を福岡県立看護専門学校(看護婦科(進学課程)、保健婦・助産婦科)に再編
昭和 53 年 4 月	上記短期大学に附属幼稚園を開園
昭和 56 年 4 月	短期大学校舎の全面改築(昭和 59 年 3 月)
昭和 58 年 11 月	すずかけ寮完成(30 室)
昭和 63 年 1 月	「福岡県社会保育短期大学問題協議会」を設置。同年 12 月、同短大の四年制への移行について「社会福祉の新しい動向に対応しうる人材養成及び地域振興に資するため、新しい構想のもとに四年制大学を設置すること」との答申を発表(昭和 63 年 12 月)
平成 2 年 4 月	福岡県総務部私学学事振興局内に「四年制大学移行準備室」を設置
平成 2 年 5 月	「四年制大学移行準備委員会」を設置し、新大学の基本構想・カリキュラム・教員組織等につき検討開始
平成 3 年 6 月	文部省に対して、福岡県立大学(人間社会学部)の設置認可を申請
平成 3 年 12 月	文部省により、福岡県立大学の設置許可を受ける
平成 4 年 4 月	福岡県立大学(人間社会学部)開学 福岡県社会保育短期大学附属幼稚園を福岡県立大学附属幼稚園に改称
平成 5 年 3 月	福岡県社会保育短期大学閉学
平成 6 年 4 月	福岡県立大学附属図書館、新築開館
平成 6 年 11 月	中国南京師範大学との学術・教育交流に関する協定の締結
平成 7 年 3 月	心理学実験棟完成
平成 8 年 2 月	中国南京師範大学と短期留学生(1 年)交流開始
平成 8 年 3 月	第 2 キャンパス(運動場)完成
平成 8 年 6 月	文部省に対し、福岡県立大学大学院(人間社会学研究科・修士課程)の設置認可を申請
平成 8 年 12 月	文部省より、福岡県立大学大学院の設置許可を受ける。
平成 9 年 4 月	福岡県立大学大学院人間社会学研究科(人間社会学研究科・修士課程)開設
平成 9 年 6 月	「福岡県看護教育高度化検討委員会」設置。同年 11 月、報告書を知事に提出
平成 9 年 12 月	「県立看護大学(学部)設立準備委員会」設置
平成 10 年 3 月	福岡県立大学附属幼稚園を廃園
平成 10 年 4 月	福岡県立大学生涯福祉研究センター(学内組織)を設置
平成 10 年 7 月	「県立看護大学(学部)設立準備委員会専門部会」設置
平成 11 年 2 月	「福岡県立大学看護学部(仮称)基本計画」策定
平成 11 年 4 月	福岡県総務部私学学事振興局内に「看護学部開設準備室」設置
平成 12 年 3 月	「福岡県立大学看護学部施設整備基本計画」策定

平成 14 年 4 月	文部科学省に対し、福岡県立大学看護学部の設置認可を申請
平成 14 年 9 月	文部科学省に対し、福岡県立大学看護学部の看護師・保健師・助産師学校指定を申請。また、養護教諭 1 種免許状授与の所要資格を得させるための課程認定を申請。
平成 14 年 12 月	文部科学省より、福岡県立大学看護学部の設置許可を受ける。
平成 14 年 12 月	アザレア寮完成(100 室)
平成 15 年 3 月	看護学部棟、講堂・管理棟、大講義室、福利厚生棟完成
平成 15 年 3 月	福岡県立看護専門学校閉校
平成 15 年 4 月	福岡県立大学看護学部開設
平成 18 年 4 月	公立大学法人福岡県立大学へ移行
平成 18 年 4 月	福岡県立大学附属研究所を設置
平成 18 年 4 月	福岡県立大学附属研究所内にヘルスプロモーション実践研究センターを設置
平成 18 年 6 月	文部科学省に対して、福岡県立大学大学院（看護学研究科・修士課程）の設置認可を申請
平成 18 年 9 月	韓国大邱韓医大学校との学術交流に関する協定の締結
平成 18 年 9 月	文部科学省に対して、福岡県立大学大学院（人間社会学研究科・修士課程）の再編届出
平成 18 年 11 月	韓国大邱韓医大学校との学生交流に関する協定の締結
平成 18 年 11 月	文部科学省が、福岡県立大学大学院（人間社会学研究科）の再編届出を受理
平成 18 年 11 月	文部科学省より、福岡県立大学（看護学研究科）の設置許可を受ける。
平成 19 年 4 月	福岡県立大学大学院看護学研究科（看護学研究科・修士課程）開設
平成 19 年 4 月	福岡県立大学大学院人間社会学研究科の再編
平成 19 年 9 月	福岡県立大学附属研究所内に不登校・ひきこもりサポートセンターを設置
平成 19 年 10 月	生涯福祉研究センター内に心理教育相談室を設置
平成 20 年 11 月	福岡県立大学看護実践教育センターを設置
平成 21 年 4 月	福岡県立大学生涯福祉研究センターの心理教育相談室を教育機関の実習施設に位置づけるため福岡県立大学大学院の施設に変更
平成 21 年 4 月	人間社会学部「社会学科」を「公共社会学科」へ名称変更
平成 21 年 11 月	タイ国コンケン大学との国際的な学術協力に関する覚書の締結
平成 21 年 11 月	北京中医薬大学との学術・教育・文化交流に関する協定の締結
平成 21 年 12 月	福岡県立大学附属研究所内に社会貢献・ボランティア支援センターを設置
平成 22 年 5 月	韓国・三育大学校との学術・教育・文化交流に関する協定の締結
平成 22 年 10 月	田川市との包括的連携に関する協定締結
平成 23 年 3 月	福岡県立大学と田川市が申請した生涯福祉研究センター管理の山本作兵衛日記・雑記帳（66 点）絵画（4 点）が日本初のユネスコ世界記憶遺産に登録
平成 23 年 7 月	看護学部編入学募集停止を決定
平成 23 年 10 月	看護学部における助産師養成課程の廃止、同課程の大学院への移行及び保健師養成課程選択制移行を決定
平成 23 年 12 月	第 1 期公立大学法人職員採用を決定
平成 24 年 3 月	附属研究所棟完成
平成 24 年 3 月	福岡県立大学創立 20 周年記念式典開催
平成 25 年 5 月	田川市郡 1 市 6 町 1 村との包括連携に関する協定締結

平成 26 年 5 月	文部科学省に対して、福岡県立大学大学院看護学研究科の課程変更（助産師課程の開設）を申請
平成 26 年 8 月	文部科学省より福岡県立大学大学院看護学研究科の課程変更（助産師課程の開設）の承認を受ける
平成 27 年 4 月	福岡県立大学大学院看護学研究科助産師過程を開設
平成 27 年 7 月	大学院人間社会学研究科地域教育支援専攻の募集停止を決定
平成 27 年 11 月	韓国威徳大学との学術・教育交流に関する覚書を締結
平成 28 年 4 月	文部科学省に対し、大学院人間社会学研究科地域教育支援専攻の廃止を届出
平成 28 年 4 月	中国吉林大学珠海学院との学術・教育交流に関する覚書を締結
平成 28 年 6 月	附属研究所の改組（研究推進部の設置、社会貢献・ボランティア支援センターの独立組織化）
平成 28 年 9 月	文部科学省に対し、大学院人間社会学研究科子ども教育専攻の設置届出を届出
平成 28 年 11 月	文部科学省が、大学院人間社会学研究科子ども教育専攻の設置届出を受理

3. 歴代学長及び名誉教授一覧

歴代学長

福岡県立大学

代	氏名	在職期間
初代	安藤 延男	平成 4 年 4 月 1 日～平成 10 年 3 月 31 日
第 2 代	保田井 進	平成 10 年 4 月 1 日～平成 14 年 3 月 31 日
第 3 代	橋口 捷久	平成 14 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日

公立大学法人 福岡県立大学

代	氏名	在職期間
初代	名和田 新	平成 18 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
第 2 代	柴田 洋三郎	平成 24 年 4 月 1 日～

名誉教授

授与番号	職名	氏名	退職年月日	称号授与日
第 1 号	教授	荒巻 正憲	平成 8 年 3 月 31 日	平成 9 年 5 月 8 日
第 2 号	教授	清水 正照	平成 9 年 3 月 31 日	平成 9 年 5 月 8 日
第 3 号	教授	中川 哲也	平成 9 年 3 月 31 日	平成 9 年 5 月 8 日
第 4 号	教授	安部 博純	平成 9 年 3 月 31 日	平成 9 年 5 月 8 日
第 5 号	学長	安藤 延男	平成 10 年 3 月 31 日	平成 10 年 6 月 11 日
第 6 号	教授	武内 勝彦	平成 10 年 3 月 31 日	平成 10 年 6 月 11 日
第 7 号	教授	阿部 洋	平成 12 年 3 月 31 日	平成 12 年 6 月 14 日
第 8 号	教授	杉田 峰康	平成 13 年 3 月 31 日	平成 13 年 5 月 30 日
第 9 号	教授	奥村 幸夫	平成 19 年 3 月 31 日	平成 20 年 4 月 4 日
第 10 号	教授	宮崎 昭夫	平成 20 年 3 月 31 日	平成 21 年 4 月 17 日
第 11 号	学長	橋口 捷久	平成 19 年 3 月 31 日	平成 22 年 4 月 21 日
第 12 号	教授	清田 勝彦	平成 22 年 3 月 31 日	平成 22 年 4 月 21 日
第 13 号	教授	西岡 健治	平成 23 年 3 月 31 日	平成 23 年 10 月 25 日
第 14 号	教授	小松 啓子	平成 26 年 3 月 31 日	平成 26 年 6 月 24 日
第 15 号	教授	久永 明	平成 26 年 3 月 31 日	平成 26 年 6 月 24 日
第 16 号	教授	古橋 啓介	平成 26 年 3 月 31 日	平成 26 年 6 月 24 日
第 17 号	教授	茂木 豊	平成 26 年 3 月 31 日	平成 26 年 6 月 24 日
第 18 号	学長	名和田 新	平成 24 年 3 月 31 日	平成 28 年 3 月 31 日
第 19 号	教授	森山 沾一	平成 24 年 3 月 31 日	平成 28 年 3 月 31 日
第 20 号	教授	鬼崎 信好	平成 24 年 3 月 31 日	平成 28 年 3 月 31 日

第21号	教授	文屋 俊子	平成28年3月31日	平成28年3月31日
第22号	教授	秦 和彦	平成28年3月31日	平成28年3月31日
第23号	教授	甲斐 彰	平成23年3月31日	平成28年11月1日
第24号	教授	藤山 正二郎	平成24年3月31日	平成28年11月1日
第25号	教授	平野 泰朗	平成22年3月31日	平成28年11月1日

4. 学年暦

平成 29 年度 学部学年暦

前 期

2017 (平成29) 年	
4月 1日(土)	前期始まり
4月 4日(火)	入 学 式
4月 4日(火)・5日(水) 6日(木)	学生定期健康診断
4月 5日(水)・6日(木)	オリエンテーション
4月 7日(金)～8日(土)	新入生合宿フォーラム
4月 7日(金)	前期履修登録締切日 (新入生を除く)
4月10日(月)	前期授業開始
4月11日(火)	前期履修登録締切日(新入生)
4月14日(金)	前期履修登録修正締切日
4月22日(土)	補講日
5月10日(水)	開学記念日
5月13日(土)	補講日
5月27日(土)	補講日
6月10日(土)	補講日
6月12日(月)～16日(金)	前期履修登録取消期間
6月16日(金)	看護学部各論実習終了(4年生)
6月24日(土)	補講日
6月26日(月) ～6月30日(金)	基礎看護学実習Ⅰ (看護学部1年生)
7月 8日(土)	補講日
7月22日(土)	補講日
7月25日(火)	特別補講日
7月28日(金)	前期通常授業終了
7月31日(火) ～8月 4日(金)	前期試験期間
8月 5日(土)	オープンキャンパス
8月 7日(月) ～9月30日(土)	夏季休業
8月14日(月)～18日(金)	集中講義第1週
8月16日(水)	成績揭示(合否のみ)
8月16日(水)～18日(金)	再試験願提出期間
8月21日(月)～25日(金)	集中講義第2週
8月28日(月) ～9月 8日(金)	基礎看護学実習Ⅱ(前半グループ) (看護学部2年生)
9月13日(水)	前期成績表交付
9月13日(水)～15日(金)	成績質問期間
9月29日(金)	後期履修登録締切日
9月30日(土)	前期終了

後 期

10月 1日(日)	後期始まり
10月 2日(月)	後期授業開始
10月 6日(金)	後期履修登録修正締切日
10月10日(火)～20日(金)	基礎看護学実習Ⅱ(後半グループ) (看護学部2年生)
10月14日(土)	補講日
10月28日(土)	補講日
11月 4日(土)	補講日
11月10日(金)	全学休講
11月11日(土)～12日(日)	大学祭(秋興祭)
11月18日(土)	補講日
11月25日(土)	推薦入試
12月 4日(月)～8日(金)	後期履修登録取消期間
12月 9日(土)	補講日
12月20日(水)	社会福祉学科卒業論文提出日
12月20日(水)	看護学部卒業研究提出日
12月25日(月)～1月 4日(木)	冬季休業
2018 (平成30) 年	
1月 5日(金)	授業再開
1月12日(金)	全学休講
1月13日(土)～14日(日)	センター試験
1月20日(土)	補講日
1月22日(月)	公共社会学科卒業論文提出日
1月22日(月)	人間形成学科卒業論文提出日
1月27日(土)	補講日
2月 2日(金)	後期通常授業終了
2月 5日(月)	特別補講日
2月 6日(火)	人間社会学部卒業論文発表会
2月 7日(水)～14日(水)	後期試験期間
2月19日(月)	卒業予定者成績揭示日(合否のみ)
2月19日(月)～23日(金)	後期集中講義
2月22日(木)	卒業予定者成績表交付
2月22日(木)～26日(月)	卒業予定者成績質問期間
2月25日(日)	一般入試前期日程
2月28日(水)	在学生成績揭示日(合否のみ)
2月28日(水)～3月 2日(金)	再試験願提出期間(在学生)
3月12日(月)	一般入試後期日程
3月16日(金)	卒 業 式
3月20日(火)	在学生後期成績表交付
3月20日(火)～23日(金)	在学生成績質問期間
3月31日(土)	後期終了

平成 29 年度 大学院学年暦

前 期

2017 (平成 29) 年

4月 4日(火) 入学式・オリエンテーション・健康診断
(人間社会学研究科 2 年生を除く)

4月 6日(木) 健康診断 (人間社会学研究科 2 年生)

4月 10日(月) 前期授業開始

4月 21日(金) 「研究指導教員届」提出期限 (看護学研究科)

4月 21日(金) 「研究指導教員届」提出期限 (人間社会学研究科)

4月 21日(金) 前期履修登録締切

5月 17日(水) 前期研究計画発表会 (看護学研究科)

5月 26日(金) 「修士論文題目届」提出期限 (看護学研究科)

6月 1日(木) 「研究計画書」提出期限 (看護学研究科)

6月 12日(月)～
16日(金) 前期履修登録取消期間

6月 16日(金) 「修士論文題目届」提出期限 (人間社会学研究科)

6月 22日(木) 秋季修了予定者修士論文提出期限 (看護学研究科)

6月 27日(火) 秋季修了予定者修士論文提出期限 (人間社会学研究科)

7月 5日(水) 修士論文中間発表会 (人間社会学研究科 心理臨床専攻・子ども教育専攻)

7月 14日(金) 秋季修了予定者修士論文の修正と提出 (最終) (看護学研究科)

7月 28日(金) 前期通常授業終了日

8月 5日(土) オープンキャンパス

8月 10日(木)～
9月 30日(土) 夏季休業

8月 14日(月)～
18日(金) 集中講義第一週

8月 21日(月)～
25日(金) 集中講義第二週

9月 6日(水) 秋季修了判定会議 (人間社会学研究科)

9月 13日(水) 秋季修了判定会議 (看護学研究科)

9月 13日(水) 前期成績表交付

9月 13日(水)～
15日(金) 成績質問期間

9月 20日(水) 後期研究計画発表会 (看護学研究科)

9月 23日(土) 秋のオープンキャンパス

9月下旬 秋季修了大学院修士学位記授与式

9月 29日(金) 後期履修登録締切

9月 30日(土) (糖尿病看護認定看護師教育課程入学試験)

後 期

10月 2日(月) 後期授業開始

10月 6日(金) 後期履修登録修正締切

10月上旬 研究構想・研究計画発表会、修士論文中間発表会 (人間社会学研究科 社会福祉専攻)

10月 16日(月) 「研究計画書」提出期限 (看護学研究科)

10月 16日(月) 「修士論文題目届」および「研究計画書」提出期限 (人間社会学研究科 心理臨床専攻・子ども教育専攻)

10月 21日(土) 大学院秋季入学試験

11月 8日(水) 「修士論文題目届」および「研究計画書」提出期限 (人間社会学研究科 社会福祉専攻)

11月 11日(土)～
12日(日) 大学祭

11月 25日(土) (大学; 推薦・転編入・社会人・国外就学経験者入学試験)

12月 4日(月)～
8日(金) 後期履修登録取消期間

12月 22日(金)～
1月 4日(木) 冬季休業

2018 (平成 30) 年

1月 5日(金) 授業再開

1月 13日(土)～
14日(日) (大学入試センター試験)

1月 16日(火) 修士論文提出期限 (人間社会学研究科)

1月 18日(木) 修士論文提出期限 (看護学研究科)

1月下旬～2月中旬 修士論文口頭試問 (看護学研究科)

1月 24日(水) 修士論文口述試験 (人間社会学研究科)

2月 2日(金) 後期通常授業終了日

2月 3日(土) 大学院春季入学試験

2月 9日(金) 修士論文再提出期限 (人間社会学研究科)

2月 9日(金) 修士論文再提出期限 (看護学研究科)

2月 19日(月)～
23日(金) 後期集中講義

2月 21日(水) 修了判定会議 (人間社会学研究科)

2月 21日(水) 修了判定会議 (看護学研究科)

2月 22日(木) 修了予定者成績表交付

2月 22日(木)～
26日(月) 修了予定者成績質問期間

2月 25日(日) (一般入学試験 前期日程)

3月 5日(月) 修士論文発表会 (看護学研究科)

3月 7日(水) 修士論文発表会 (人間社会学研究科)

3月 12日(月) (一般入学試験 後期日程)

3月 16日(金) 大学院第 20 回修士学位記授与式 (大学第 23 回卒業式)

3月 20日(火) 在学生成績表交付

3月 22日(木)～
23日(金) 成績質問期間

5. 授業時間割 (学部)

平成29年度時間割【前期】

Table with columns for year, semester, course type, and course details. Rows are organized by semester (1st, 2nd) and subject area (Public Health, Nursing, etc.).

〇は必修科目、(全)は全学共通(教養)科目、※は人間社会学部共通専門科目を表す。上記時間割は変更になることがあります。

平成29年度時間割【後期】

期日	学年	1限				2限				3限				4限				5限			
		8:50~10:20				10:30~12:00				12:50~14:20				14:30~16:00				16:10~17:40			
月	公	1	公	(全)憲法	森脇	3212	○社会学概論	田代	3319	○社会心理学	上野	大講義室 LL	(全)環境科学B	久永	3212	国際協力論	佐野	3203			
				(全)統計学	未定	大講義室	○相談援助の基礎と専門職Ⅱ	本郷	3212	○社会心理学	上野	大講義室	(全)日本近現代史	有谷	3109	(全)心理学	上野	大講義室			
	公	2	公	地域福祉Ⅰ	村山	3319	独語Ⅱ-(2)	古賀	5102	○看護生化学	宇川	4201	(全)グローバル社会論	3319	イスラム社会論	田中智	3204				
				データベース論	柴田理	大講義室	中国語Ⅱ-(2)A	ハオ	1318	相談援助の理論と方法C	奥村	3109	社会教育論	木田	3319	(全)グローバル社会論	3319				
	公	3	公	中国語Ⅲ-(2)	ハオ	LL	中国語Ⅱ-(2)A	ハオ	1318	社会教育論	木田	3319	(全)グローバル社会論	3319	○英語Ⅲ-(2)	ゲイル	LL				
				中国語Ⅲ-(2)	金	5103	中国語Ⅱ-(2)A	ハオ	1318	社会教育論	木田	3319	社会教育論	木田	3319	○英語Ⅲ-(2)	ゲイル	LL			
	火	公	1	公	教師論	藤澤	3207	○英語Ⅱ-(2)	水野	LL	○英語Ⅰ-(2)A	ストット	5102	中国語Ⅰ-(2)A	ハオ	3109	中国語Ⅰ-(2)B	ハオ	3109		
					社会保険論Ⅱ	坂本	5101	○英語Ⅰ-(2)A	ストット	5102	○英語Ⅱ-(2)	水野	LL	中国語Ⅰ-(2)A	ハオ	3109	中国語Ⅰ-(2)B	ハオ	3109		
		公	2	公	国際社会学B	佐野	3204	中国語Ⅱ-(2)B	ハオ	1318	東アジア関係史	岡本	3109	中国語Ⅰ-(2)A	ハオ	3109	中国語Ⅰ-(2)B	ハオ	3109		
					造形Ⅱ	櫻井	造形室	中国語Ⅱ-(2)B	ハオ	1318	東アジア関係史	岡本	3109	中国語Ⅰ-(2)A	ハオ	3109	中国語Ⅰ-(2)B	ハオ	3109		
		公	3	公	成人急性看護学	2401	成人急性看護学	2401	成人急性看護学	2401	成人急性看護学	2401	成人急性看護学	2401	成人急性看護学	2401	成人急性看護学	2401	成人急性看護学	2401	
					成人慢性看護学	2401	成人慢性看護学	2401	成人慢性看護学	2401	成人慢性看護学	2401	成人慢性看護学	2401	成人慢性看護学	2401	成人慢性看護学	2401	成人慢性看護学	2401	成人慢性看護学
水		公	1	公	日本語上級B	伊藤	3103	日本語会話B	伊藤	3104	日本語中級B	伊藤	3103	日本語上級B	伊藤	3103	日本語中級B	伊藤	3104		
					(全)経済学B	許	3109	(全)現代社会と福祉	池	3212	(全)現代社会と福祉	池	3212	(全)現代社会と福祉	池	3212	(全)現代社会と福祉	池	3212	(全)現代社会と福祉	池
		公	2	公	英語Ⅲ-(2)	ゲイル	LL	家族社会学B	倉富	3212	家族社会学B	倉富	3212	家族社会学B	倉富	3212	家族社会学B	倉富	3212		
					公的扶助論	伊勢	3203	教育方法論	松浦	4201	教育方法論	松浦	4201	教育方法論	松浦	4201	教育方法論	松浦	4201	教育方法論	松浦
		公	3	公	老年心理学	奥島	3202	英語Ⅳ-(2)	水野	3319	相談援助実習指導	別途	別途	相談援助実習指導	別途	別途	相談援助実習指導	別途	別途		
					卒業研究	各担当	別途	職業実践演習(看護教諭)	松浦・浦田	5103	職業実践演習(看護教諭)	松浦・浦田	5103	職業実践演習(看護教諭)	松浦・浦田	5103	職業実践演習(看護教諭)	松浦・浦田	5103	職業実践演習(看護教諭)	松浦・浦田
	木	公	1	公	社会政策論	美谷	3204	社会政策論	美谷	3204	社会政策論	美谷	3204	社会政策論	美谷	3204	社会政策論	美谷	3204		
					人権心理学	西岡	大講義室	発達心理学Ⅱ	池	3212	発達心理学Ⅱ	池	3212	発達心理学Ⅱ	池	3212	発達心理学Ⅱ	池	3212	発達心理学Ⅱ	池
		公	2	公	基礎看護技術(2コマ連続)	水嶋・酒野・加藤・藤野・於久	5303-5304	基礎看護技術(2コマ連続)	水嶋・酒野・加藤・藤野・於久	5303-5304	基礎看護技術(2コマ連続)	水嶋・酒野・加藤・藤野・於久	5303-5304	基礎看護技術(2コマ連続)	水嶋・酒野・加藤・藤野・於久	5303-5304	基礎看護技術(2コマ連続)	水嶋・酒野・加藤・藤野・於久	5303-5304		
					教育心理学概論	福田	3202	○英語Ⅲ-(2)	ゲイル	LL	○英語Ⅲ-(2)	ゲイル	LL	○英語Ⅲ-(2)	ゲイル	LL	○英語Ⅲ-(2)	ゲイル	LL	○英語Ⅲ-(2)	ゲイル
		公	3	公	英語Ⅳ-(2)	水野	3319	相談援助実習指導	別途	別途	相談援助実習指導	別途	別途	相談援助実習指導	別途	別途	相談援助実習指導	別途	別途		
					体育Ⅱ	池田	3202	保育内容・健康Ⅱ	秋吉	5102	保育内容・健康Ⅱ	秋吉	5102	保育内容・健康Ⅱ	秋吉	5102	保育内容・健康Ⅱ	秋吉	5102	保育内容・健康Ⅱ	秋吉
金		公	1	公	情報処理応用演習	柴田理	大講義室	健康科学実習Ⅱ	池田・中野	大講義室	健康科学実習Ⅱ	池田・中野	大講義室	健康科学実習Ⅱ	池田・中野	大講義室	健康科学実習Ⅱ	池田・中野	大講義室		
					健康科学実習ⅡA	池田・中野	大講義室	健康科学実習ⅡB	池田・中野	大講義室	健康科学実習ⅡC	池田・中野	大講義室	健康科学実習ⅡD	池田・中野	大講義室	健康科学実習ⅡE	池田・中野	大講義室	健康科学実習ⅡF	池田・中野
		公	2	公	暮らしの経済学	許	3109	質的調査法	中村	3109	質的調査法	中村	3109	質的調査法	中村	3109	質的調査法	中村	3109		
					相談援助	杉野寿	3203	相談援助実習指導	別途	別途	相談援助実習指導	別途	別途	相談援助実習指導	別途	別途	相談援助実習指導	別途	別途	相談援助実習指導	別途
		公	3	公	外書購読B	田中智	3207	集合行動論	三隅	3204	集合行動論	三隅	3204	集合行動論	三隅	3204	集合行動論	三隅	3204		
					社会福祉特講A	松岡	3212	精神保健福祉論Ⅱ	住友	3207	精神保健福祉論Ⅱ	住友	3207	精神保健福祉論Ⅱ	住友	3207	精神保健福祉論Ⅱ	住友	3207	精神保健福祉論Ⅱ	住友
	土	公	1	公	日本語上級B	伊藤	3103	日本語会話B	伊藤	3104	日本語中級B	伊藤	3103	日本語上級B	伊藤	3103	日本語中級B	伊藤	3104		
					情報処理応用演習	柴田理	大講義室	健康科学実習Ⅱ	池田・中野	大講義室	健康科学実習Ⅱ	池田・中野	大講義室	健康科学実習Ⅱ	池田・中野	大講義室	健康科学実習Ⅱ	池田・中野	大講義室	健康科学実習Ⅱ	池田・中野
		公	2	公	暮らしの経済学	許	3109	質的調査法	中村	3109	質的調査法	中村	3109	質的調査法	中村	3109	質的調査法	中村	3109		
					相談援助	杉野寿	3203	相談援助実習指導	別途	別途	相談援助実習指導	別途	別途	相談援助実習指導	別途	別途	相談援助実習指導	別途	別途	相談援助実習指導	別途
		公	3	公	外書購読B	田中智	3207	集合行動論	三隅	3204	集合行動論	三隅	3204	集合行動論	三隅	3204	集合行動論	三隅	3204		
					社会福祉特講A	松岡	3212	精神保健福祉論Ⅱ	住友	3207	精神保健福祉論Ⅱ	住友	3207	精神保健福祉論Ⅱ	住友	3207	精神保健福祉論Ⅱ	住友	3207	精神保健福祉論Ⅱ	住友

○は必修科目、(全)は全学共通(教養)科目、※は人間社会学部共通選定科目を表す。上記時間割は変更になることがあります。

福岡県立大学 アニュアルレポート

平成 30 年 9 月 28 日 印刷

平成 30 年 9 月 28 日 発行

編 集 福岡県立大学 自己点検評価室

発 行 福岡県立大学

〒825-8585 福岡県田川市大字伊田 4395 番地

TEL (0947)42-2118 FAX (0947)42-6171

URL <http://www.fukuoka-pu.ac.jp>

